
平成28年度
大仙市男女共同参画に関する
市民意識調査報告書

大 仙 市

目 次

I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の概要

1. 男女平等に関する意識について
2. 家庭生活、育児、介護について
3. 仕事について
4. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
5. セクシュアル・ハラスメントについて
6. DV（配偶者等からの暴力）について
7. 男女共同参画社会実現に向けての取り組みについて
8. アンケート回答者のご意見（自由記載）

IV 調査票

■調査票の見方

1. 調査結果は百分率で表示した。百分率は少数第2位を四捨五入し算出した。従って、合計値が100%にならない場合がある。
2. 1つの質問に対して2つ以上の回答を求めている設問の百分率は、回答数を本調査の回答者数で割った数値である。
3. 図表中に〔N〕と記してあるのは、分類別各層の対象者総数である。
4. 「前回調査」「秋田県」「全国」との比較を行っている項目は、以下の調査結果を用いている。

前回調査：「大仙市男女共同参画社会に関する市民意識調査」（平成23年度）

秋田県：「秋田県男女の意識と生活実態調査」（平成24年度）

全 国：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（平成21年度）

：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（平成24年度）

：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（平成28年度）

I 調査の概要

I 調査の概要

■調査目的

市民の男女共同参画に関する意識や家庭・地域・職場などにおける実態の把握、また、今回は特に配偶者など親しい関係にある者からの暴力（ドメスティック・バイオレンス：以下、DVという。）の現状も把握することで、暴力による被害の防止、暴力の加害者や被害者にならない関係を築いていくための予防教育、被害者等への支援などについての課題を明らかにする。

これにより、これまでの事業効果等を検証すること、明らかになった課題をもとに今後の施策へ反映することを通して、男女がともにその個性と能力を十分に発揮し、喜びも責任も分かち合うことができる「ともに輝く男女共同参画のまち大仙市」の実現につなげていくことを目的とする。

■調査対象

- （１）調査地域 大仙市全域
- （２）調査対象 大仙市に居住する満２０歳以上７９歳以下の男女
- （３）標本数 ３，０００人（男女各１，５００人）
- （４）抽出方法 住民基本台帳から無作為に抽出
- （５）調査基準日 平成２８年６月１日

■調査期間

平成２８年７月１日～７月１５日

■調査方法

郵送返送法（無記名）

■調査項目

- （１）男女平等に関する意識について
- （２）家庭生活、育児、介護について
- （３）仕事について
- （４）ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
- （５）セクシュアル・ハラスメントについて
- （６）DV（配偶者等からの暴力）について
- （７）男女共同参画社会実現に向けての取り組みについて

■回答数

回収率 １，３６９人（４５．６３％）

有効回答のサンプル構成

(性別年齢別)

(人、%)

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	合計
男性	57	81	84	140	174	69	605
	9.4	13.4	13.9	23.1	28.8	11.4	100.0
女性	80	100	132	176	179	71	738
	10.8	13.6	17.9	23.8	24.3	9.6	100.0
合計	137	181	216	316	353	140	1343
	10.2	13.5	16.1	23.5	26.3	10.4	100.0

(性別年齢別職業別)

(人、%)

		自営業	フルタイム(常勤)の勤務	パートタイムの勤務	無職	無回答	合計
男性	20～29歳	7	37	4	9	0	57
		12.3	64.9	7.0	15.8	0.0	100.0
	30～39歳	12	59	5	3	2	81
		14.8	72.8	6.2	3.7	2.5	100.0
	40～49歳	12	66	2	3	1	84
		14.3	78.6	2.4	3.6	1.2	100.0
	50～59歳	28	102	3	7	0	140
		20.0	72.9	2.1	5.0	0.0	100.0
	60～69歳	60	37	19	53	5	174
		34.5	21.3	10.9	30.5	2.9	100.0
女性	70～79歳	24	5	6	34	0	69
		34.8	7.2	8.7	49.3	0.0	100.0
	男性合計	143	306	39	109	8	605
		23.6	50.6	6.4	18.0	1.3	100.0
	20～29歳	3	55	12	9	1	80
		3.8	68.8	15.0	11.3	1.3	100.0
	30～39歳	7	53	25	15	0	100
		7.0	53.0	25.0	15.0	0.0	100.0
	40～49歳	8	74	29	21	0	132
		6.1	56.1	22.0	15.9	0.0	100.0
女性	50～59歳	19	71	45	33	8	176
		10.8	40.3	25.6	18.8	4.5	100.0
	60～69歳	28	18	38	92	3	179
		15.6	10.1	21.2	51.4	1.7	100.0
	70～79歳	15	1	5	50	0	71
		21.1	1.4	7.0	70.4	0.0	100.0
	女性合計	80	272	154	220	12	738
		10.8	36.9	20.9	29.8	1.6	100.0
合計		223	578	193	329	20	1343
		16.6	43.0	14.4	24.5	1.5	100.0

■ 回答者の属性

(1) 性別年齢別

回答者 1343 人の属性をみることとする。

男女別でみると、男性は 605 人で 45.0%、女性は 738 人で 55.0%となっている。

年齢別では、「20 歳代」が 10.2%、「30 歳代」が 13.5%、「40 歳代」が 16.1%、「50 歳代」が 23.5%、「60 歳代」が 26.3%、「70 歳代」が 10.4%となっている。

図 1-1 性別

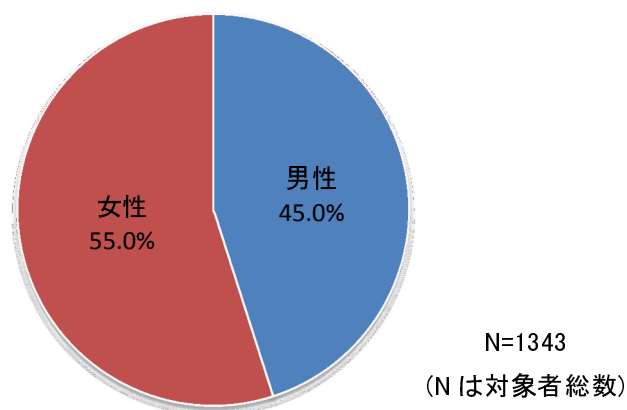
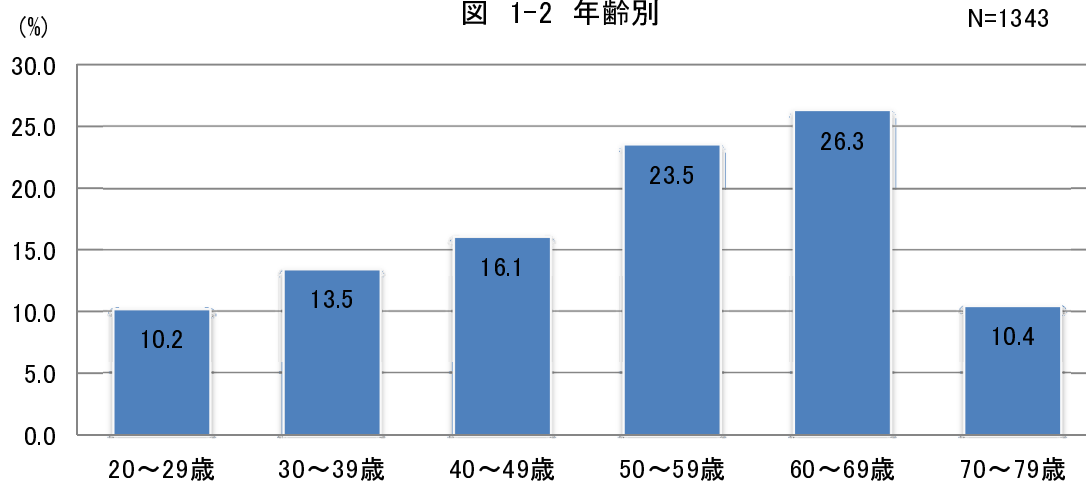


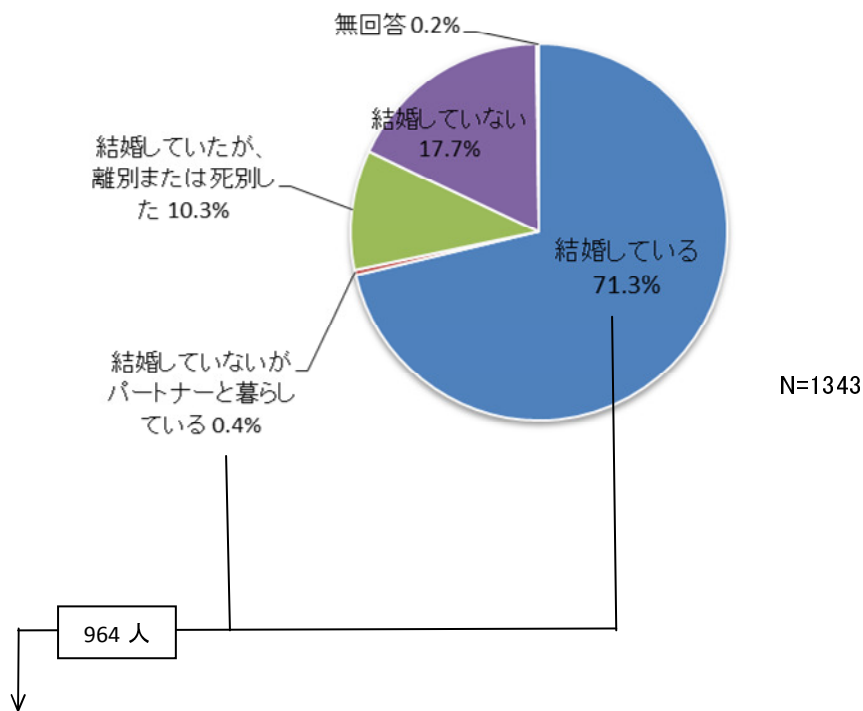
図 1-2 年齢別



(2)結婚の有無

「結婚している」が71.3%、「結婚していないがパートナーと暮らしている」が0.4%、「結婚していたが、離別または死別した」が10.3%、「結婚していない」が17.7%となっている。

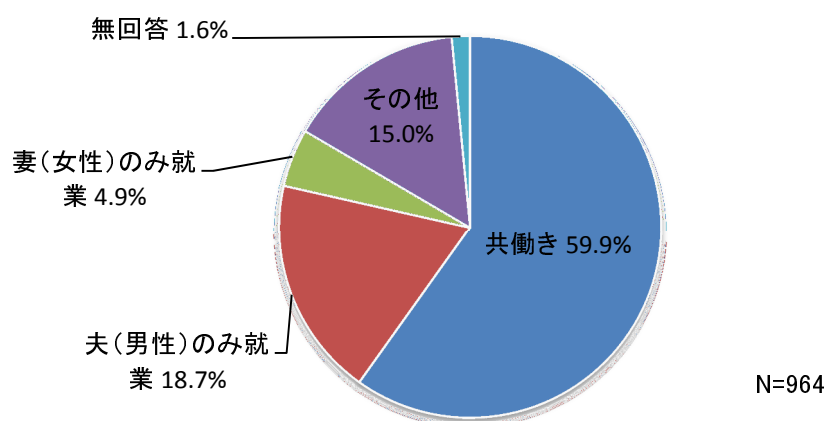
図 1-3 結婚の有無



(3)夫婦・パートナーの働き方

「結婚している」「結婚していないがパートナーと暮らしている」とした964人の働き方をみると、「共働き」が59.9%、「夫（男性）のみ就業」が18.7%、「妻（女性）のみ就業」が4.9%となっている。

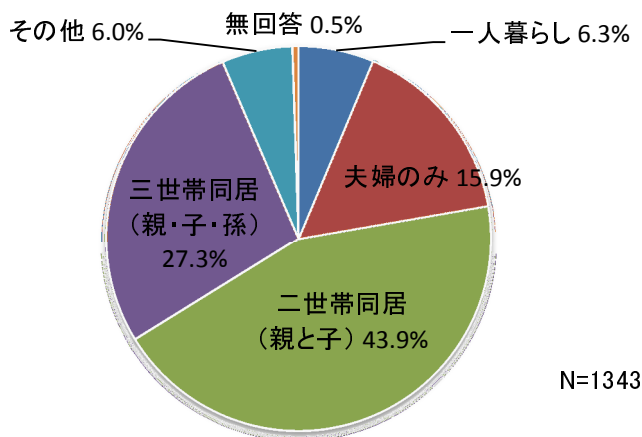
図 1-4 就業状況



(4)家族構成

家族構成は、「二世帯同居（親と子）」が 43.9%と半数近くを占め、「夫婦のみ」が 15.9%、「三世帯同居（親・子・孫）」が 27.3%、「一人暮らし」が 6.3%となっている。

図 1-5 家族構成

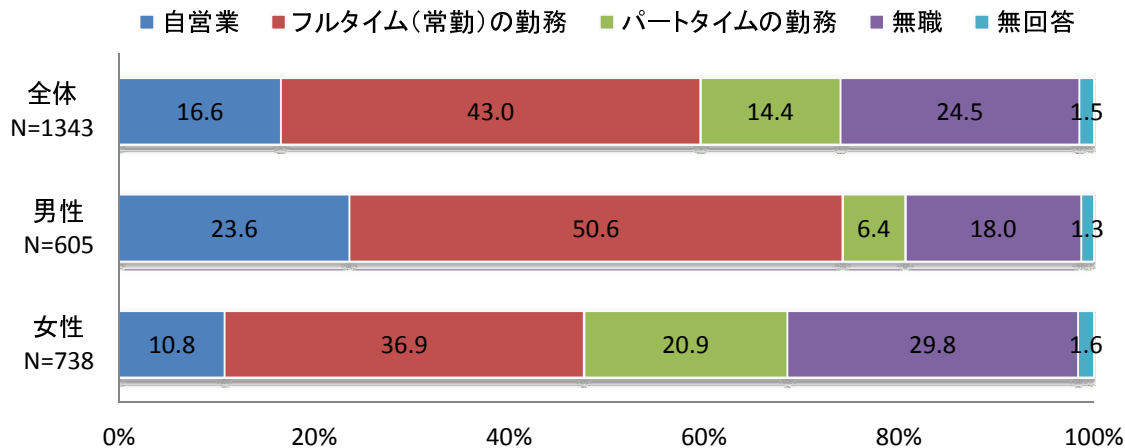


(5)職業

職業は「フルタイム（常勤）の勤務」が最も多く 43.0%、「自営業」が 16.6%、「パートタイムの勤務」が 14.4%となっている。

男性は「フルタイム（常勤）の勤務」が 50.6%と、女性と比べて 13.7 ポイント多い。女性は「無職」が 29.8%となっている。

図 1-6 職業



Ⅱ 調査結果の要約

Ⅱ 調査結果の要約

1. 男女平等に関する意識について

(1) 男女の地域の平等感

「家庭生活」「職場」「学校教育の場」「政治の場」「法律や制度上」「社会通念・慣習・しきたりなど」「自治会・町内会などの地域活動」の7つの分野で、「平等」とした割合は「学校教育の場」が60.5%と最も多く、次いで「家庭生活」が34.8%、「法律や制度上」が32.2%、「職場」が30.2%となっている。

男性優遇とした割合は、「政治の場」が19.4%と最も多く、「社会通念・慣習・しきたりなど」が15.1%、「職場」が10.4%、「自治会・町内会などの地域活動」が9.2%と続いている。

(2) 地域活動での男女の役割分担

地域活動での男女の役割分担について、「主な役職には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」が62.4%と最も多く、次いで「活動の準備や後かたづけなどは女性が行う慣行がある」が49.1%、「女性自身が役職に就きたがらなかったり、発言しない（少ない）」が48.9%となっている。

男女間で大きな違いはなく、今後も女性が地域活動に積極的に関わっていけるよう、地域全体で見直すとともに、女性自身の意識も変えていくよう啓発をしていくことが大切であると思われる。

(3) 男女共同参画に関する言葉の周知状況

「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法」「DV防止法」「ストーカー規制法」「セクシュアル・ハラスメント、マタニティハラスメント」の用語は、9割弱が知っていると答えており、関心の高さが窺える。「ワーク・ライフ・バランス」は、51.8%の方が「言葉も内容も知らない」と答えているものの、前回調査（63.8%）よりも認知度は上がっており、徐々に浸透してきていると考えられる。今後は、用語のみならず、その内容についても周知を図る必要があると思われる。

2. 家庭生活、育児、介護について

(1) 一日の時間の使い方

収入を得ている労働時間は、男性では「8時間以上」が67.8%を占め、女性は「8時間以上」が42.1%、「4～8時間未満」が19.4%となっている。

家事時間については、平日では、女性は「2～4時間未満」が41.1%、「4時間以上」が

34.4%と、2時間以上が7割を超えているのに対し、男性は「なし」が34.7%、「1時間未満」が19.0%、「1～2時間未満」が28.3%と、2時間未満が8割を超えている結果となっている。休日においても同様の傾向がみられる。

育児時間については、平日では、女性は育児時間「あり」と回答した者のうち、「4時間以上」が8.4%、「2～4時間未満」が6.2%となっている。男性は育児時間「あり」と回答した者のうち、「1～2時間未満」が5.1%、「2～4時間未満」が4.8%となっている。休日では「4時間以上」と答えた男性の割合が7.4%となっており、男性の育児参加も少しずつではあるが進んできていることが窺える。

介護時間については、平日では、介護時間「あり」と回答した女性の割合は8.6%、男性は4.2%と、女性の方が多い。休日も、介護時間「あり」と回答した女性の割合は8.7%、男性は4.4%となり、平日とほぼ同様の結果となっている。超高齢社会に伴い、男女を問わない介護参加が求められる。

余暇時間については、男女とも「2～4時間未満」が最も多く、男性が46.0%、女性が45.9%となっている。休日は、男性の方が「4時間以上」が54.7%と、女性に比べて9.7ポイント多い。

（２）仕事と家庭における男女の役割

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、反対とした割合（「反対」＋「どちらかといえば反対」）が60.1%と、賛成とした割合（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）24.6%を35.5ポイントと、秋田県（59.0%）や全国数値（54.3%）と比較しても上回っている。男女別にみると、男性は賛成とした割合が26.9%と、女性に比べ4.2ポイント多く、特に50歳代以上で多い。女性は反対とした割合が61.5%と、男性を3.2ポイント上回っている。女性は、就業意欲があり、男性の家事参加を望んでおり、男女間で意識の差があると感じられる。

「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方については、反対とした割合が49.9%と、賛成とした割合28.0%を21.9ポイント上回った。男性は反対とした割合が59.1%と約6割を占め、女性（42.3%）を16.8ポイント上回っている。女性は賛成とした割合が34.5%と、男性（20.2%）に比べて14.3ポイント多い。特に子どもを生み、育てる年代である女性の40歳代以下で賛成とした割合が多い。全国と比べると、いずれも大仙市と同様「反対」とする割合が5割を超え、「賛成」とする割合より高くなっている。

（３）理想の子どもの数

理想とする子どもの数は「2人」が50.3%と最も多く、「3人以上」が28.7%、「1人」が5.2%、「0人」が3.0%となっている。実際に持つつもり（持った）の子どもの数は「2人」が47.2%、「3人以上」が14.7%、「1人」が16.2%、「0人」が10.3%と、理想とする子どもの数に比べて「3人以上」が大きく減少し、「1人」「0人」が多くなり、理想と現実との間でのギャップが垣間見える。

(4) 子育てと仕事

子育てと仕事については、「子育ては女性にも男性にも重要なことだから、男女ともほぼ等しく関わる」が37.7%と最も多く、「子育ては女性中心で男性はできるだけ協力し、女性を働きやすくする」が30.2%、「女性は育児休暇制度などを活用し、乳児期は子育てに専念し、それ以降は子育てと仕事を両立させる」が21.0%、「子育ては女性の仕事だから、女性は職業をもたずに子育てに専念する」が1.3%となっている。

(5) 育児休業の取得状況

育児休業を「取った」割合は12.2%である。

育児休業を「取らなかった」理由は、「必要がなかったから（親に見てもらおうなど）」が最も多く32.0%となっている。

男性が育児休業を取ることにについて、「取った方がよい」は44.7%、「取る必要がない」は6.9%、「どちらともいえない」が44.5%となっている。

(6) 高齢者介護の担い手

高齢者介護の担い手は、「配偶者」との回答が40.3%と最も多く、次いで「娘」が28.0%、「息子」が27.3%となっている。

男性は「配偶者」が47.8%と、女性に比べて13.7ポイント多く、男性の方が配偶者に介護されるとの回答率が高い。特に、男性の60歳代以上で「配偶者」との回答が5割を超えている。40歳代以下では「息子」が4割を超え、「娘」を上回る特徴的な傾向がみられた。一方、女性は「娘」が36.7%と男性を19.3ポイント上回っている。

3. 仕事について

(1) 職場の実態

職場での男女差がなくなっていると思うことについて、「採用や退職」「仕事の分担」「研修や訓練」「妊娠・出産・育児等を支える制度・雰囲気」の面でそう思うとした割合（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が5割を超えている。一方で、「昇給・昇格」や「管理職への登用・経営方針や企画への関与」においては、「どちらかといえばそう思わない」が多く、男女格差があると感じている割合が多い。

4. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

(1) 仕事と家庭生活等の望ましいあり方

望ましい男性のあり方は、仕事を優先とする割合（「仕事を中心」＋「家庭生活等にも携わるが、あくまで仕事を優先する」）は49.5%、「家庭生活等と仕事を同じように両立さ

せる」が39.1%、家庭生活等を優先とする割合（「家庭生活等を中心にする」＋「仕事には携わるが家庭生活等を優先させる」）は5.2%となっている。

望ましい女性のあり方は、家庭生活等を優先とする割合が46.2%と約半数を占める。「家庭生活等と仕事を同じように両立させる」が46.2%、仕事を優先とする割合は3.3%となっている。

実際の生活は、仕事を優先とする割合は38.6%、家庭生活等を優先とする割合は28.4%、「家庭生活等と仕事を同じように両立させる」が25.4%となっている。

全体で実際の生活について前回調査と比べると、仕事を優先するとした割合は13.0ポイント、家庭生活等を優先とする割合は11.1ポイント、「家庭生活と仕事を同じように両立させる」が0.5ポイント増加している。

(2) 仕事と家庭の両立に必要なこと

男女がともに仕事と家庭を両立していくために必要だと思うことは、「育児休業中・介護休業中の賃金その他の経済支援を充実する」が最も多く62.7%、次いで「育児休業・介護休業制度を取得しやすい環境をつくる」が61.9%、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」が60.3%、「地域の保育施設や保育時間の延長など保育制度を充実する」が45.4%となっている。

女性は「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」が65.6%、「育児休業中・介護休業中の賃金その他の経済支援を充実する」が63.1%と、男性に比べそれぞれ11.7ポイント、1.0ポイント多くなっている。仕事と家庭を両立するためには、職場環境の整備や周囲の理解や協力が必要であると思われる。

5. セクシュアル・ハラスメントについて

(1) セクシュアル・ハラスメントの経験

セクシュアル・ハラスメントの「経験がない」は55.3%と5割以上を占める。経験のある人のその内容は、「顔や体型などの容姿に対するからかい」「性の話や冗談（猥談）」が上位にあげられた。

(2) セクシュアル・ハラスメントの相談先

セクシュアル・ハラスメントをされたり、見たりした時の相談先は、「同僚や友人に相談した」が最も多く35.2%、次いで「相手に直接抗議した」が19.7%、「上司、先生に相談した」が18.5%、「家族・親戚に相談した」が18.4%となっている。「職場・学校内の相談窓口」や「職場・学校外の専門機関」に相談した割合は10%に満たない。また、「誰にも話（相談）していない」が14.4%、「誰に（どこに）相談すればよいか分からなかった」が10.2%となっている。気軽に相談できる窓口を充実させ、情報発信していくことが必要と思われる。

6. DV（配偶者等からの暴力）について

（1）DVの経験

DVを受けた経験があると答えた人は、全体で18.5%、男性は12.4%、女性は23.6%となっている。前回調査と比べると、「経験がある」とした割合は6.6ポイント増加した。男女別で比べると男性が5.4ポイント増加し、女性は7.9ポイント増加している。

4つの暴力行為のうち、精神的暴力の経験が一番多く13.3%（「頻繁にある」1.2%＋「数回ある」12.1%）、次いで身体的暴力は9.8%（「頻繁にある」0.5%＋「数回ある」9.3%）、経済的暴力は4.3%（「頻繁にある」1.0%＋「数回ある」3.3%）、性的暴力は3.8%（「頻繁にある」0.2%＋「数回ある」3.6%）となっている。

（2）DVの相談先

一つでもDV経験があったとした人のうち、どこか（だれか）に相談したかについては、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が49.8%と半数近くを占める。相談した人の相談先は「家族や親せき」が22.1%、「友人・知人」が16.9%となっており、前回調査と比べてほぼ同様な傾向となっている。

DVを受けていることを「どこ（だれ）にも相談しなかった」とした人の理由は、「相談するほどのことではないと思った」が41.1%、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」39.5%、「自分にも悪いところがあると思った」が37.9%となっている。

今回新たに、暴力を受けた時に相談できる窓口がどの程度周知されているかを調査した。知っている相談窓口は「秋田県警察本部（レディース電話110番）」が最も多く30.5%、次いで「大仙市役所（子ども支援課、男女共同参画推進室）」24.1%となっている。その反面、「知っているところはない」との回答は40.2%となっており、さらにDV相談窓口を周知していくことが必要であると思われる。

7. 男女共同参画社会実現に向けての取り組みについて

（1）男女共同参画を推進するために必要なこと

男女共同参画を推進するために、自分自身ができること、又はしなければならないことは、「仕事、家事、育児などを配偶者（パートナー）とともに担う」が57.7%、次いで「仕事と生活の時間のバランスをうまく取る」が50.5%、「配偶者（パートナー）とのコミュニケーションを深める」が48.8%となっている。

（2）「男女共同参画社会」形成のために行政に望むこと

「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、行政に望むことは、「子育てや高齢者のための施設やサービスを充実する」が50.1%と最も多い。次いで「職場における男女

の均等な取扱いについて周知徹底する」が35.4%、「女性の働く場や機会を増やしたり、従来女性の就労が少なかった分野などへの女性の進出を促すため、職業教育や職業訓練を充実する」が31.2%、「学校教育や社会教育・生涯教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」が29.2%となっている。

Ⅲ 調査結果の概要

1. 男女平等に関する意識について

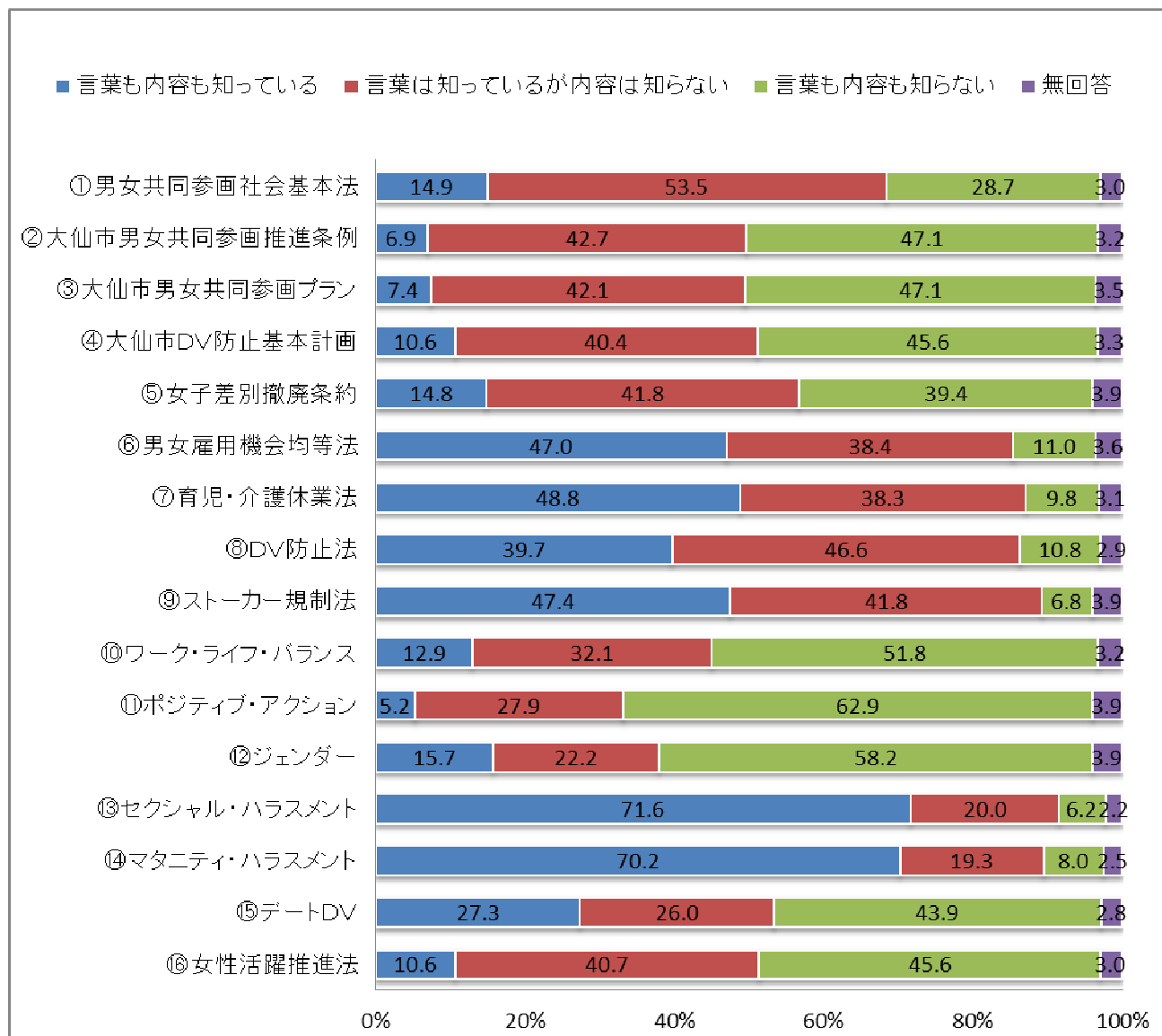
問1 あなたは、男女共同参画に関する言葉を知っていますか。(☑はそれぞれ1つずつ)

- | | | |
|---------------|----------------|---------------|
| ①男女共同参画社会基本法 | ②大仙市男女共同参画推進条例 | ③大仙市男女共同参画プラン |
| ④大仙市DV防止基本計画 | ⑤女子差別撤廃条約 | ⑥男女雇用機会均等法 |
| ⑦育児・介護休業法 | ⑧DV防止法 | ⑨ストーカー規制法 |
| ⑩ワーク・ライフ・バランス | ⑪ポジティブ・アクション | ⑫ジェンダー |
| ⑬セクシャル・ハラスメント | ⑭マタニティ・ハラスメント | ⑮デートDV |
| ⑯女性活躍推進法 | | |

16 の言葉の認知状況を全体でみると、「言葉も内容も知っている」とした割合は、「セクシャル・ハラスメント」が最も多く 71.6%、「マタニティ・ハラスメント」が 70.2%、「育児・介護休業法」が 48.8%、「ストーカー規制法」が 47.4%となっている。

「言葉も内容も知らない」とした割合は、「ポジティブ・アクション」が 62.9%、「ジェンダー」が 58.2%と多くなっている。

図 1-1 男女共同参画に関する言葉の周知状況



問2 あなたは、次のような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

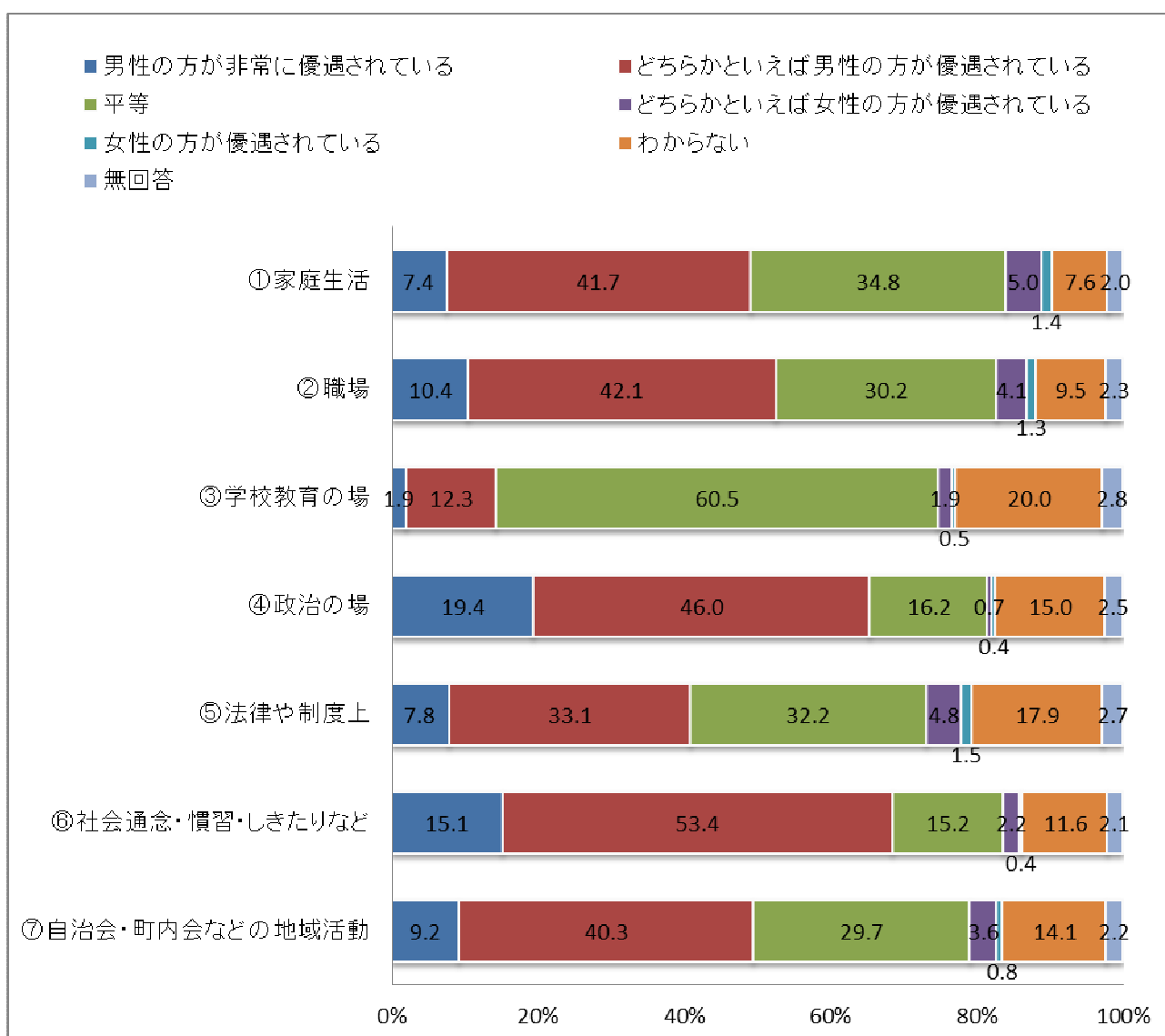
(☑はそれぞれ1つずつ)

- ①家庭生活 ②職場 ③学校教育の場 ④政治の場 ⑤法律や制度上
⑥社会通念・慣習・しきたりなど ⑦自治会・町内会などの地域活動

7つの分野における男女の平等感を全体でみると、「平等」とした割合は「学校教育の場」が60.5%と最も多く、次いで「家庭生活」が34.8%、「法律や制度上」が32.2%となっている。

男性優遇（「男性が非常に優遇」）＋「どちらかといえば男性優遇」とした割合は、「社会通念・慣習・しきたりなど」が68.5%と7割近くを占め、「政治の場」が65.4%、「職場」が52.5%となっており、「学校教育」を除く6つの分野で「平等」を上回っている。

図 1-2 男女の地位の平等感

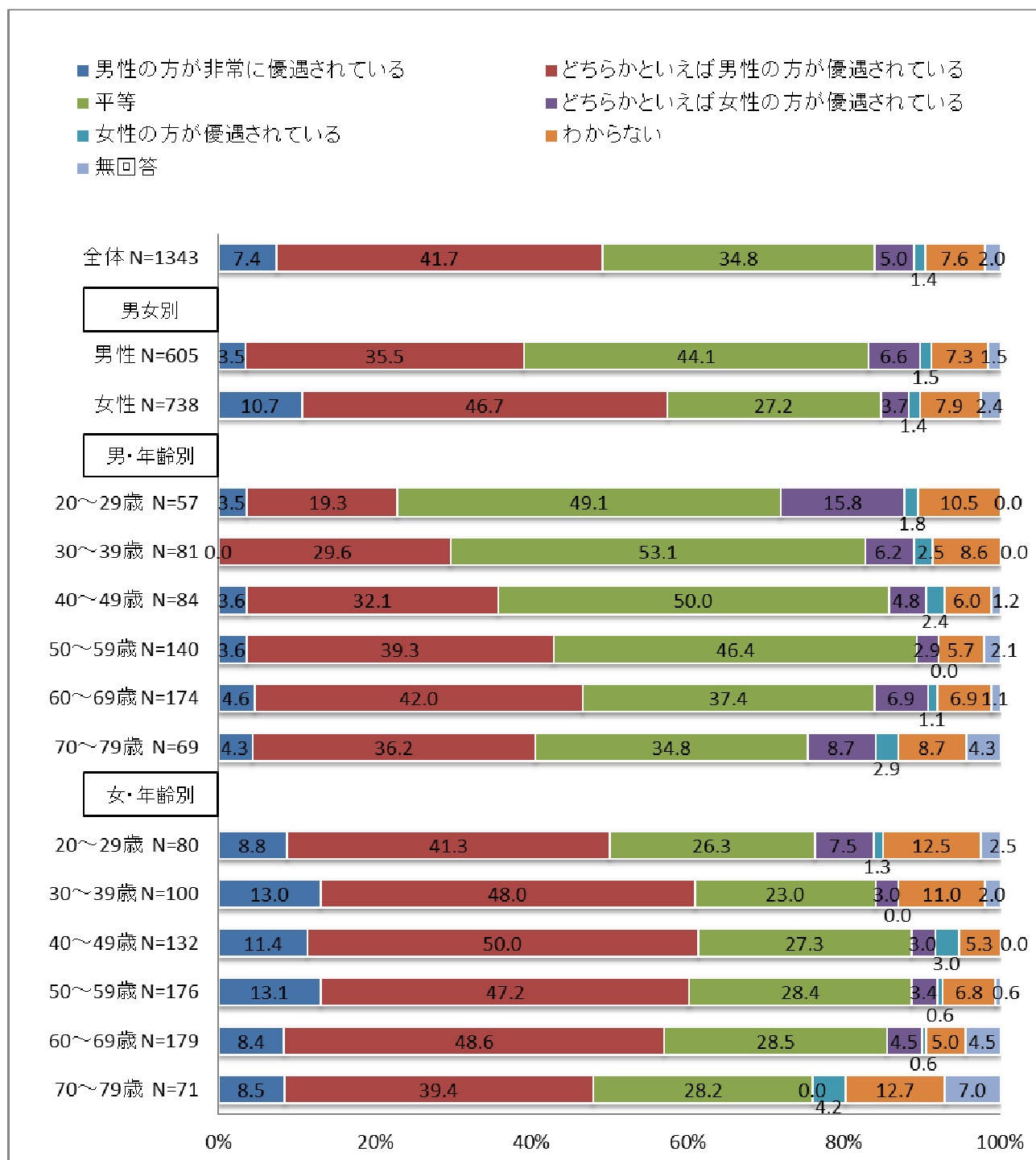


次に、7つの分野ごとにみることにする。

①家庭生活

家庭生活における平等感をみると、「平等」は34.8%、男性優遇（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性優遇」）とした割合が49.1%、女性優遇（「女性が非常に優遇」＋「どちらかといえば女性優遇」）とした割合が6.4%となった。

図 1-3 男女の平等感(家庭生活)

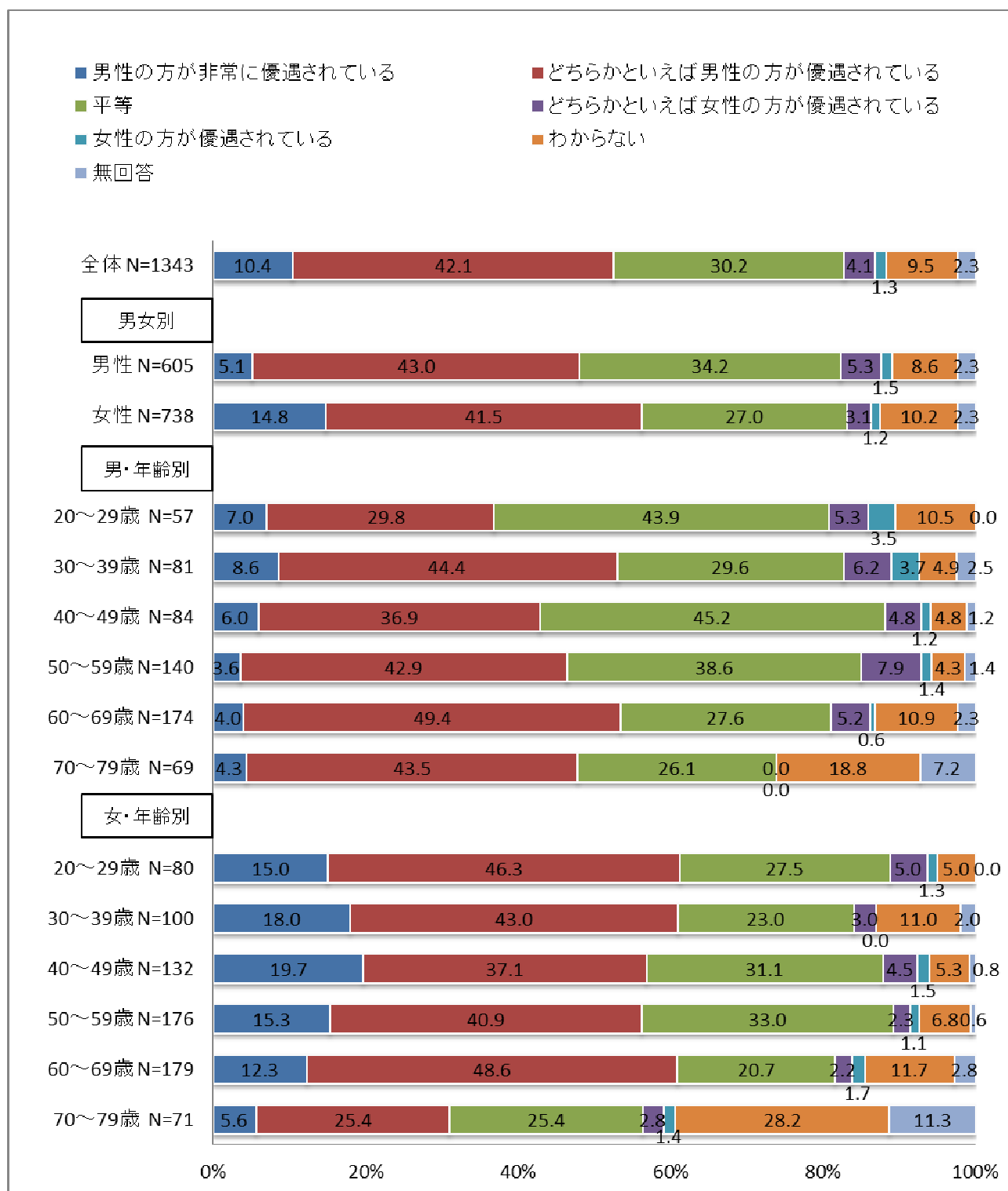


②職場

職場における平等感をみると、「平等」は30.2%、男性優遇とした割合が52.5%、女性優遇とした割合が5.4%となった。

男女別では、男性は「平等」が34.2%と女性を7.2ポイント上回っている。女性は男性優遇とした割合が56.3%と、男性に比べて8.2ポイント多い。

図 1-4 男女の平等感(職場)



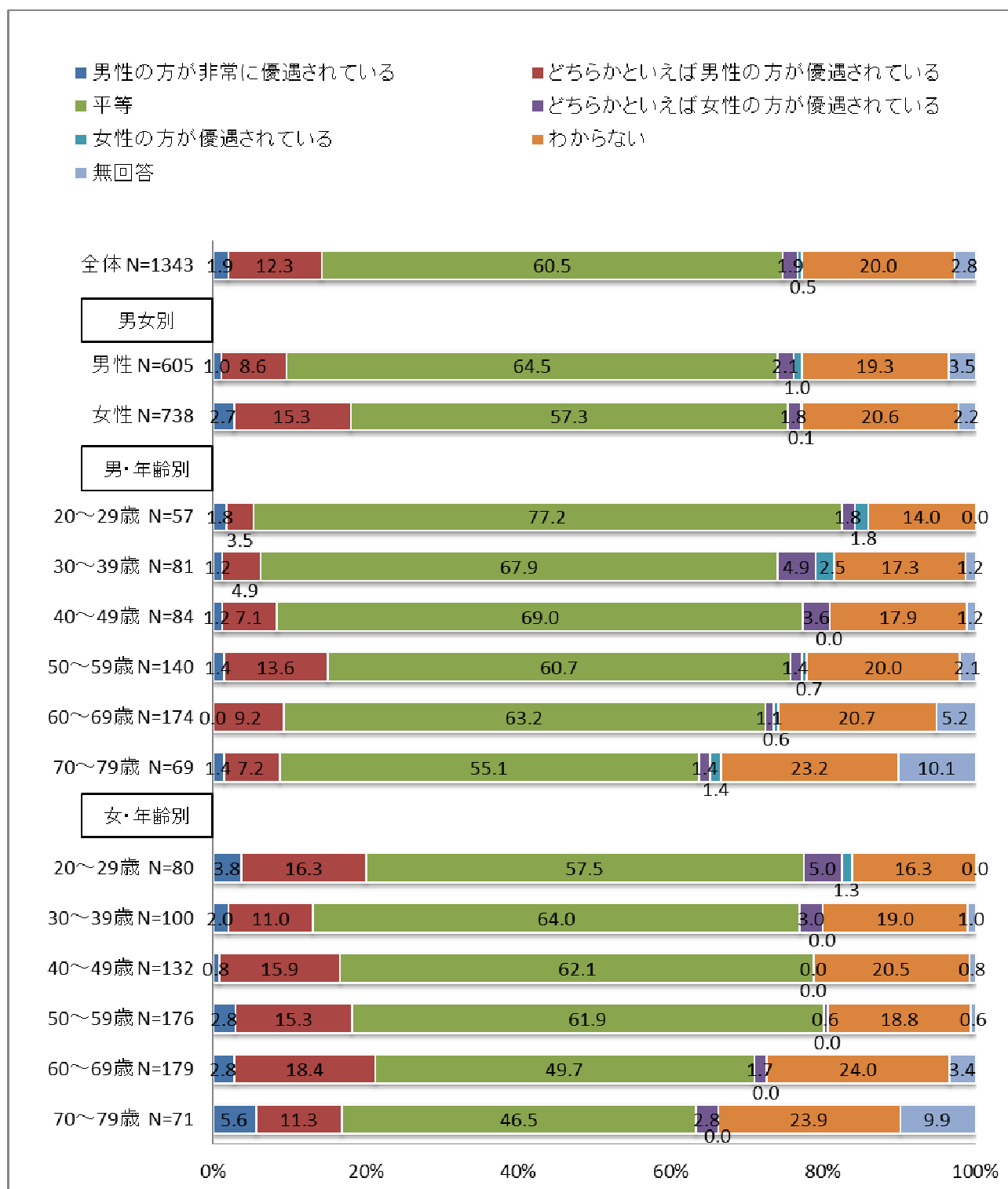
③学校教育の場

学校教育における平等感は7つの分野のうち、最も平等感が高い分野である。「平等」が60.5%を占め、男性優遇とした割合は14.2%、女性優遇とした割合は2.4%となった。

男女別では、男性の方が「平等」とした割合が多く、64.5%と、女性を7.2ポイント上回っている。

性別年齢別でみると、男性の「20歳代」で「平等」が77.2%、女性は「30歳代」で64.0%となっている。

図 1-5 男女の平等感(学校教育の場)



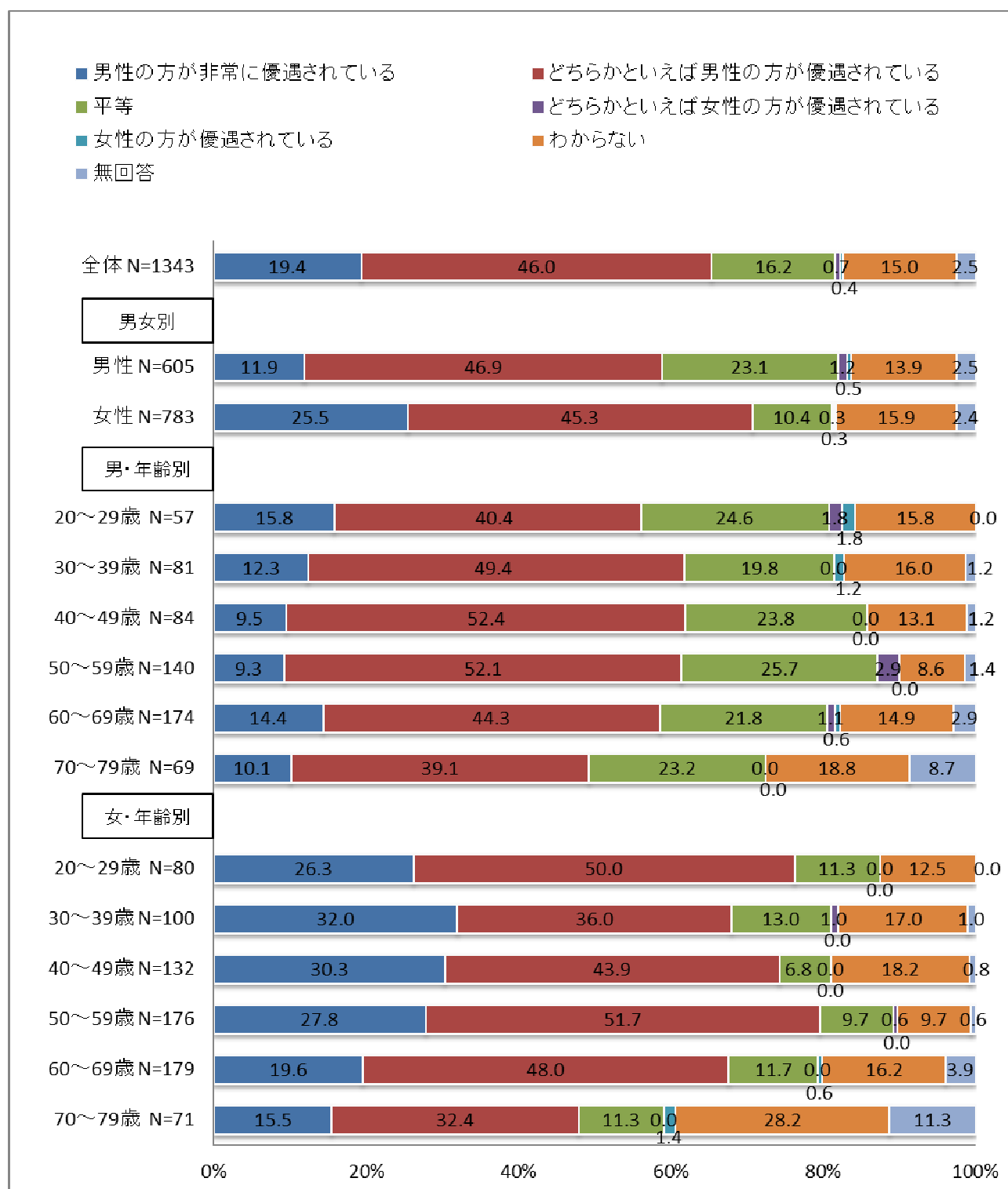
④政治の場

政治の場における平等感は「平等」が 16.2%と、平等感が低い分野である。男性優遇とした割合が 65.4%、女性優遇とした割合が 1.1%となった。

男女別では、男性は「平等」が 23.1%と 12.7 ポイント上回っている。女性は男性優遇とした割合が 70.8%と、男性に比べて 12.0 ポイント多い。

性別年齢別でみると、女性の「50 歳代」は男性優遇とした割合が約 8 割を占める。

図 1-6 男女の平等感(政治の場)



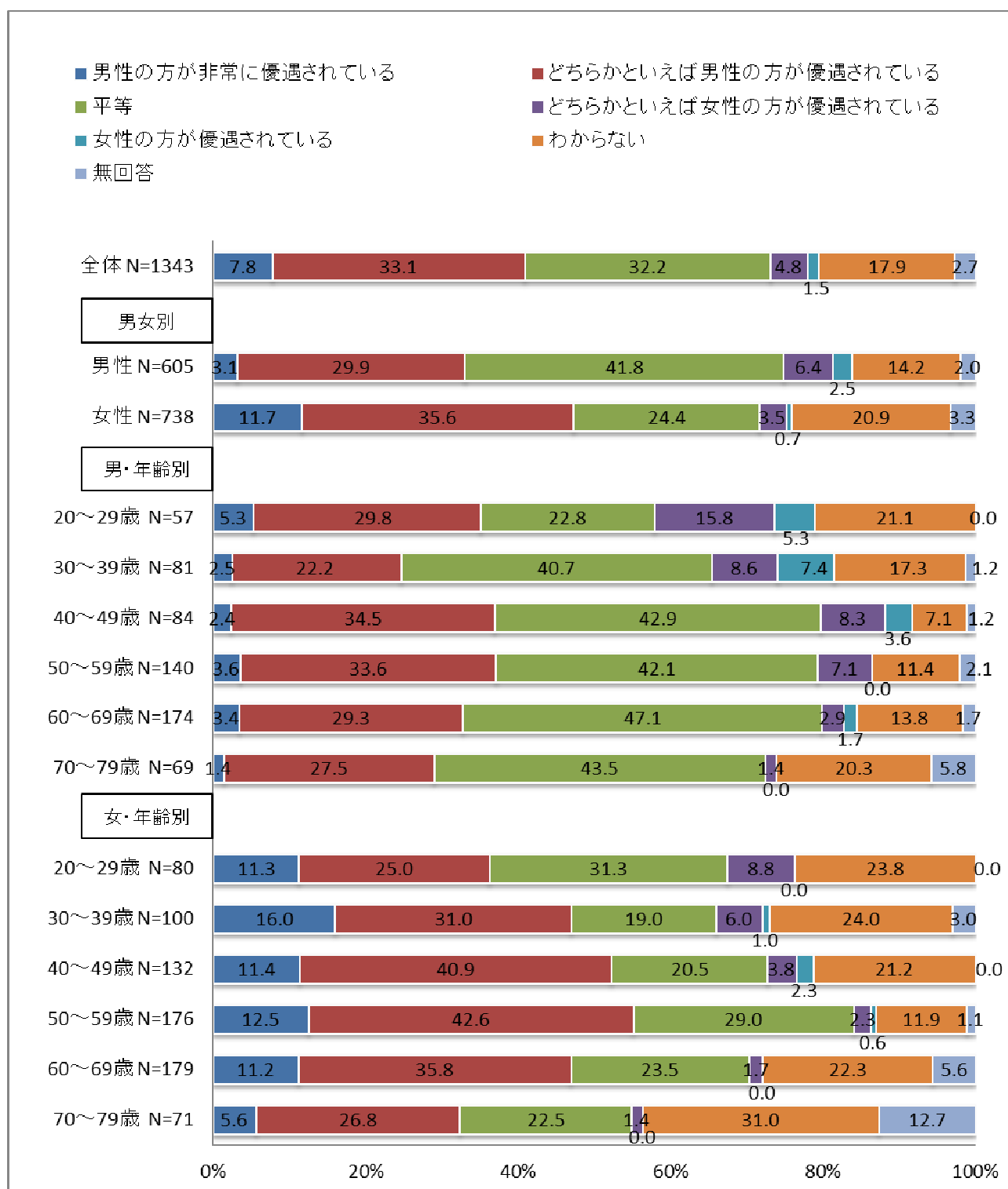
⑤法律や制度上

法律や制度上における平等感は「平等」が 32.2%、男性優遇とした割合は 40.9%、女性優遇とした割合は 6.3%となった。

男女別では、男性は「平等」が 41.8%と 17.4 ポイント上回っている。女性は男性優遇とした割合が 47.3%と、男性に比べて 14.3 ポイント多い。

性別年齢別でみると、女性の「50 歳代」で、特に男性優遇とした割合が多く 55.1%となっている。

図 1-7 男女の平等感(法律や制度上)



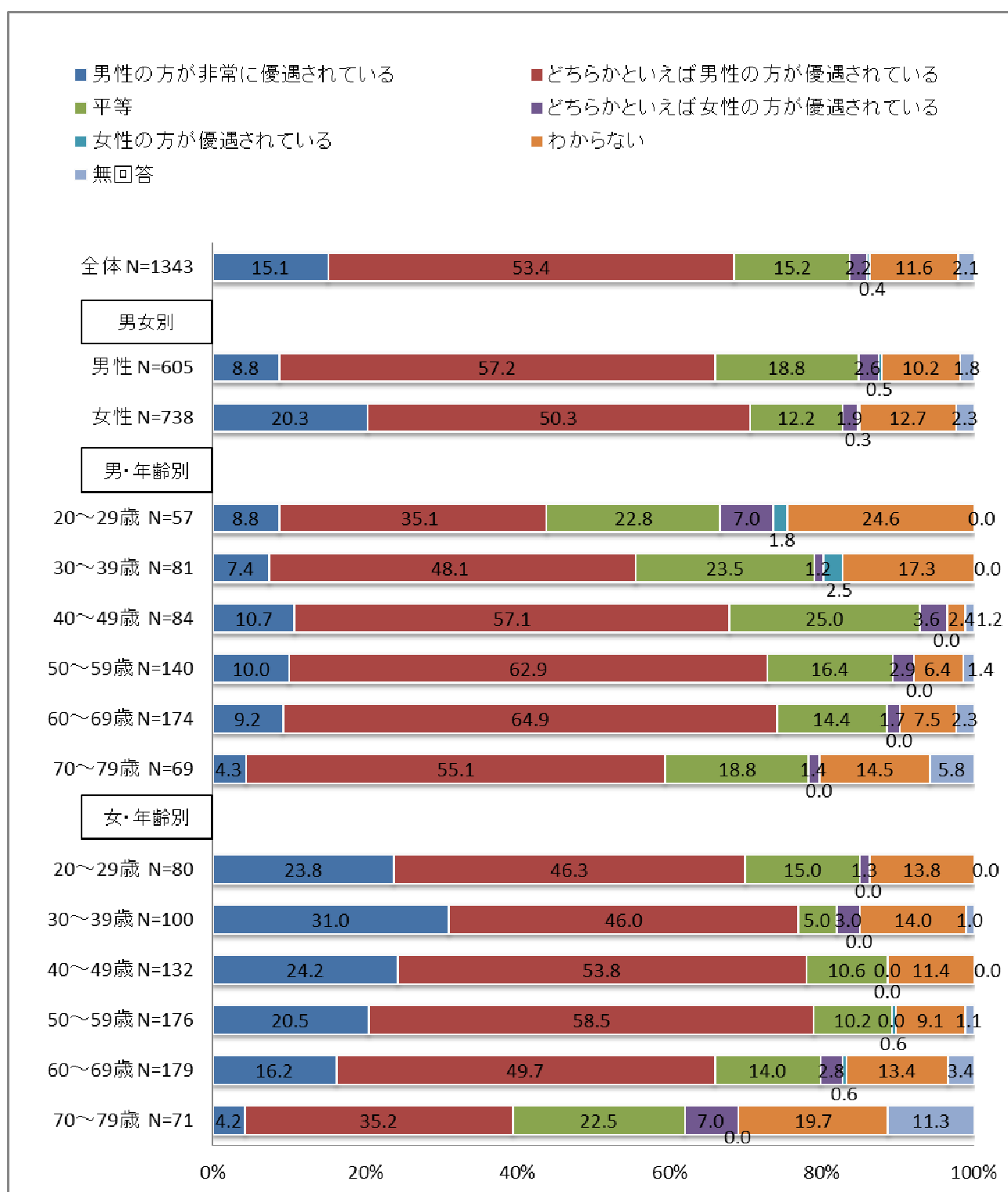
⑥社会通念・慣習・しきたりなど

社会通念・慣習・しきたりなどにおける平等感は「平等」が15.2%と、7つの分野のうち最も平等感が低い分野である。男性優遇とした割合は68.5%、女性優遇とした割合は2.6%となった。

男女別では、男性は「平等」が18.8%と女性を6.6ポイント上回っている。女性は男性優遇とした割合が70.6%と、男性に比べて4.6ポイント多い。

性別年齢別でみると、男性は年齢層が高くなるにつれ、男性優遇とした割合が多く、「60歳代」が74.1%を占める。女性は男性優遇とした割合が「50歳代」で約8割となっている。

図 1-8 男女の平等感(社会通念・慣習・しきたりなど)

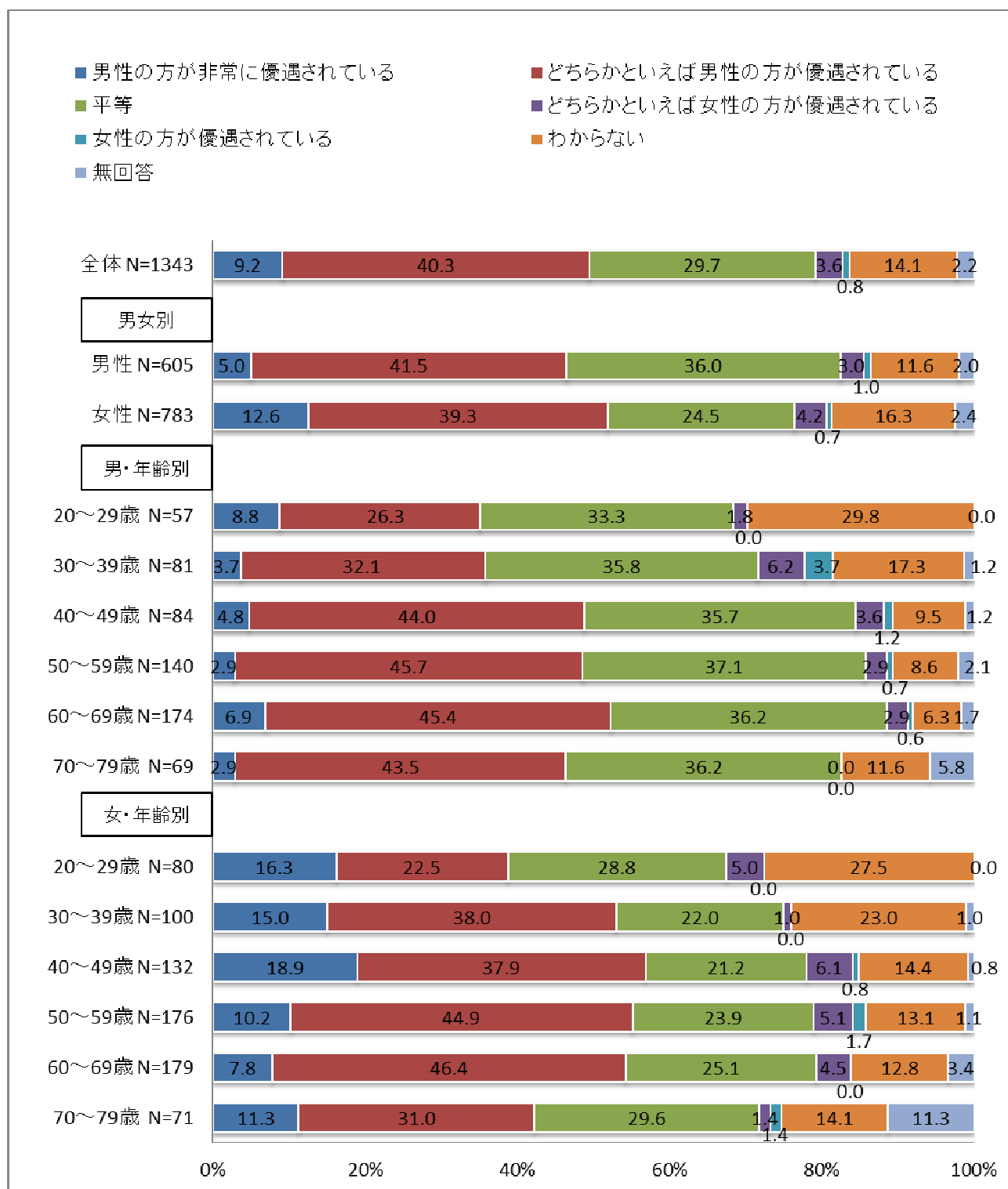


⑦自治会・町内会などの地域活動

自治会・町内会などの地域活動における平等感をみると、「平等」は29.7%、男性優遇とした割合が49.5%、女性優遇とした割合が4.4%となった。

男女別では、男性は「平等」が36.0%と女性に比べて11.5ポイント多い。女性は男性優遇とした割合が51.9%と、男性を5.4ポイント上回っている。

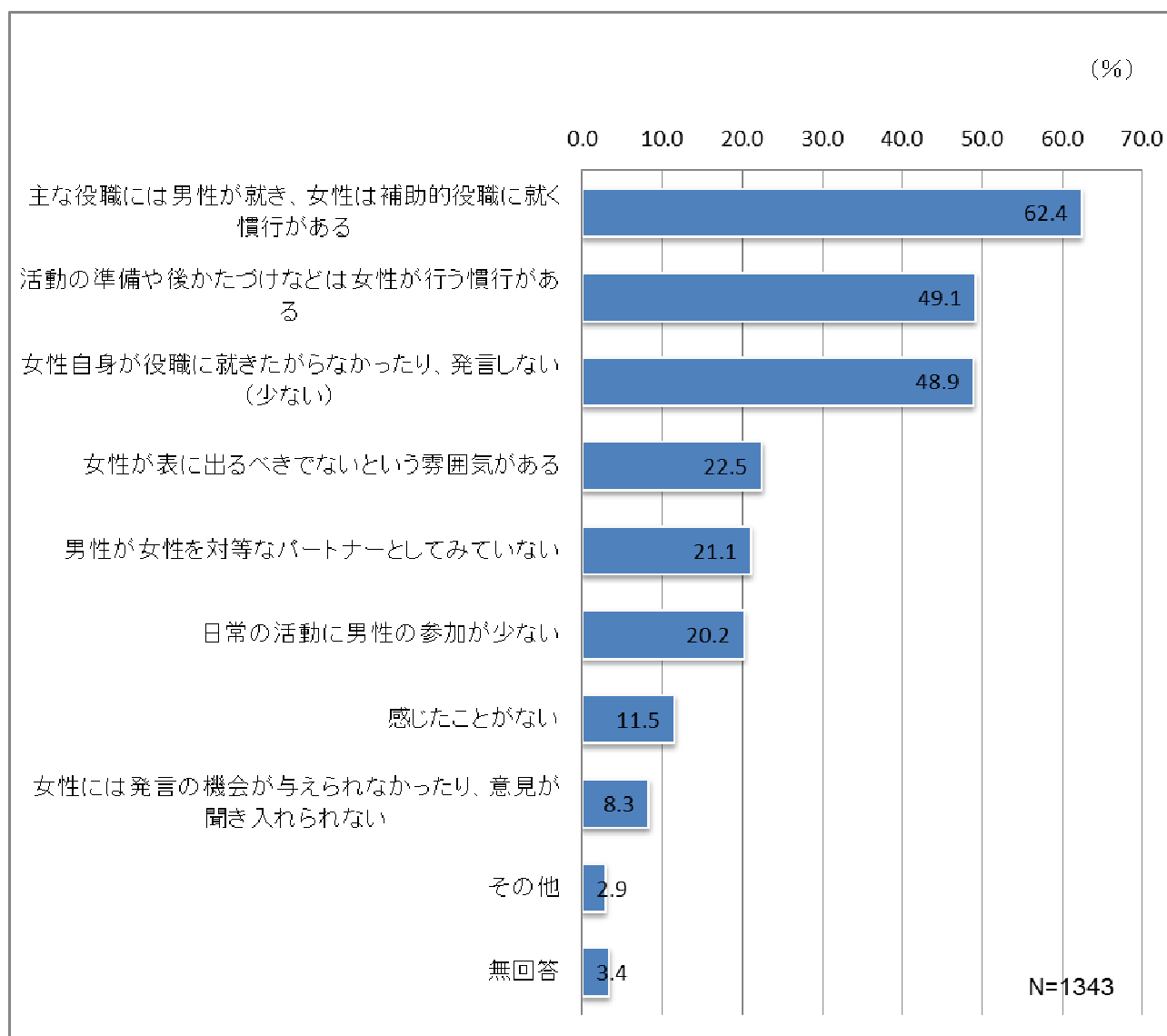
図 1-9 男女の平等感(自治会・町内会などの地域活動)



問3 地域の活動（自治会、町内会、PTAなど）で、男女の役割分担などについて次のように感じたことがありますか。（いくつでも☑）

地域活動での男女の役割分担については、「主な役職には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」が62.4%と最も多く、次いで「活動の準備や後かたづけなどは女性が行う慣行がある」が49.1%、「女性自身が役職に就きたがらなかったり、発言しない（少ない）」が48.9%となっている。

図 1-10 地域活動での男女の役割分担について（複数回答）



性別年齢別でみると、男性の「20～30 歳代」は「感じたことがない」が2割を超えて、他の年齢層に比べて多くなっている。

女性の「20 歳代」は「活動の準備や後かたづけなどは女性が行う慣行がある」が 66.3%と他の年齢層に比べて多くなっている。

表1 地域活動での男女の役割分担について（複数回答）												(%)	
			主 な 役 職 に 就 く 慣 行 が あ る	活 動 の 準 備 や 後 か た づ け な ど は 女 性	女 性 自 身 が 役 職 に 就 き た が ら な か つ た り 、 発 言 し な い （ 少 な い ）	女 性 が 表 に 出 る べ き で な い と い う 雰 囲 気 が あ る	男 性 が 女 性 を 対 等 な パ ー ト ナ ー と し て み て い な い	日 常 の 活 動 に 男 性 の 参 加 が 少 な い	感 じ た こ と が な い	女 性 に は 発 言 の 機 会 が 与 え ら れ な い か つ た り 、 意 見 が 聞 き 入 れ ら れ な い	そ の 他	無 回 答	
性 別	男	N=605	65.3	40.2	49.3	16.5	15.0	15.9	13.6	5.3	2.6	3.3	
	女	N=738	60.0	56.5	48.6	27.4	26.0	23.7	9.9	10.8	3.1	3.4	
性 別 年 齢 別	男	20～29歳	N=57	50.9	28.1	31.6	12.3	10.5	21.1	24.6	1.8	0.0	7.0
		30～39歳	N=81	60.5	37.0	43.2	13.6	8.6	14.8	23.5	6.2	2.5	2.5
		40～49歳	N=84	63.1	40.5	47.6	14.3	15.5	17.9	8.3	7.1	2.4	6.0
		50～59歳	N=140	68.6	35.0	52.1	18.6	11.4	17.9	6.4	5.0	2.1	2.9
		60～69歳	N=174	69.5	45.4	58.0	17.8	20.7	12.6	12.6	5.2	2.9	1.1
		70～79歳	N=69	68.1	50.7	44.9	18.8	18.8	14.5	15.9	5.8	5.8	4.3
	女	20～29歳	N=80	63.8	66.3	51.3	33.8	32.5	33.8	8.8	17.5	3.8	1.3
		30～39歳	N=100	51.0	55.0	38.0	24.0	20.0	26.0	14.0	13.0	4.0	3.0
		40～49歳	N=132	55.3	50.0	49.2	28.8	27.3	22.7	8.3	12.9	6.1	3.8
		50～59歳	N=176	57.4	55.1	49.4	24.4	23.3	22.7	11.4	7.4	2.8	1.1
		60～69歳	N=179	69.3	59.8	52.5	30.2	28.5	20.1	7.8	10.6	1.1	3.9
		70～79歳	N=71	60.6	54.9	47.9	22.5	25.4	22.5	9.9	5.6	1.4	9.9

=最も多い数値

2. 家庭生活、育児、介護について

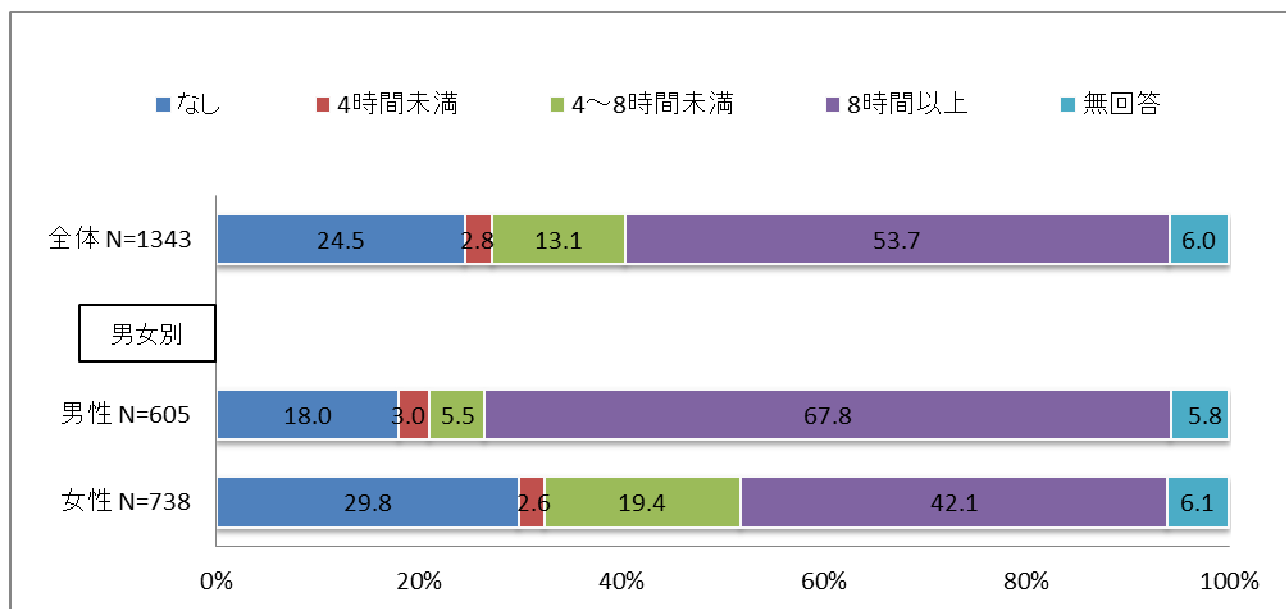
問4 あなたの一日における時間の使い方をお尋ねします。平日は①から⑤、休日は②から⑤のそれぞれの時間について、どのくらい使っていますか。30 分単位で記入してください。(たとえば、「1時間 30 分」の場合は「1.5」とご記入ください。)

①収入を得ている労務の時間(通勤時間を含む)

収入を得ている労務の時間については、全体で「8時間以上」が53.7%、「4～8時間未満」が13.1%、「4時間未満」が2.8%となっている。

男女別では、男性は「8時間以上」が67.8%、「4～8時間未満」が5.5%、女性は「8時間以上」が42.1%、「4～8時間未満」が19.4%となっている。

図 2-1 収入を得ている労務の時間（通勤時間を含む）



②家事の時間

家事の時間については、平日は全体で「1時間未満」が9.5%、「1～2時間未満」が19.6%、「2～4時間未満」が27.3%、「4時間以上」が19.7%となっている。

男女別では、女性は「2～4時間未満」が41.1%、「4時間以上」が34.4%と、2時間以上が75.5%となっている。男性は「なし」が34.7%、「1時間未満」が19.0%、「1～2時間未満」が28.3%と2時間未満が82.0%となっている。

図 2-2 家事の時間(平日)

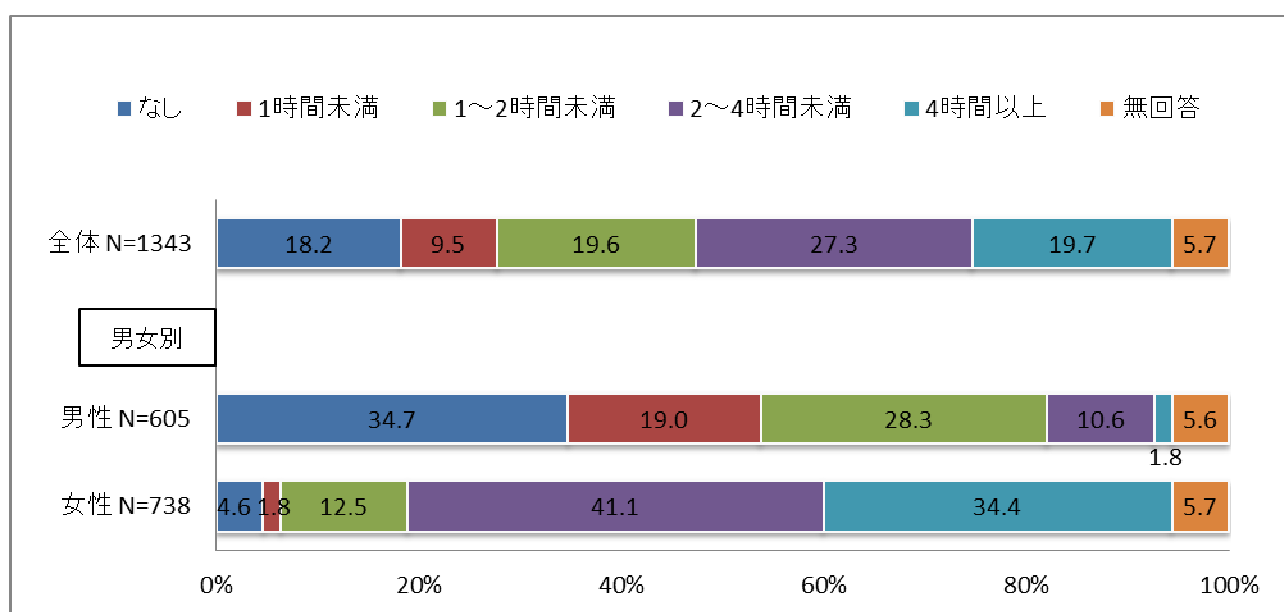
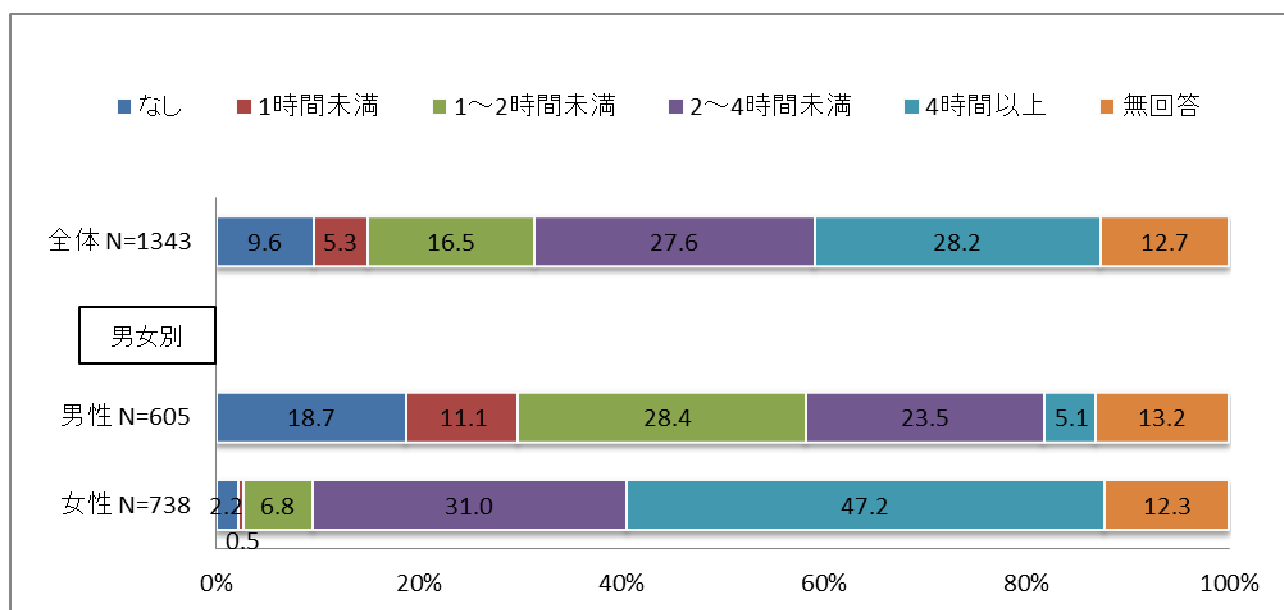


図 2-3 家事の時間(休日)



③育児の時間

育児時間については、平日は全体で「1時間未満」が1.5%、「1～2時間未満」が4.5%、「2～4時間未満」が5.6%、「4時間以上」が5.1%となっている。

男女別では、女性は「4時間以上」が8.4%、「2～4時間未満」が6.2%と、2時間以上が14.6%となっている。男性は「1～2時間未満」が5.1%、2時間以上は6.0%となっている。

休日は全体で「1時間未満」が0.7%、「1～2時間未満」が2.0%、「2～4時間未満」が3.9%、「4時間以上」が9.7%となっている。

図 2-4 育児の時間(平日)

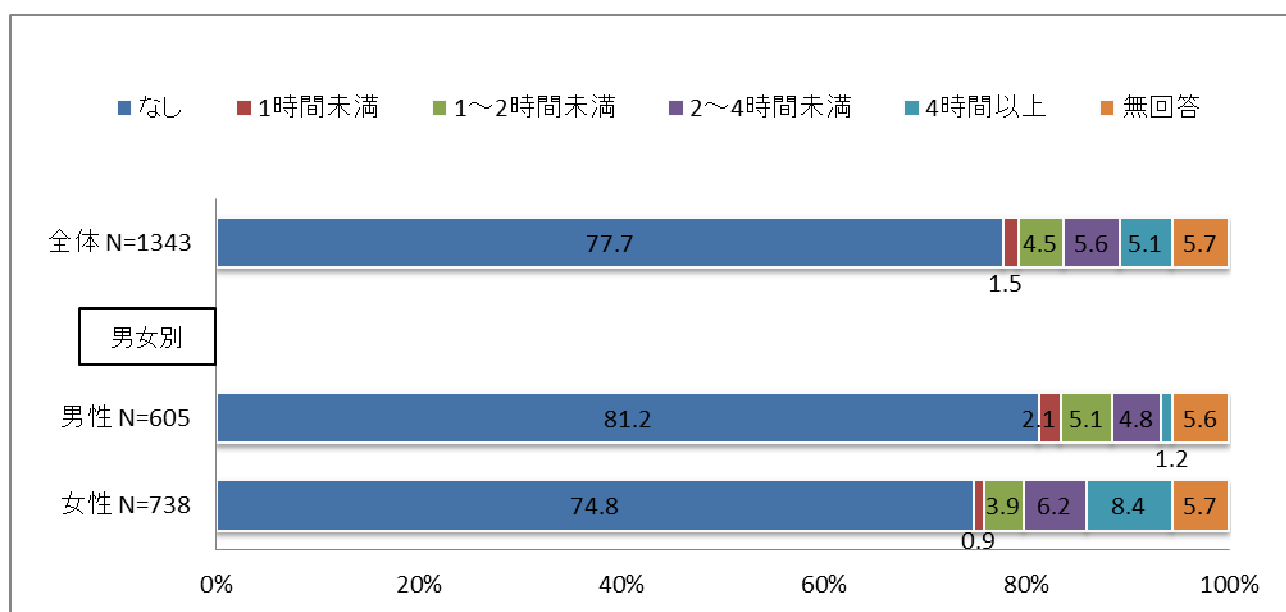
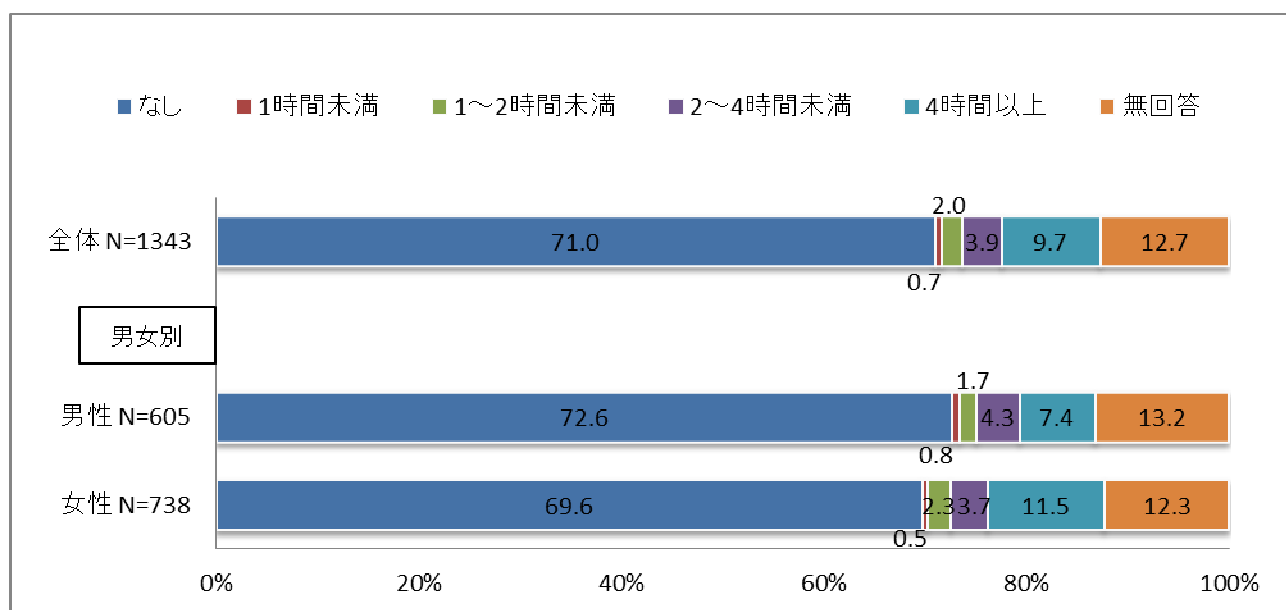


図 2-5 育児の時間(休日)



④介護の時間

介護時間があるとした人の割合は、平日は全体で 6.7%、男性は 4.2%、女性は 8.6% となり、女性の方がやや多い。

休日は全体で 6.7%、男性は 4.4%、女性は 8.7% となっており、平日と大きな違いは見られない。

図 2-6 介護の時間（平日）

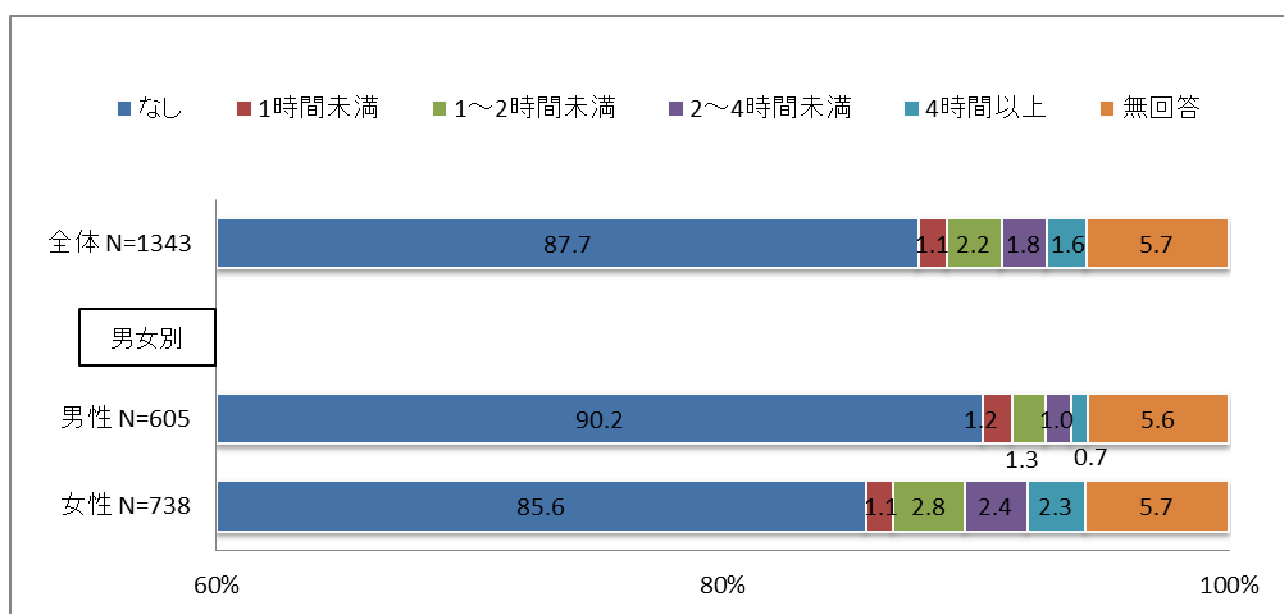
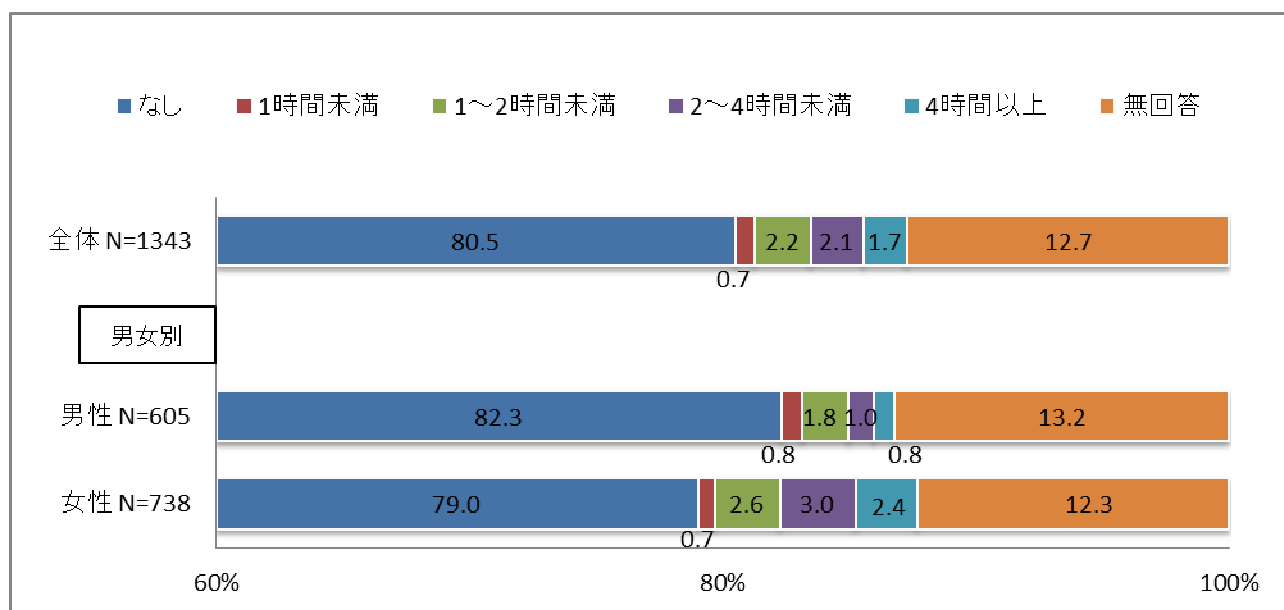


図 2-7 介護の時間（休日）



⑤余暇の時間(睡眠や食事の時間を除く)

余暇の時間については、平日は全体で「1時間未満」が3.9%、「1～2時間未満」が17.3%、「2～4時間未満」が45.9%、「4時間以上」が21.2%となっている。

男女別では、男性は「4時間以上」が24.8%、女性（18.3%）に比べて6.5ポイント多い。

休日は全体で「1時間未満」が1.0%、「1～2時間未満」が6.9%、「2～4時間未満」が27.0%、「4時間以上」が49.4%となっている。男女別では、男性が2時間以上が、81.5%と女性（72.1%）に比べて9.4ポイント多い。

図 2-8 余暇の時間（平日）

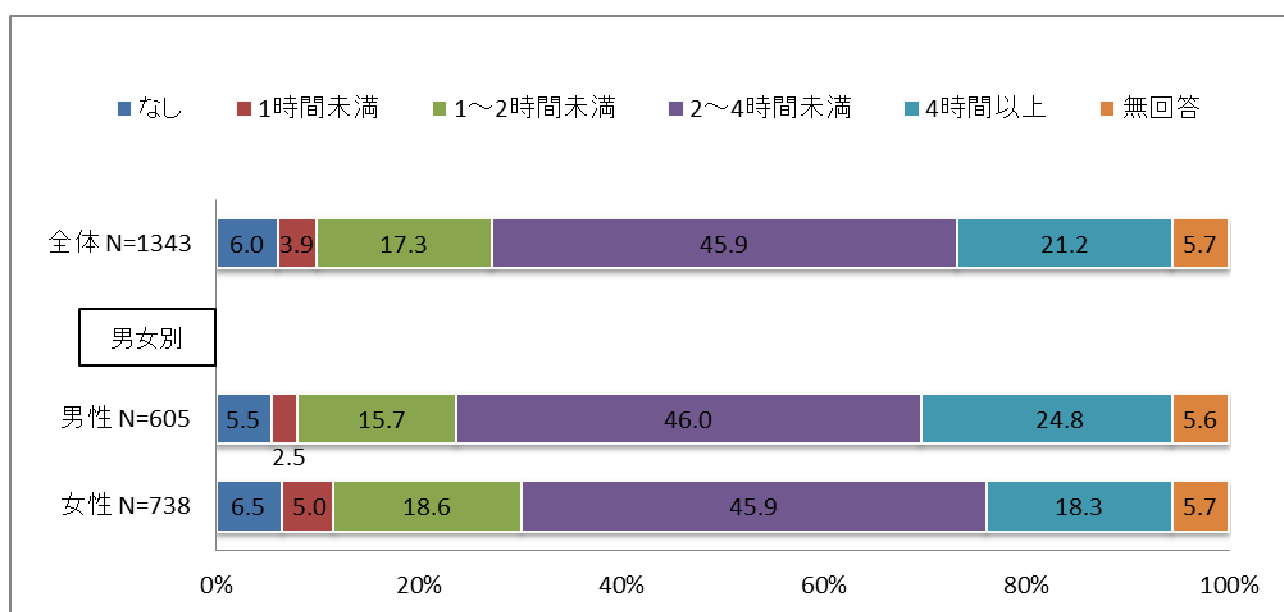
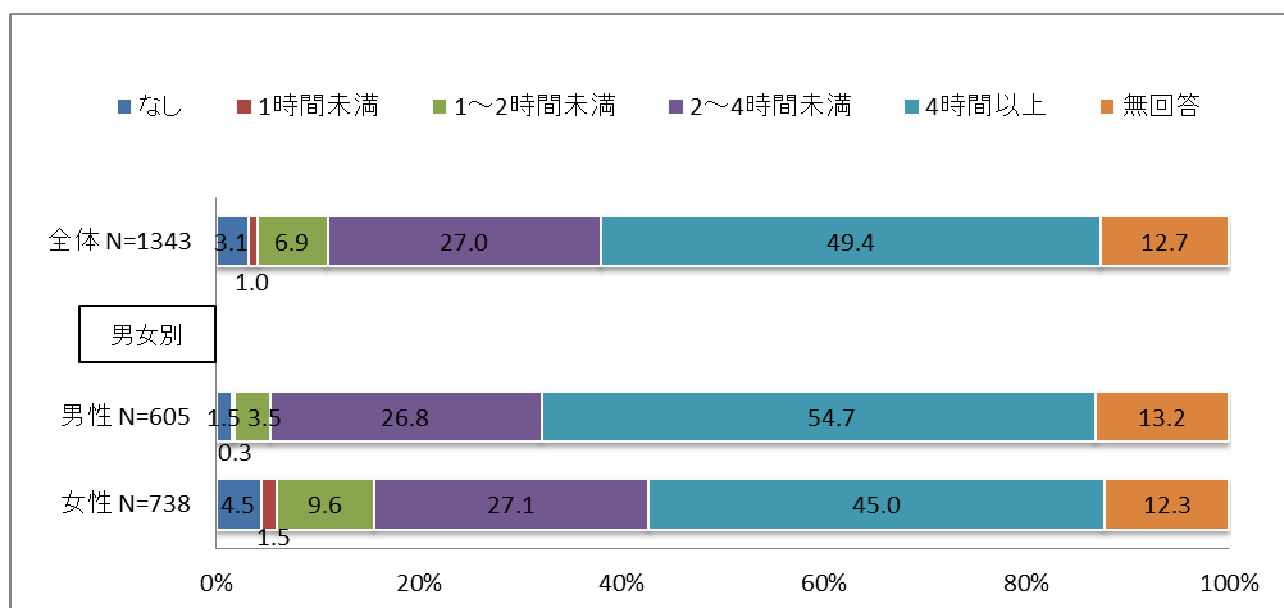


図 2-9 余暇の時間（休日）



問5 あなたは、次のような考え方について、どう思いますか。①②のそれぞれについて、あなたの考えに近い番号を1から5の中から選んで☑をつけてください。(☑はそれぞれ1つずつ)

①「男性は仕事、女性は家庭」という考え方

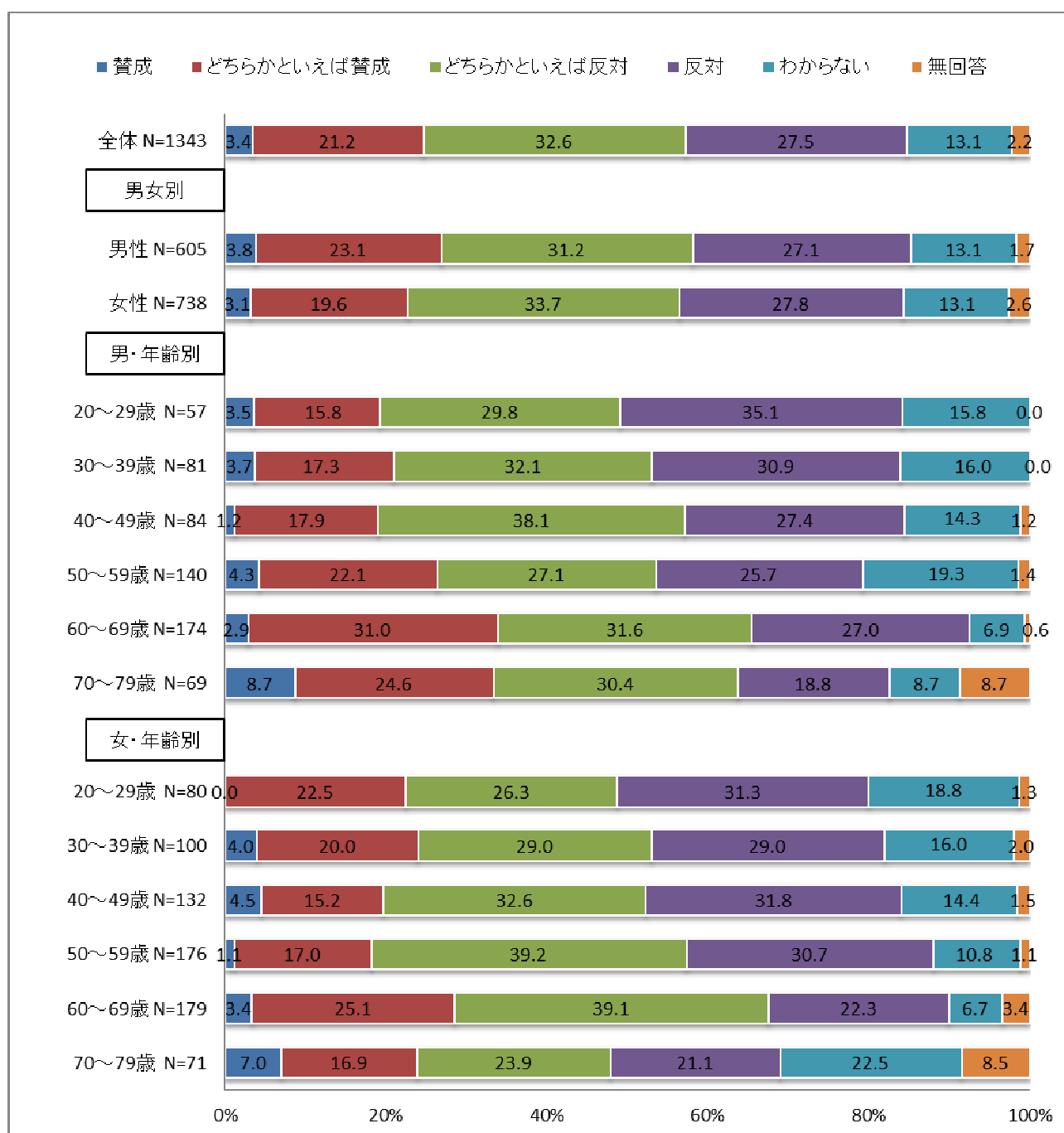
②「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方

①「男性は仕事、女性は家庭」という考え方

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、反対とした割合が60.1%（「反対」27.5%＋「どちらかといえば反対」32.6%）と、賛成とした割合24.6%（「賛成」3.4%＋「どちらかといえば賛成」21.2%）を35.5ポイント上回っている。

性別年齢別でみると、女性は「40～60歳代」で「反対」が6割を超えている。

図 2-10 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方



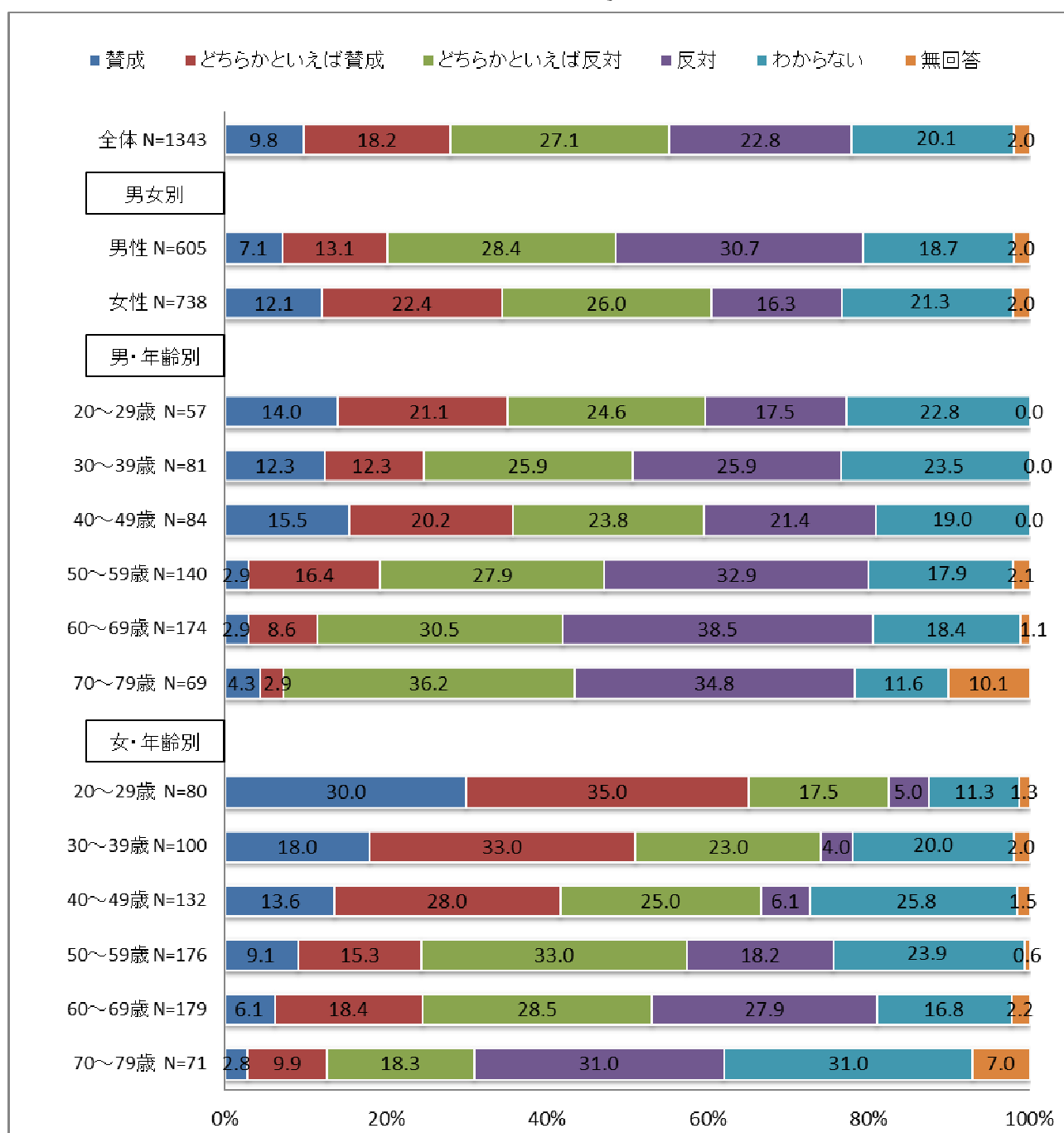
②「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方

「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方については、反対とした割合が 49.9%（「反対」22.8%＋「どちらかといえば反対」27.1%）と、賛成とした割合 28.0%（「賛成」9.8%＋「どちらかといえば賛成」18.2%）を 21.9 ポイント上回った。

男女別では、男性は反対とした割合が 59.1%と、女性（42.3%）を 16.8 ポイント上回っている。女性は賛成とした割合が 34.5%と、男性（20.2%）に比べて 14.3 ポイント多い。

性別年齢別でみると、子どもを生み、育てる年代である女性の「40 歳代以下」で賛成とした割合が多く、「50 歳代以上」との間に大きな意識の相違がみられ、「50 歳代以上」は反対とした割合が大きく増加した。

図 2-11 「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方



問6 あなたの理想の(もちたいと思う)子どもの数は何人ですか。また、あなたは実際には生涯に何人子どもを持つつもりですか(持ちましたか)。(☑はそれぞれ1つずつ)

理想とする子どもの数は「2人」が50.3%と最も多く、「3人以上」が28.7%、「1人」が5.2%、「0人」が3.0%となっている。実際に持つつもり(持った)の子ども数は「2人」が47.2%、「3人以上」が14.7%、「1人」が16.2%、「0人」が10.3%となっており、理想とする子どもの数に比べて「3人以上」が14.0ポイント少なく、「1人」「0人」がそれぞれ11.0ポイント、7.3ポイント多くなっている。

図 2-12 子どもの数の理想と実際

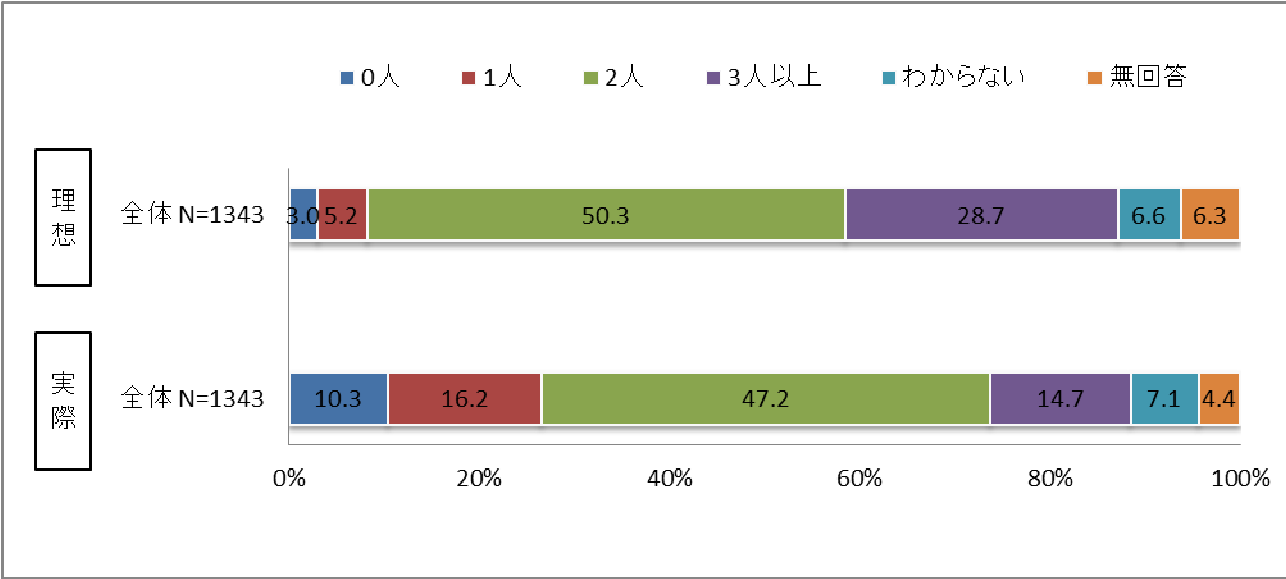
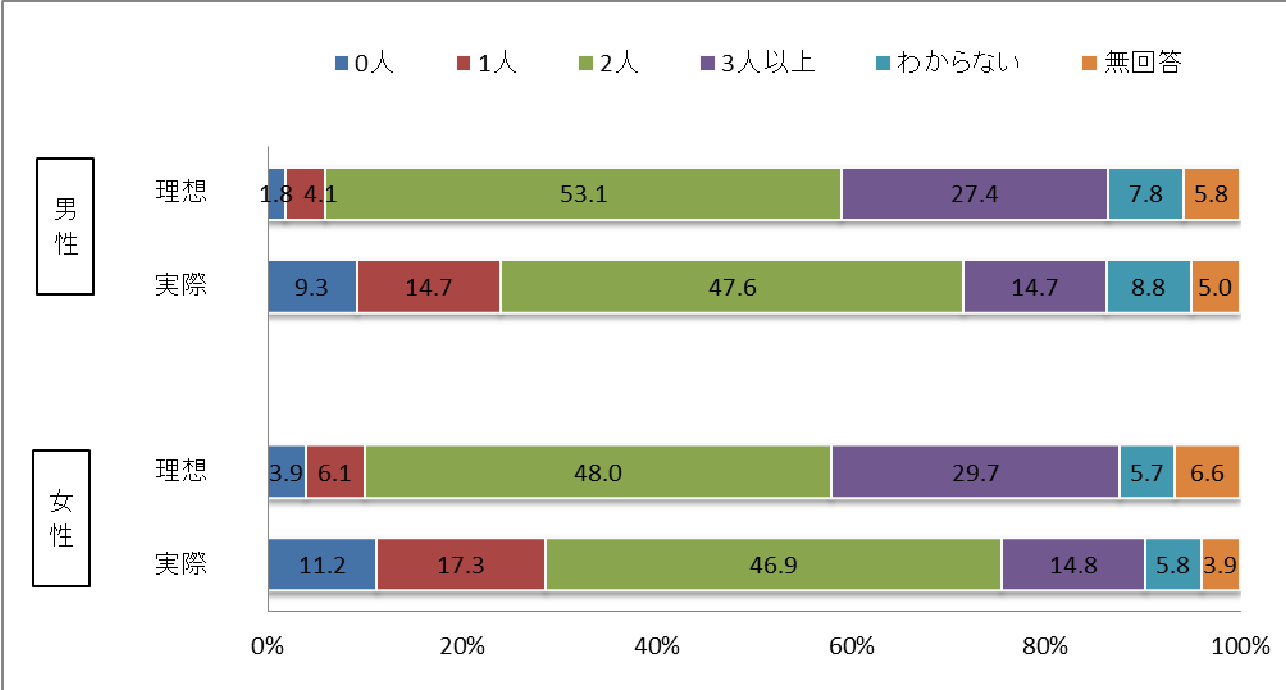


図 2-13 子どもの数の理想と実際(男女別)

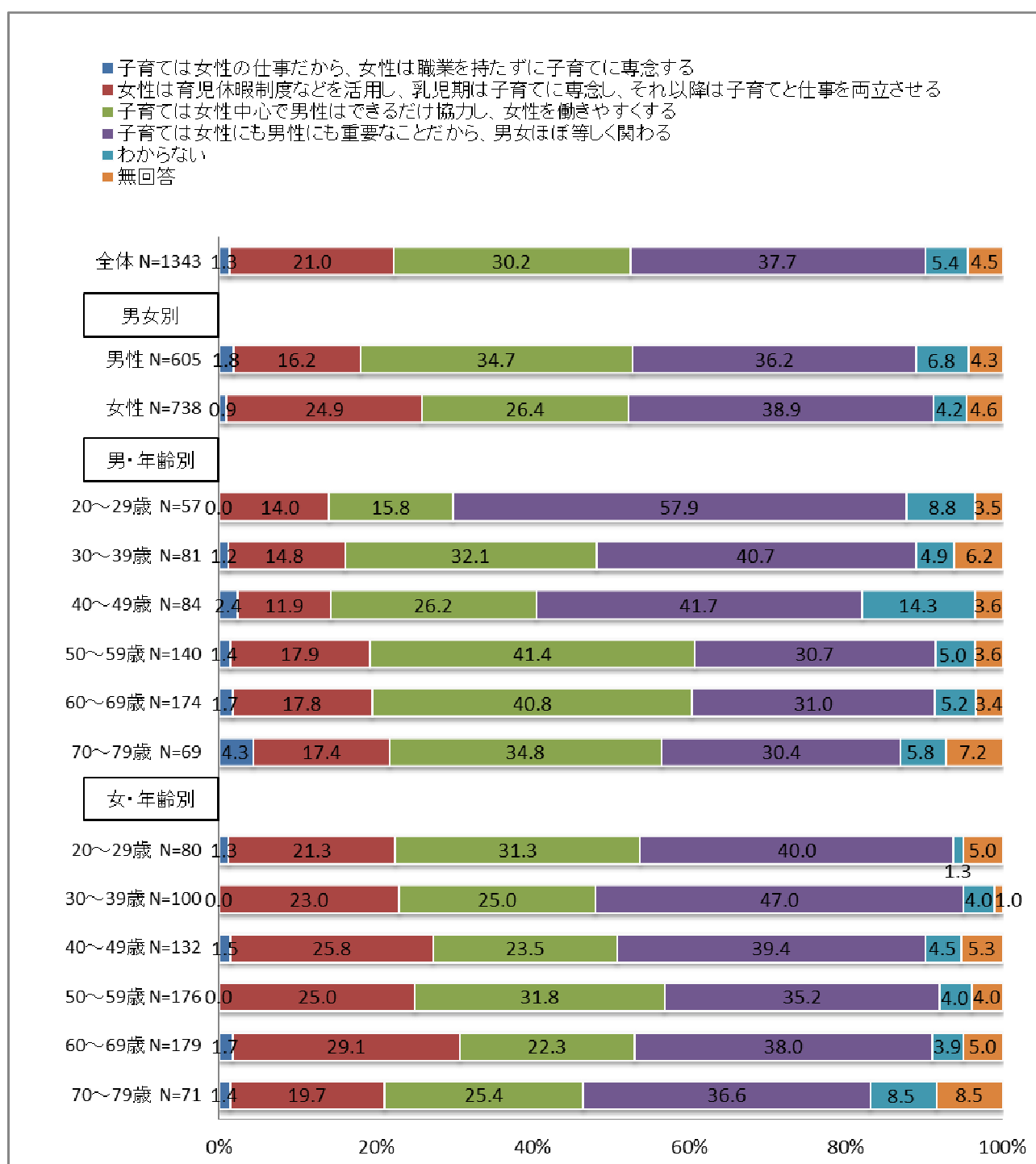


問7 あなたは、子育てと仕事についてどのように考えていますか。(1つだけに☑)

子育てと仕事については、「子育ては女性にも男性にも重要なことだから、男女ほぼ等しく関わる」が37.7%と最も多く、「子育ては女性中心で男性はできるだけ協力し、女性を働きやすくする」が30.2%、「女性は育児休暇制度などを活用し、乳児期は子育てに専念し、それ以降は子育てと仕事を両立させる」が21.0%、「子育ては女性の仕事だから、女性は職業を持たずに子育てに専念する」が1.3%となっている。

性別年齢別でみると、男性の「20歳代」は「子育ては女性にも男性にも重要なことだから、男女ほぼ等しく関わる」が57.9%と他の年齢層に比べて多い。

図 2-14 子育てと仕事について



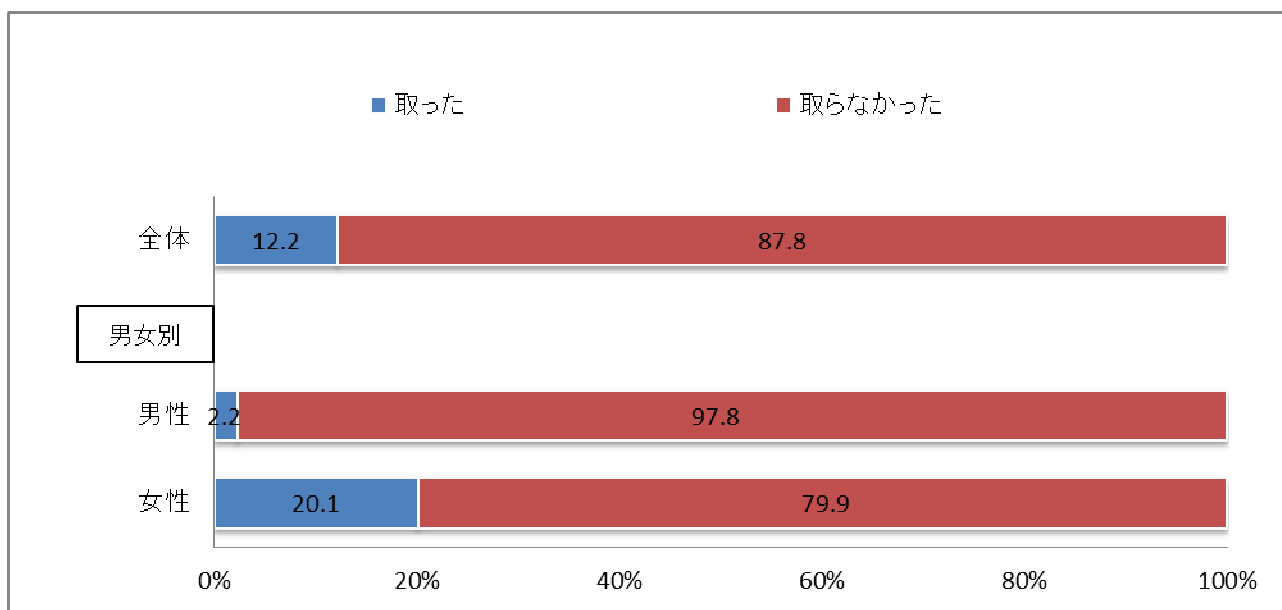
《子どもがいる方にお聞きます。》

問8 あなたは育児休暇を取りましたか。(1つだけに☑)

育児休業を「取った」は12.2%となっている。

男女別でみると、女性は「取った」が20.1%と、男性を大きく上回っている。

図 2-15 育児休業の取得状況



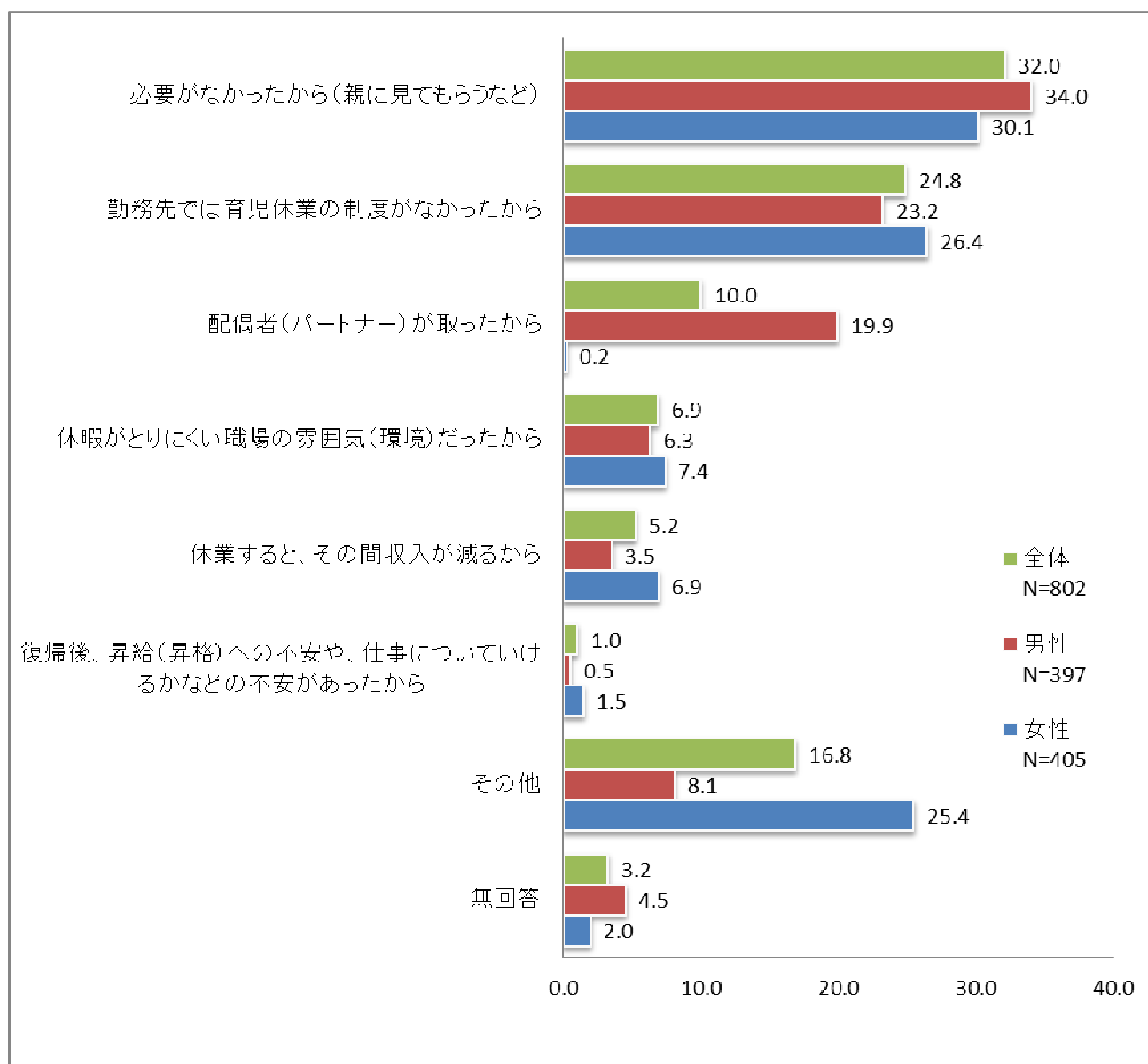
問9 問8で「2. 取らなかった」と答えた方にお聞きします。

取らなかった理由は何ですか。(1つだけに☑)

育児休業を「取らなかった」とした人の、取らなかった理由は、「必要がなかったから（親に見てもらおうなど）」32.0%、「勤務先では育児休業の制度がなかったから」24.8%、「その他」が16.8%となっている。

男女別では、男性は「必要がなかったから（親に見てもらおうなど）」が34.0%と多い。女性は「勤務先では育児休業の制度がなかったから」が26.4%、「その他」が25.4%となっている。

図 2-16 育児休業を取得しなかった理由

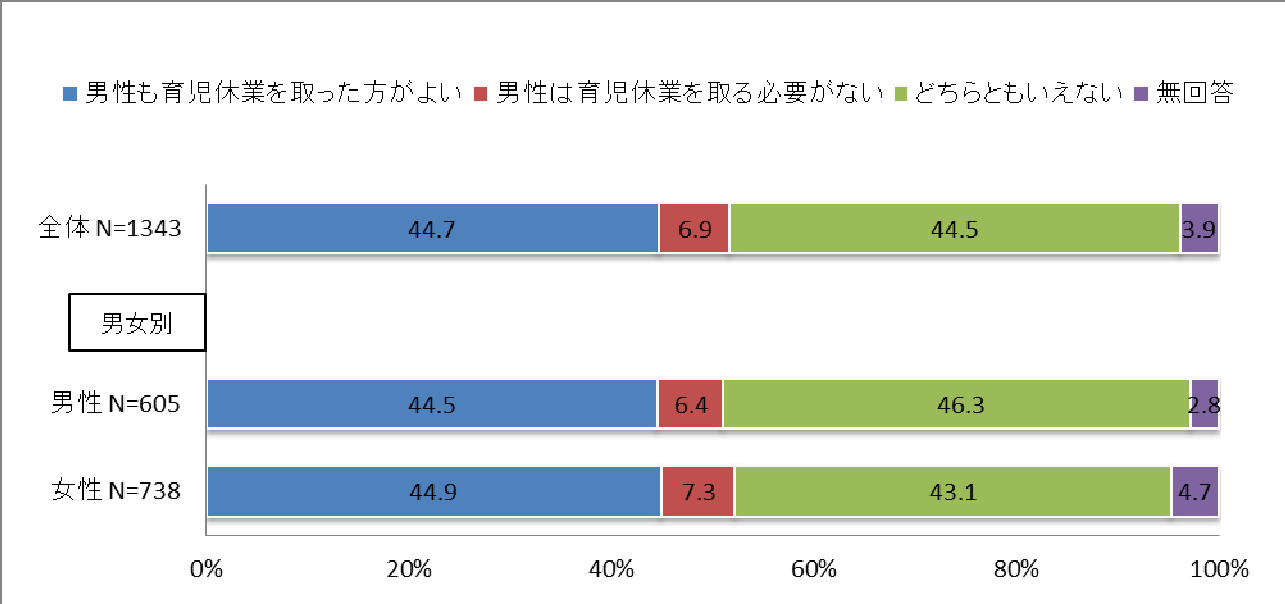


問 10 育児休業は男性も取ることができます。職場で男性が取ることについてどう思われますか。
(☑はそれぞれ1つつ)

男性が育児休業を取ることにについて、「取った方がよい」は 44.7%、「取る必要がない」は 6.9%、「どちらともいえない」 44.5%となっている。

男女別でも大きな違いはみられない。

図 2-17 男性の育児休業



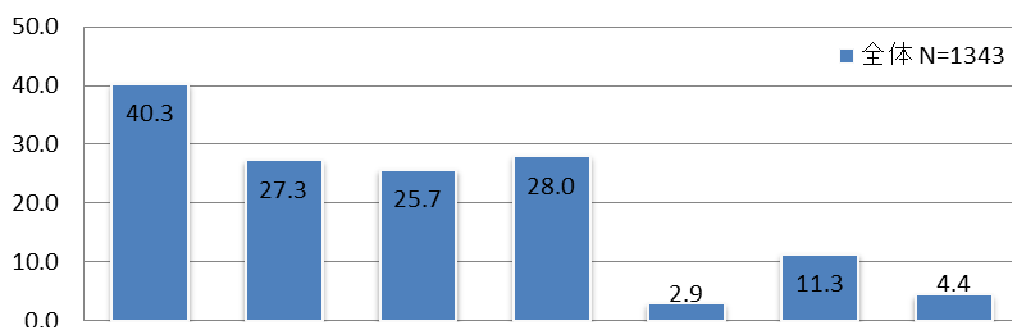
問 11 あなたの家庭では、高齢者介護の担い手は誰ですか。現在介護を受ける人がいない場合は将来誰が中心になると思いますか。介護を受ける人から見た続柄で回答してください。(いくつでも☑)

高齢者介護の担い手は、「配偶者」が40.3%と最も多く、次いで「娘」が28.0%、「息子」が27.3%となっている。

男女別では、男性は「配偶者」が47.8%と、女性に比べて13.7ポイント多い。特に、男性の「60歳以上」では「配偶者」が5割を超えて多くなっている。「60歳代以下」では「息子」が「娘」を上回っている。

女性は「30歳代以下」では「娘」が多く4割を超えている。「60歳代以下」では「娘」が「息子」を上回っている。

図 2-18 高齢者介護の担い手(複数回答)



			配偶者	息子	息子の配偶者	娘	娘の配偶者	その他	無回答
性別	男性 N=605	47.8	33.7	21.3	17.4	3.1	13.2	4.0	
	女性 N=738	34.1	22.0	29.3	36.7	2.7	9.8	4.7	
性別年齢別	男	20～29歳 N=57	36.8	47.4	24.6	21.1	7.0	8.8	1.8
		30～39歳 N=81	48.1	43.2	18.5	21.0	3.7	8.6	4.9
		40～49歳 N=84	38.1	41.7	23.8	14.3	1.2	16.7	3.6
		50～59歳 N=140	46.4	37.9	19.3	12.9	3.6	13.6	2.9
		60～69歳 N=174	52.9	25.3	25.3	17.8	2.9	14.4	2.9
		70～79歳 N=69	58.0	14.5	13.0	21.7	1.4	14.5	10.1
	女	20～29歳 N=80	30.0	23.8	31.3	47.5	5.0	15.0	6.3
		30～39歳 N=100	38.0	26.0	27.0	45.0	2.0	6.0	6.0
		40～49歳 N=132	34.1	17.4	36.4	29.5	0.8	10.6	3.0
		50～59歳 N=176	38.6	20.5	35.2	37.5	2.3	5.7	3.4
		60～69歳 N=179	35.8	18.4	21.2	33.5	4.5	12.3	3.9
		70～79歳 N=71	18.3	35.2	22.5	32.4	1.4	11.3	9.9

=最も多い数値

3. 仕事について

《現在、働いている方全員にお聞きします。》

問 12 次の①～⑧について、職場の実態またはあなたの感じ方に近いものを1～4の中から選んで

☑をつけてください。(☑はそれぞれ1つずつ)

- ①採用や退職について、男女に差がなくなっている
- ②仕事の分担は、男女関係なく個人の適性に合った形になっている
- ③同じ仕事の場合、男女同じように昇給・昇格している
- ④男女は、同じように研修や訓練を受けている
- ⑤育児休業制度が活用されるなど、妊娠・出産・育児などを支える制度、雰囲気がある
- ⑥女性は責任が重くなるのを敬遠しているように思われる
- ⑦女性も管理職に就いて、経営方針や企画に積極的に関わっている
- ⑧出産などにより一旦退職した女性が同じ職場に再雇用されている

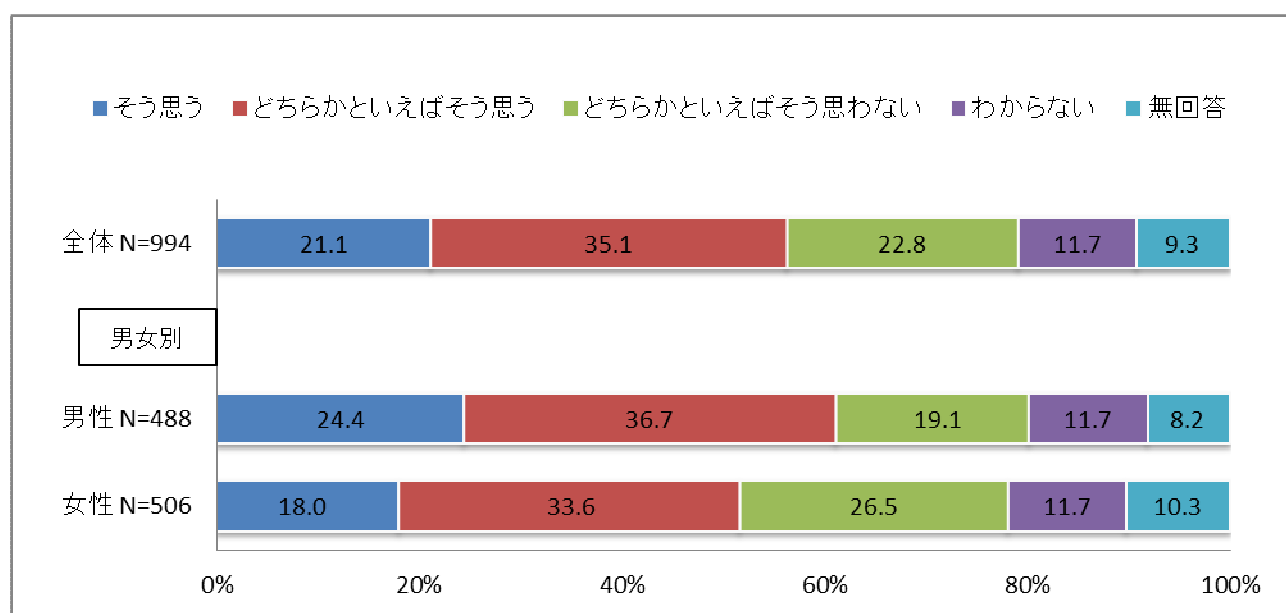
働いている 994 人の、職場での男女差に関する意識をみることとする。

①「採用や退職について、男女に差がなくなっている」

採用や退職に関する男女差がなくなっていることについて、肯定した割合（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）は 56.2%、否定した割合（「どちらかといえばそう思わない」）は 22.8%となっている。

男女別でみると、男性は肯定した割合が 61.1%と女性に比べて 9.5 ポイント多い。

図 3-1 採用や退職について、男女に差がなくなっている

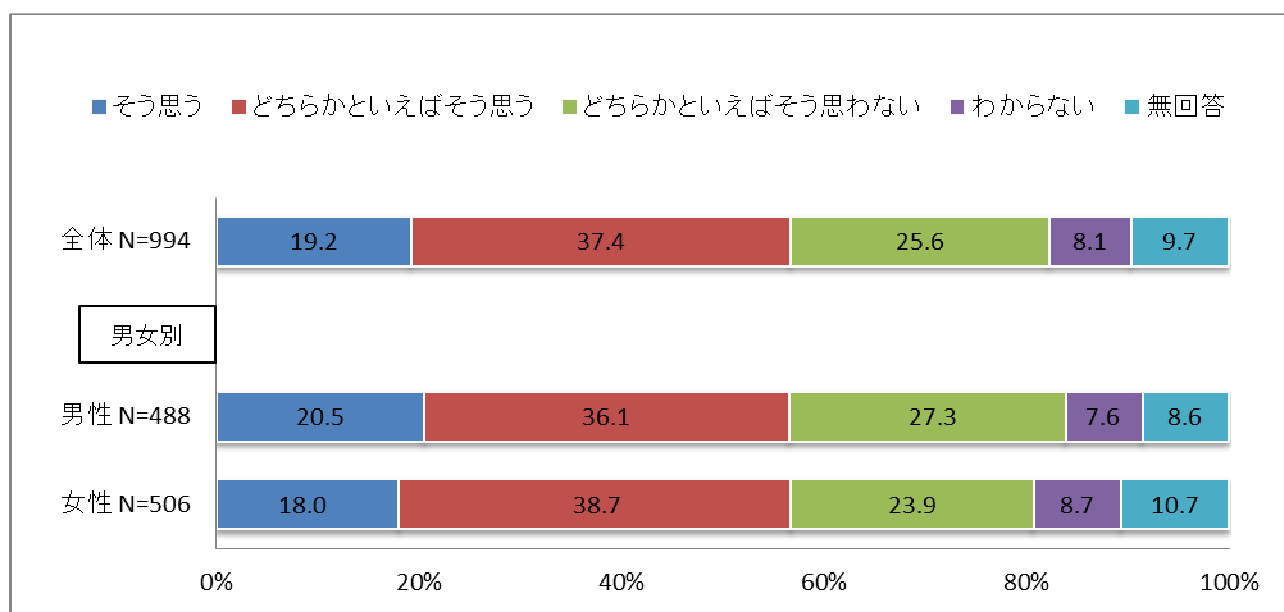


②「仕事の分担は、男女関係なく個人の適性に応じた形になっている」

男女関係なく仕事の分担が行われているかについて、肯定した割合は 56.6%、否定した割合は 25.6% となっている。

男女別でみても、肯定した割合は男性が 56.6%、女性が 56.7%と大差はない。

図 3-2 仕事の分担は、男女関係なく個人の適性に応じた形になっている

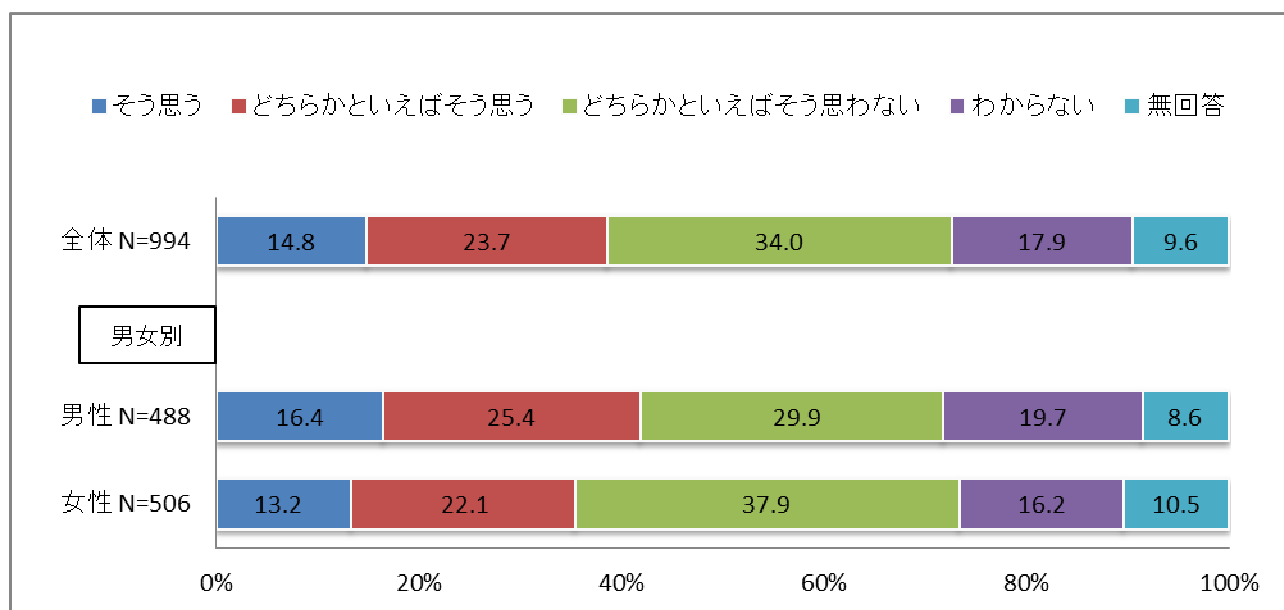


③「同じ仕事の場合、男女同じように昇給・昇格している」

男女差のない昇給・昇進について、肯定した割合は 38.5%、否定した割合は 34.0%となっている。

男女別でみると、女性は否定した割合が 37.9%と、男性に比べて 8.0 ポイント多い。

図 3-3 同じ仕事の場合、男女同じように昇給・昇格している

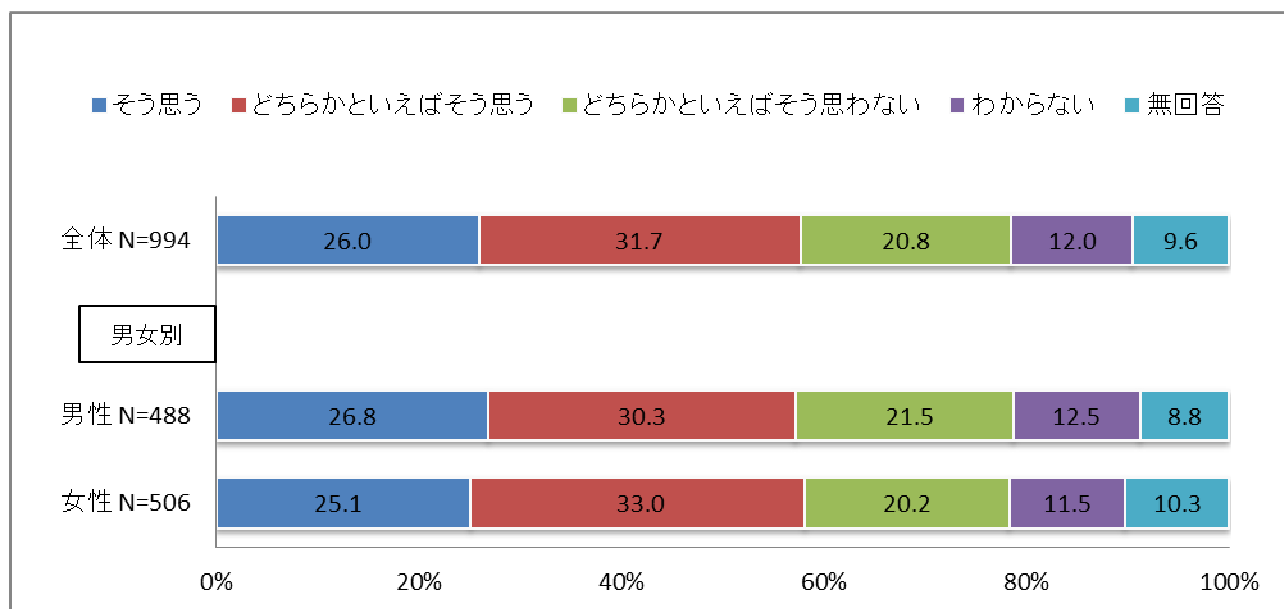


④「男女は、同じように研修や訓練を受けている」

男女差のない研修や教育訓練について、肯定した割合は 57.7%、否定した割合は 20.8%となっている。

男女別でも、肯定した割合は男性が 57.1%、女性が 58.1%と大差はない。

図 3-4 男女は、同じように研修や訓練を受けている

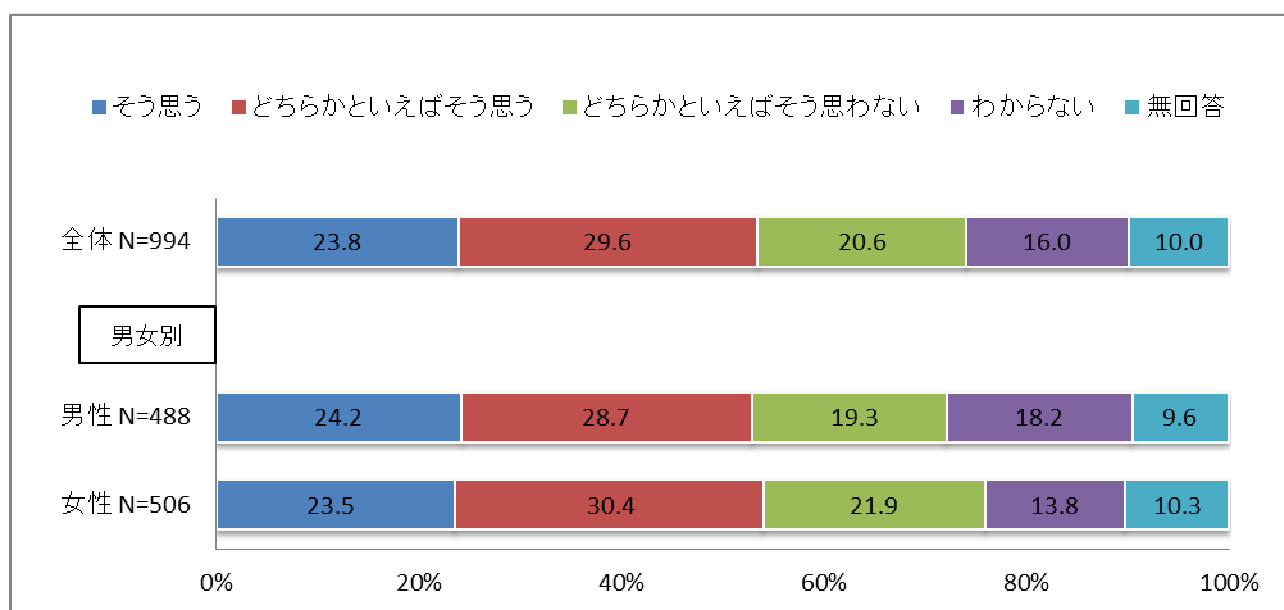


⑤「育児休業制度が活用されるなど、妊娠・出産・育児などを支える制度、雰囲気がある」

育児などを支える制度があるかについて、肯定した割合は 53.4%、否定した割合は 20.6%となっている。

男女別でみると、女性は否定した割合が 21.9%と、男性に比べて 2.6 ポイント多い。

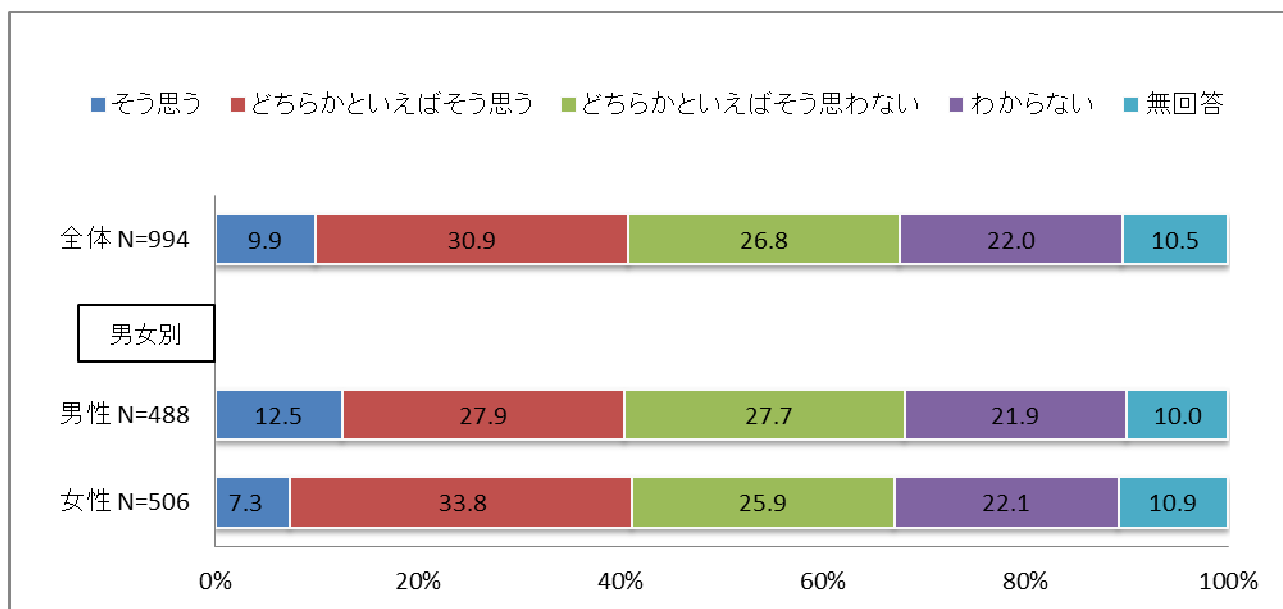
図 3-5 妊娠・出産・育児などを支える制度、雰囲気がある



⑥「女性は責任が重くなるのを敬遠しているように思われる」

女性は責任が重くなるのを敬遠しているかについて、肯定した割合は 40.8%、否定した割合は 26.8% となっている。

図 3-6 女性は責任が重くなるのを敬遠しているように思われる

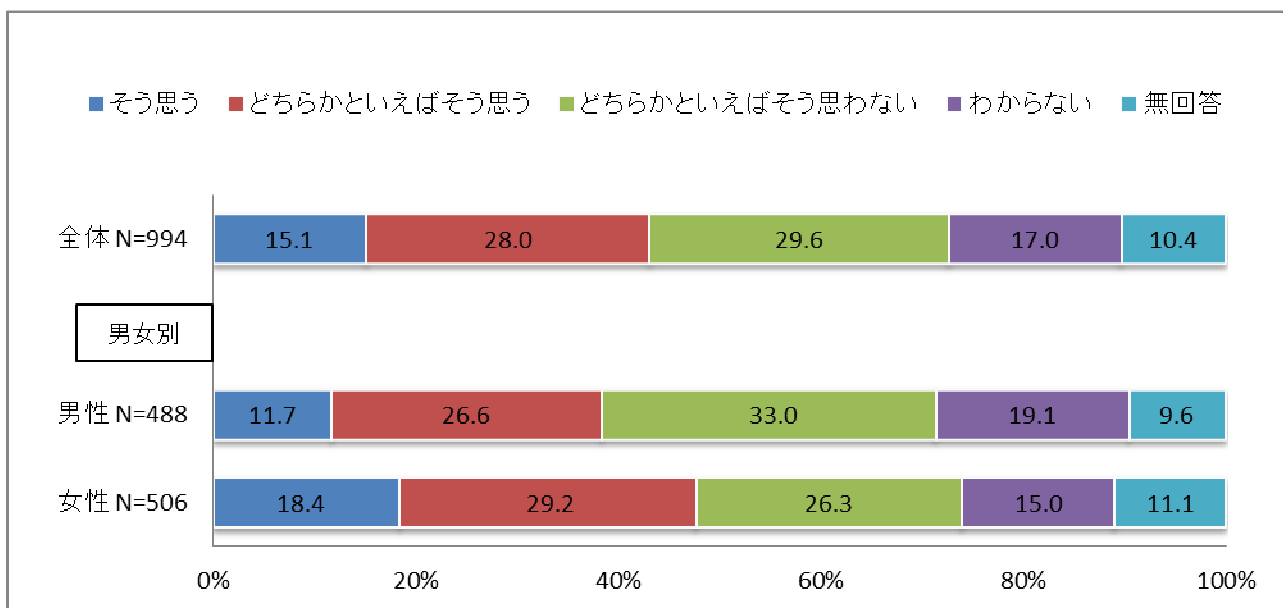


⑦「女性も管理職に就いて、経営方針や企画に積極的に関わっている」

女性も管理職に就いて、経営方針や企画に積極的に関わっているかについて、肯定した割合が 43.1%、否定した割合は 29.6% となっている。

男女別でみると、男性は否定した割合が 33.0%と、女性に比べて 6.7 ポイント多い。女性は肯定した割合が 47.6%と、男性を 9.3 ポイント上回っている。

図 3-7 女性も管理職に就いて、経営方針や企画に積極的に関わっている

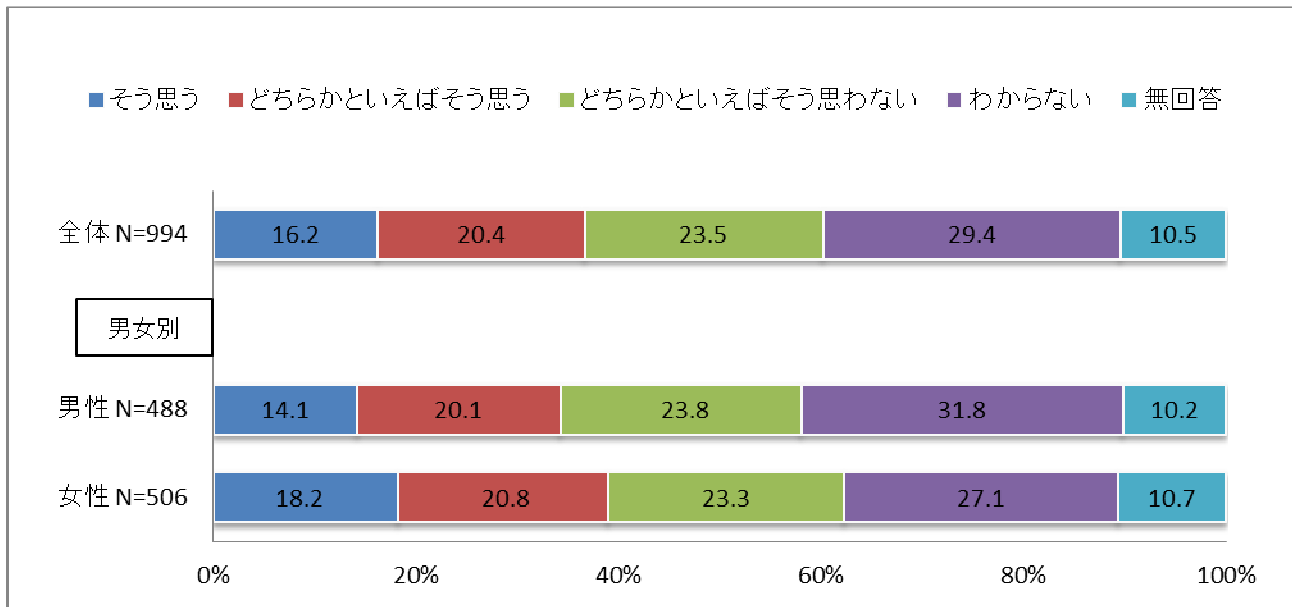


⑧「出産などにより一旦退職した女性が同じ職場に再雇用されている」

再雇用について、肯定した割合は 36.6%、否定した割合は 23.5%となっている。

男女別でみると、女性は肯定した割合が 39.0%と男性に比べて 4.8 ポイント多い。

図 3-8 出産などにより一旦退職した女性が同じ職場に再雇用されている



4. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

問 13 仕事と家庭生活等について、あなたが望ましいと思うのはどれですか。また、あなたご自身の実際の生活はいかがですか。(☑はそれぞれ1つずつ)

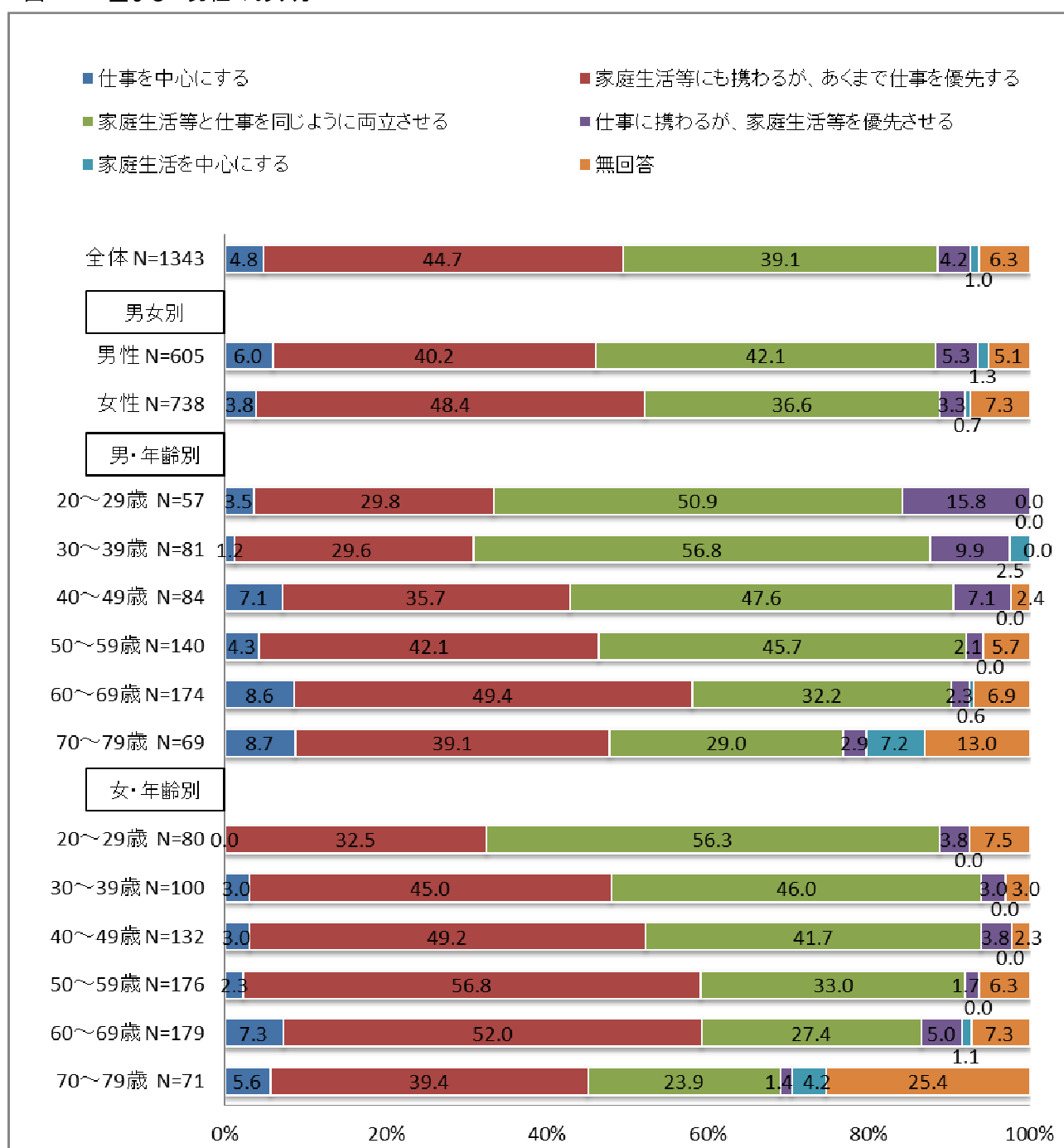
①望ましい男性のあり方 ②望ましい女性のあり方 ③あなたの実際の生活

①望ましい男性のあり方

望ましい男性のあり方は、仕事を優先とする(「仕事を中心」+「家庭生活にも携わるが、あくまで仕事を優先する」)は49.5%、「家庭生活等を仕事と同じように両立させる」39.1%、家庭生活等を優先とする割合(「家庭生活を中心にする」+「仕事には携わるが家庭生活等を優先させる」)は5.2%となっている。

男性の「60歳代」は、「男性は仕事を優先とする割合」が58.0%となっている。

図 4-1 望ましい男性のあり方

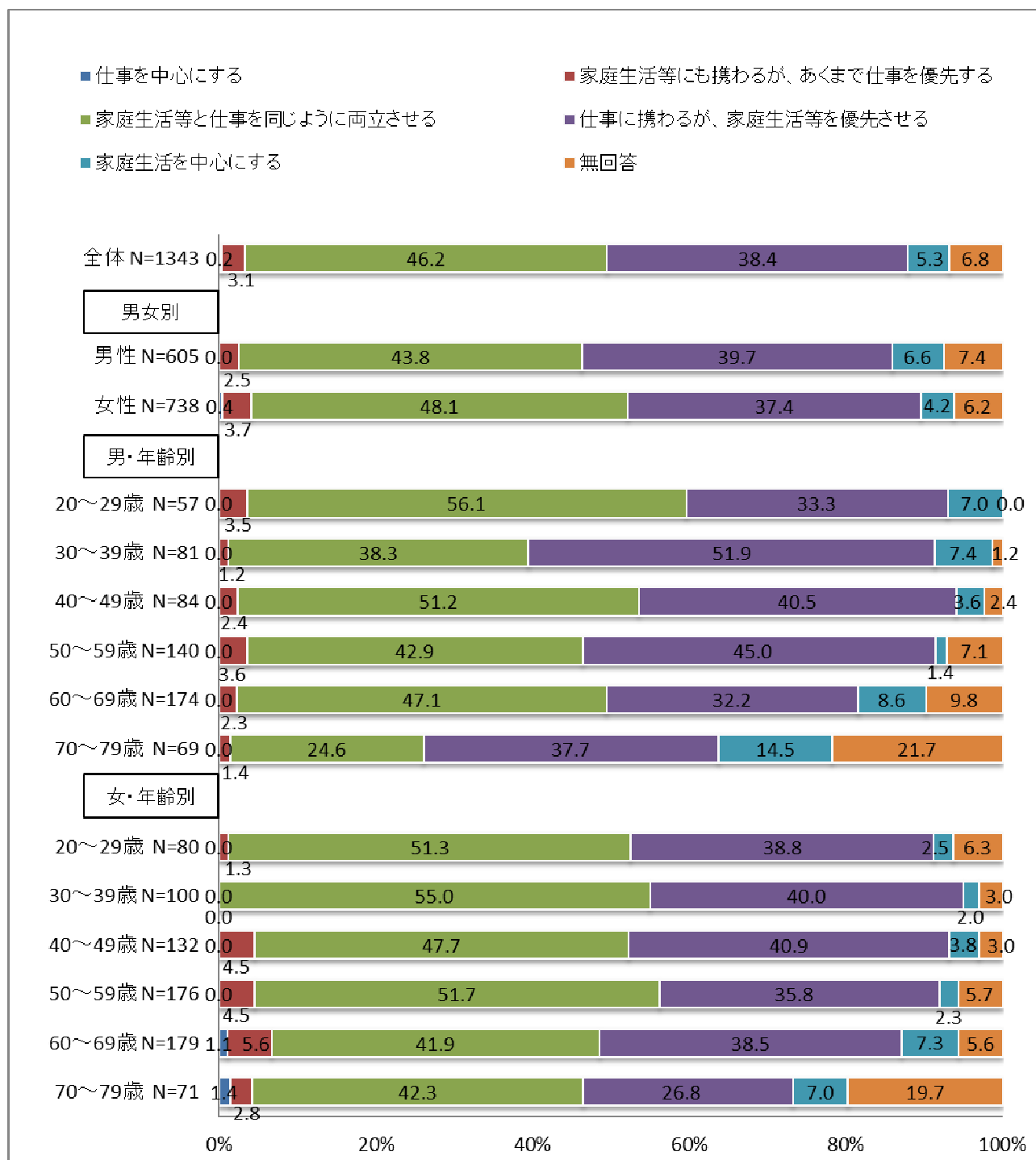


②望ましい女性のあり方

望ましい女性のあり方は、家庭生活等を優先とする割合（「家庭生活を中心」＋「家庭生活等を優先」）が43.7%となっている。「家庭生活等を仕事と同じように両立させる」が46.2%、仕事を優先とする割合（「仕事を中心」＋「家庭生活にも携わるが、あくまで仕事を優先」）は3.3%となっている。

男女別では、男性は、女性の家庭生活等を優先する割合（「家庭生活を中心」＋「家庭生活等を優先」）が46.3%と、女性に比べて4.7ポイント多い。女性は「家庭生活等を仕事と同じように両立させる」が48.1%と、男性を4.3ポイント上回っている。

図 4-2 望ましい女性のあり方



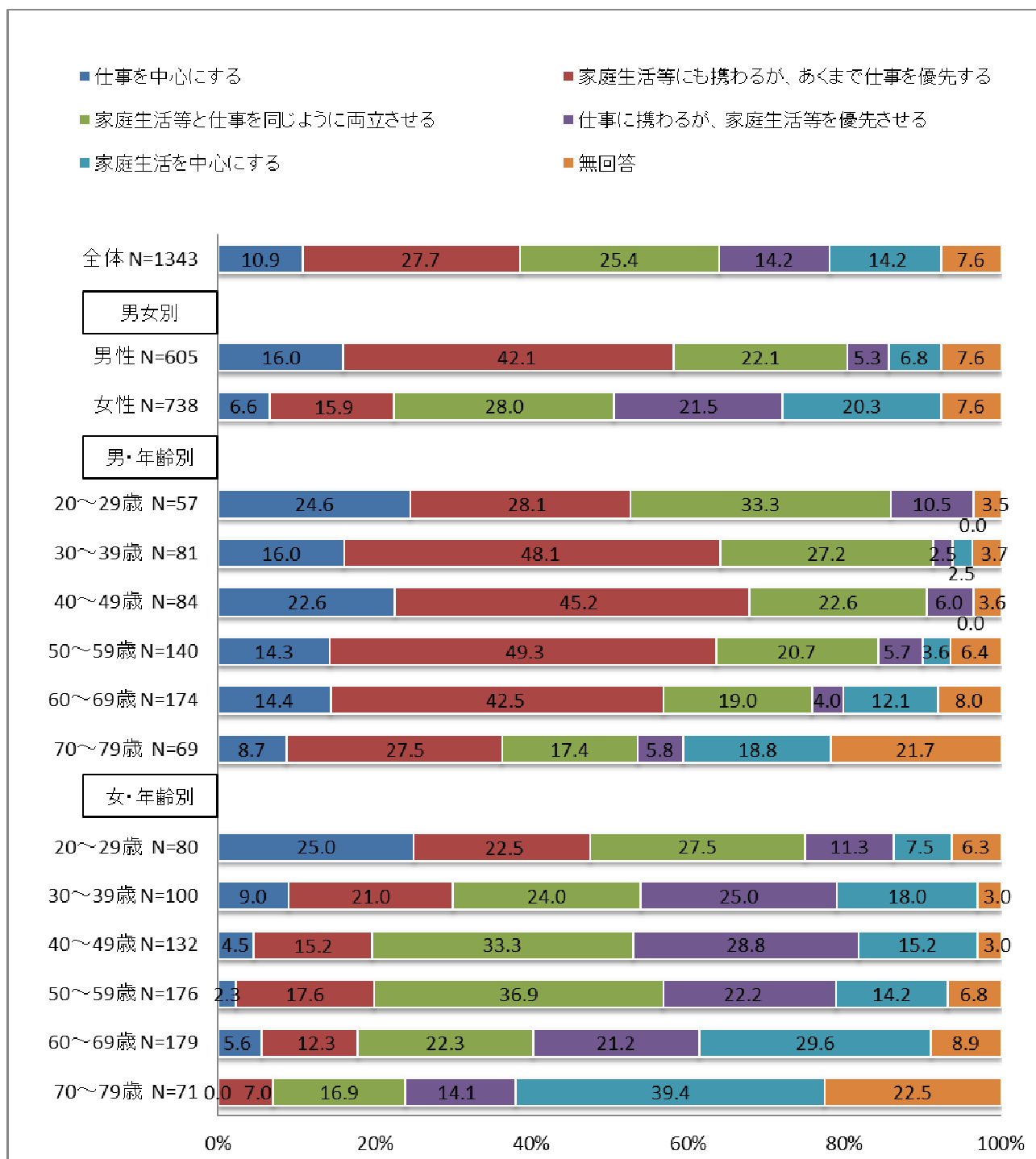
③実際の生活

実際の生活は、仕事を優先とする割合（「仕事を中心」＋「あくまで仕事を優先」）が38.6%、家庭生活等を優先とする割合（「家庭生活を中心」＋「家庭生活等を優先」）が28.4%、「家庭生活等を仕事と同じように両立させる」が25.4%となっている。

男女別では、男性は仕事を優先とする割合（「仕事を中心」＋「あくまで仕事を優先」）が58.1%、女性は家庭生活等を優先とする割合（「家庭生活を中心」＋「家庭生活等を優先」）が41.8%となっている。

性別年齢別でみると、男性の「30～50 歳代」は仕事を優先とする割合（「仕事を中心」＋「あくまで仕事を優先」）が6割を超えている。女性の「70 歳代」は、「家庭生活を中心」＋「家庭生活等を優先」が53.5%と多い。

図 4-3 実際の生活



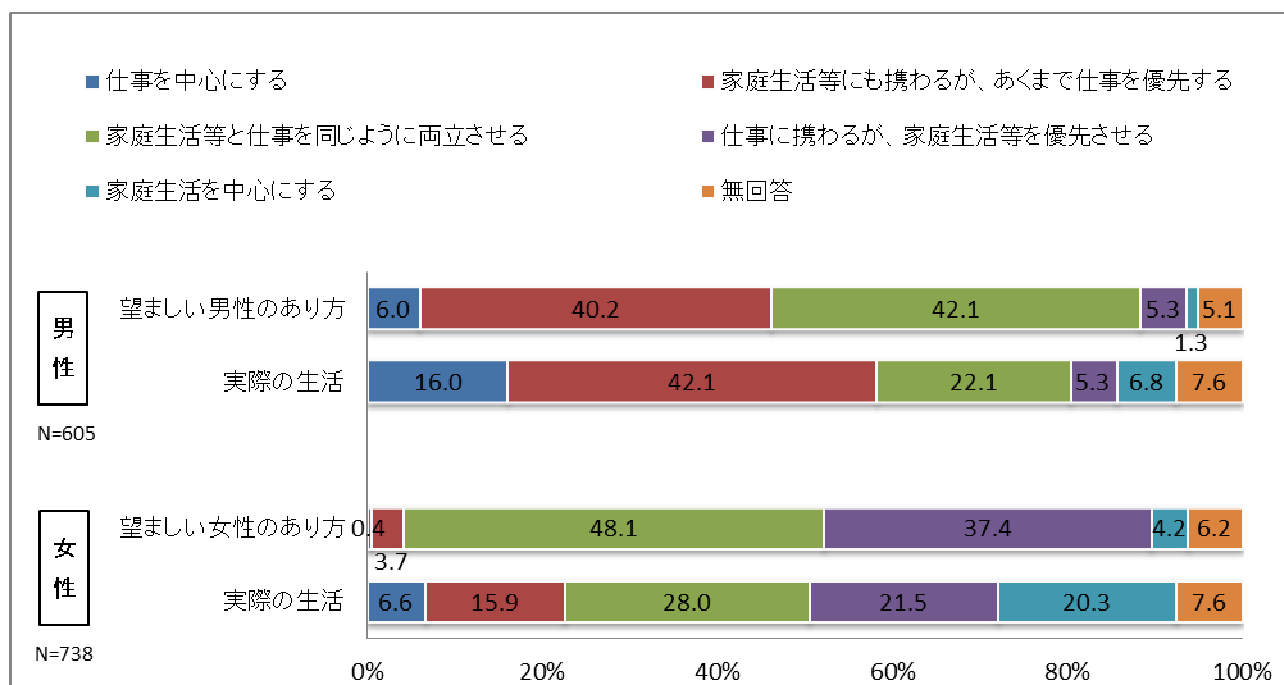
④理想と現実

男性が考える「望ましい男性のあり方」と男性の実際の生活、女性が考える「望ましい女性のあり方」と女性の実際の生活をそれぞれ比較してみる。

男性は、仕事を優先とする割合（「仕事を中心」＋「あくまで仕事を優先」）が理想では46.2%で現実には58.1%と11.9ポイント多い。「家庭生活等と仕事の両立」が理想では42.1%、現実には22.1%と20.0ポイント少ない。家庭生活等を優先とする割合（「家庭生活を中心」＋「家庭生活等を優先」）は理想では6.6%、現実には12.1%と5.5ポイント多い。

女性は、「家庭生活等と仕事の両立」が理想では48.1%、現実には28.0%と20.1ポイント少ない。「仕事を優先とする割合」は理想では4.1%、現実には22.5%と18.4ポイント多くなっている。

図 4-4 理想と現実

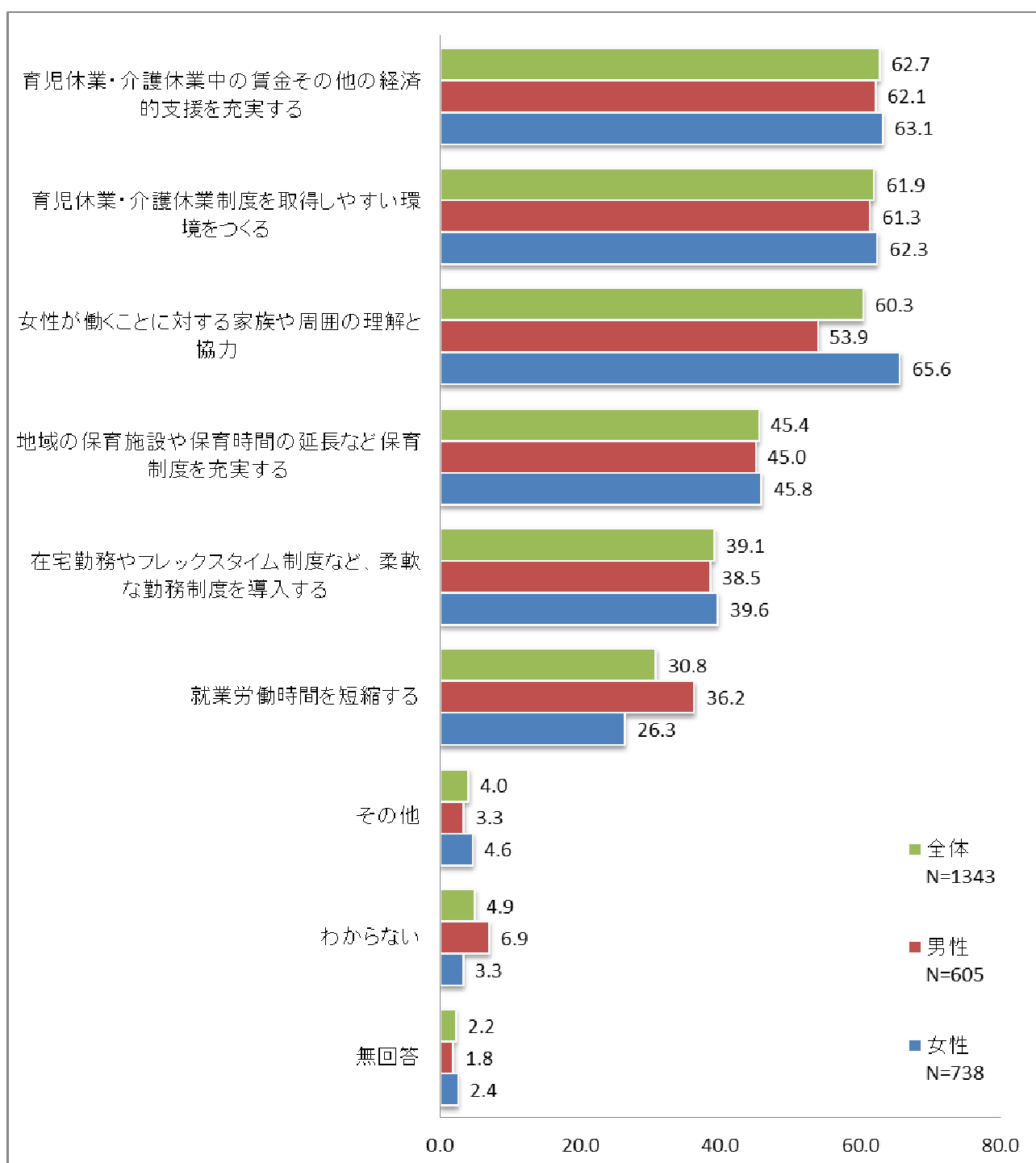


問 14 男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも☑)

男女がともに仕事と家庭を両立していくために必要だと思うことは、「育児休業中・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する」が最も多く 62.7%、次いで「育児休業・介護休業制度を取得しやすい環境をつくる」が 61.9%、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」が 60.3%、「地域の保育施設や保育時間の延長など保育制度を充実する」45.4%となっている。

男女別では、女性は「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」が 65.6%と男性に比べ 11.7ポイント多くなっている。

図 4-5 仕事と家庭の両立に必要なこと(複数回答)



世代年齢別では、男女とも「20 歳代」は「育児休業・介護休業制度を取得しやすい環境をつくる」が7割を超え、特に女性は8割を超えている。女性の「50 歳代」「60 歳代」は「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」が、男性の「30 歳代」と女性の「40 歳代」は「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する」がそれぞれ7割を超えている。

男女とも「20 歳代」は「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」が他の年齢層に比べて多い。

表2 仕事と家庭の両立に必要なこと(複数回答)											(%)
			の育 児休 業・ 介 護 休 業 中 の 賃 金 そ の 他	す育 児休 業・ 介 護 休 業 制 度 を 取 得 し や る	の女 性 が 働 く こ と に 対 す る 家 族 や 周 圍	ど地 域 の 保 育 施 設 や 保 育 時 間 の 延 長 な ど	ど在 宅 勤 務 や フ レ ッ ク ス タ イ ム 制 度 な ど	就 業 労 働 時 間 を 短 縮 す る	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
性別 年 齢 別	男	20～29歳 N=57	70.2	71.9	50.9	43.9	49.1	42.1	0.0	5.3	0.0
		30～39歳 N=81	74.1	71.6	54.3	48.1	45.7	44.4	3.7	3.7	0.0
		40～49歳 N=84	61.9	51.2	51.2	33.3	42.9	39.3	8.3	7.1	1.2
		50～59歳 N=140	65.0	59.3	53.6	47.9	38.6	40.0	2.9	5.7	1.4
		60～69歳 N=174	56.9	63.8	58.6	48.3	39.1	33.9	2.3	6.3	2.3
		70～79歳 N=69	49.3	50.7	47.8	42.0	14.5	15.9	2.9	15.9	5.8
	女	20～29歳 N=80	75.0	86.3	60.0	56.3	51.3	32.5	7.5	1.3	2.5
		30～39歳 N=100	65.0	59.0	61.0	49.0	46.0	38.0	10.0	4.0	1.0
		40～49歳 N=132	71.2	66.7	56.8	41.7	50.8	27.3	6.8	3.0	0.0
		50～59歳 N=176	62.5	59.1	70.5	47.7	41.5	20.5	3.4	1.7	3.4
		60～69歳 N=179	61.5	64.2	71.5	49.7	29.1	21.8	1.7	2.2	2.2
		70～79歳 N=71	38.0	35.2	67.6	22.5	18.3	26.8	0.0	11.3	7.0
職 業 別	自営業 N=223	55.6	53.4	63.7	41.3	30.0	27.8	2.7	7.6	2.7	
	フルタイム勤務 N=578	67.8	64.9	56.6	45.7	43.3	36.9	5.0	2.9	1.7	
	パートタイム勤務 N=193	64.2	64.8	63.2	47.2	42.0	24.9	4.1	2.6	1.6	
	無職 N=329	56.8	60.8	62.0	47.1	37.1	24.9	3.0	7.6	1.8	

＝最も多い数値

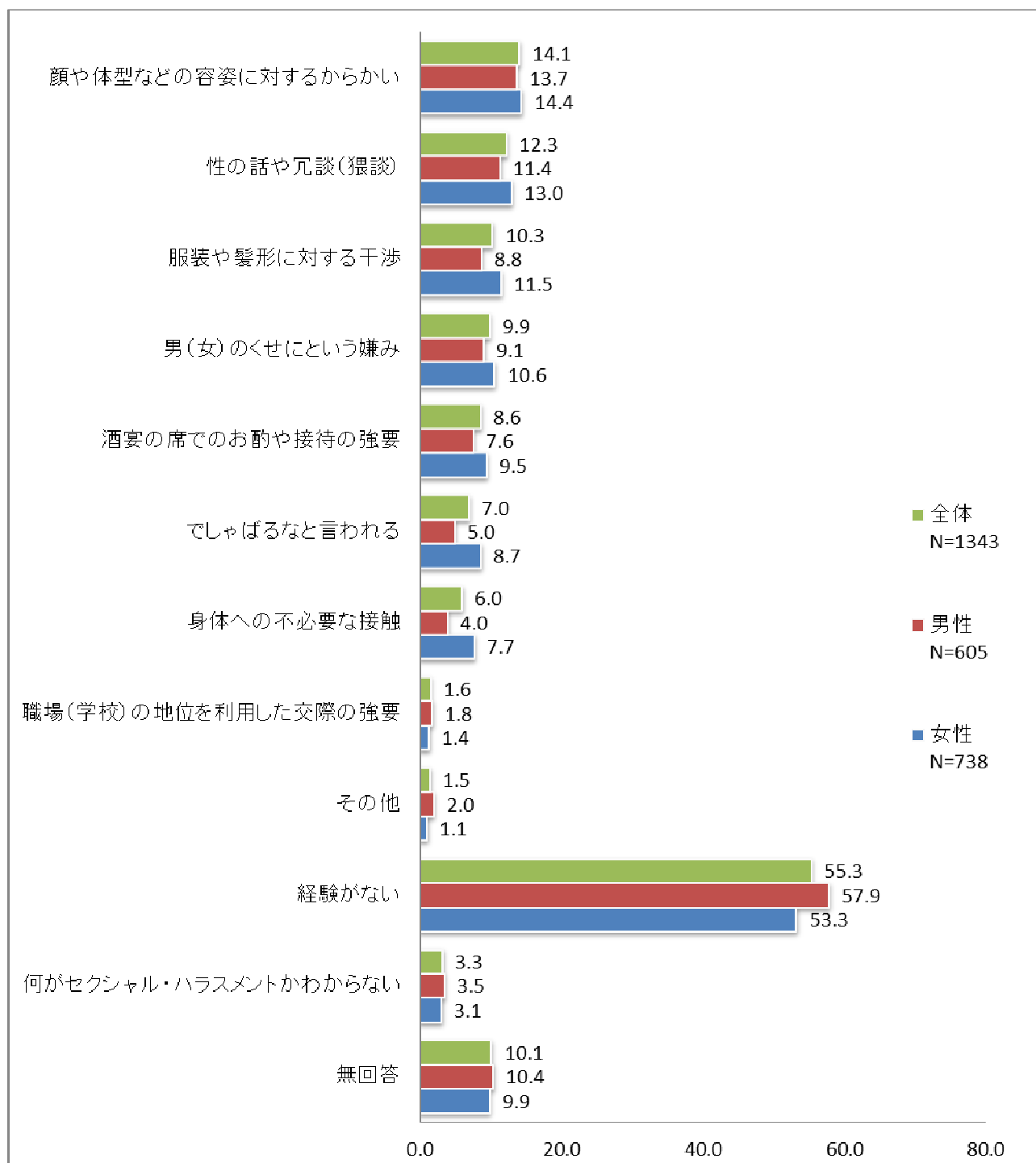
5. セクシャル・ハラスメントについて

問 15 あなたは、過去5年以内に職場（アルバイトも含む）や学校、地域の会合などで次のようなセクシャル・ハラスメント（性的ないやがらせ）をされたり、見たたりした経験がありますか。（いくつでも☑）

セクシャル・ハラスメントの「経験がない」は55.3%と5割を超えている。

経験がある人のその内容は、「顔や体型などの容姿に対するからかい」「性の話や冗談（猥談）」が上位にあげられた。

図 5-1 セクシャル・ハラスメントの経験（複数回答）



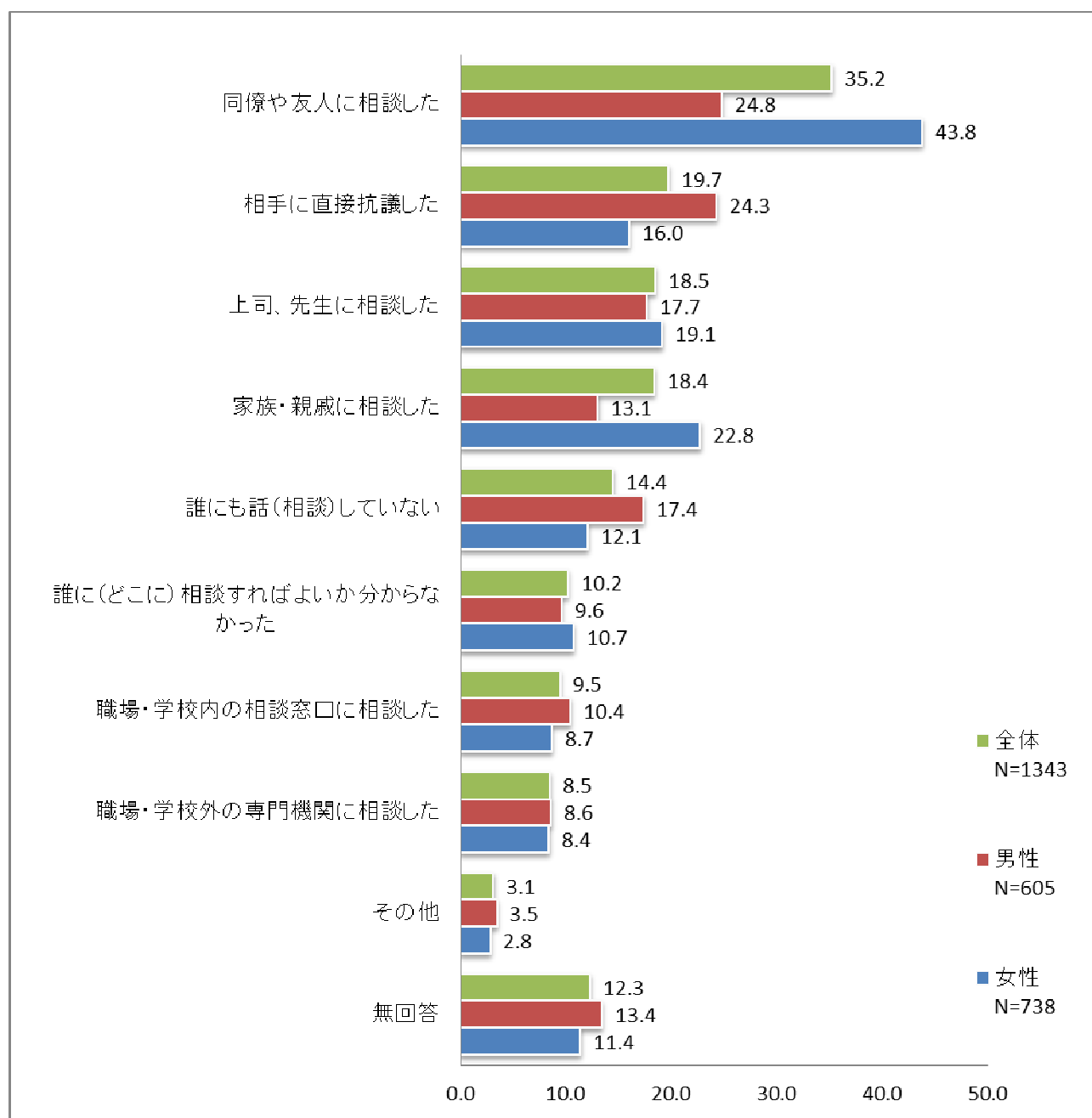
問 16 セクシャル・ハラスメントをされたり、見たりした時、あなたはどうしましたか。

(経験が無い方は「どうするか」に置きかえて考えてください。)(いくつでも☑)

セクシャル・ハラスメントを、されたり、見たりした時どうするかをみると、「同僚や友人に相談した」が最も多く 35.2%、次いで「相手に直接抗議した」が 19.7%、「上司、先生に相談した」が 18.5%、「家族・親戚に相談した」が 18.4%となっている。「職場・学校内の相談窓口」や「職場・学校外の専門機関」に相談した割合は 8.5～9.5%みられる。また、「誰にも話（相談）していない」が 14.4%、「誰に（どこに）相談すればよいか分からなかった」が 10.2%となっている。

男女別では、女性は「同僚や友人に相談した」が 43.8%と、男性を 19.0 ポイント上回っている。また、「家族・親戚に相談した」が 22.8%と男性に比べて 9.7 ポイント多い。男性は「相手に直接抗議した」が 24.3%と、女性を 8.3 ポイント上回っている。

図 5-2 セクシャル・ハラスメントの相談先(複数回答)



6. DV(配偶者からの暴力)について

問 17 あなたは夫や妻、パートナー、恋人から次のような行為をされたことがありますか。

(☑はそれぞれ1つずつ)

- ①殴る、ける、物を投げるなどの身体的暴力
- ②大声で怒鳴る、脅す、交友関係や電話の監視などの精神的暴力
- ③生活費を渡さない、金銭的な自由を与えないなどの経済的暴力
- ④嫌がるのに性的な行為を強要したり、避妊に協力しないなどの性的暴力

DVを受けた経験があると答えた人は全体で 18.5%、男性は 12.4%、女性は 23.6%となっている。

4つの暴力行為のうち、精神的暴力の経験が一番多く、13.3%（「頻繁にある」1.2%+「数回ある」12.1%）。次いで身体的暴力は9.8%（「頻繁にある」0.5%+「数回ある」9.3%）、経済的暴力は4.3%（「頻繁にある」1.0%+「数回ある」3.3%）となっている。

図 6-1 DVの経験

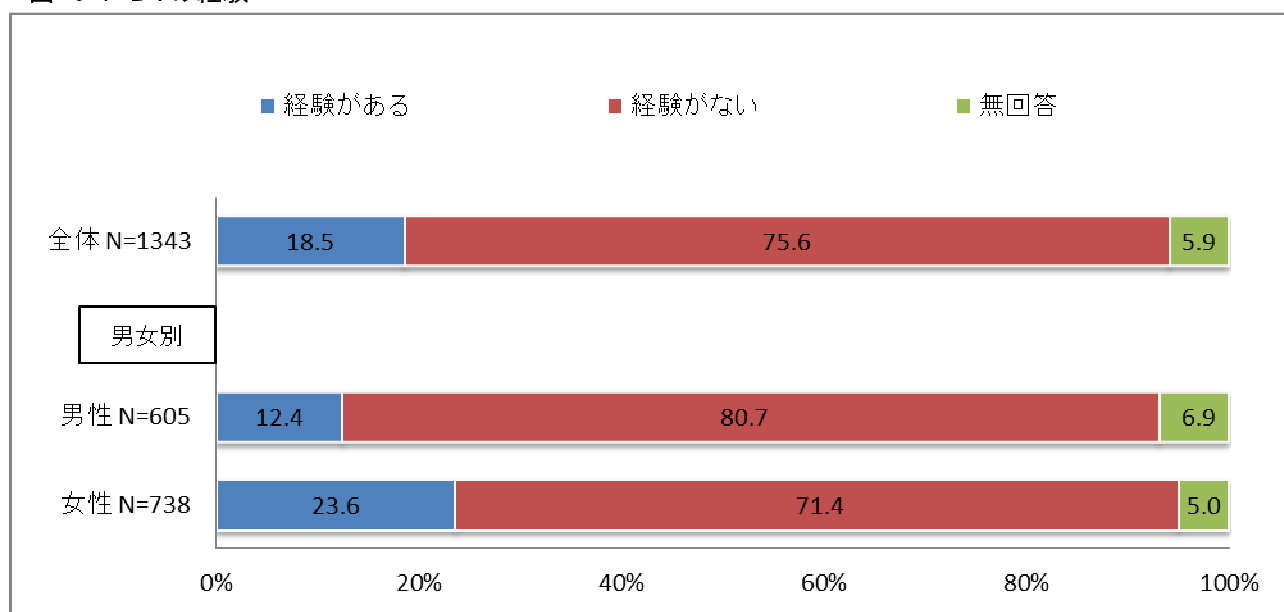
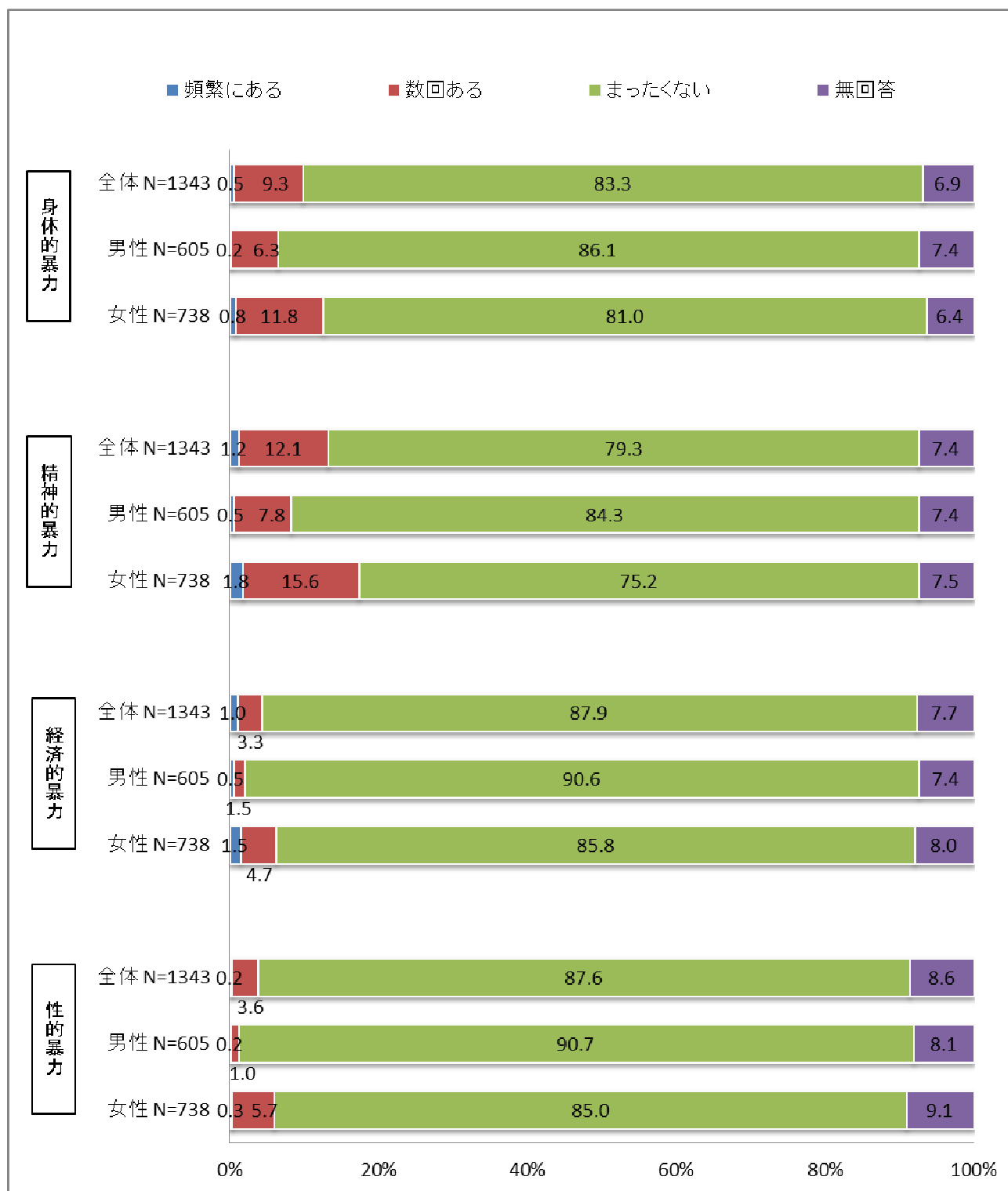


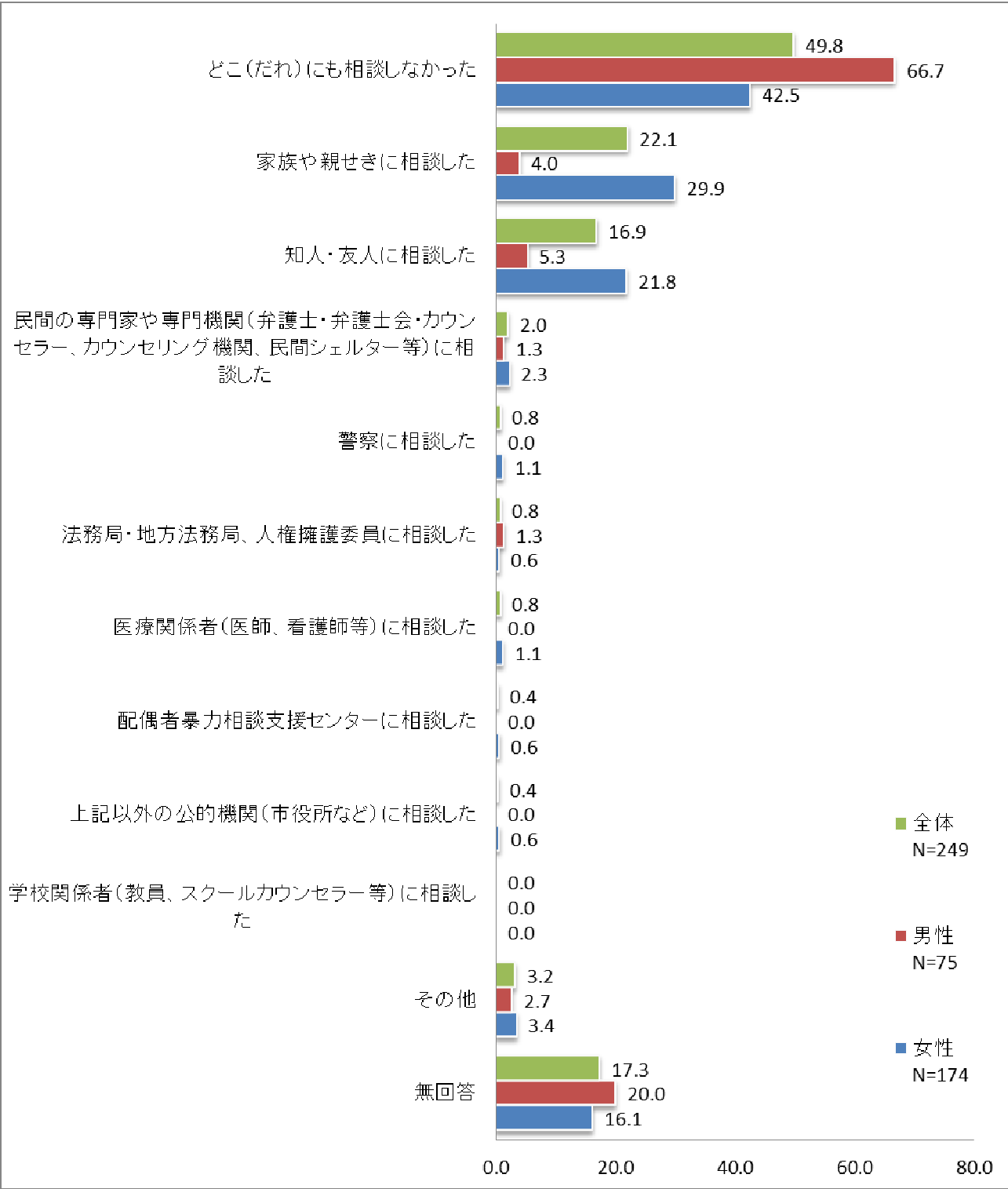
図 6-2 DVの経験



問 18 問 17 の①から④のうち、ひとつでも「1. 頻繁にある」か「2. 数回ある」に☑をつけた方にお聞きます。
その後、どこか(だれか)に相談しましたか。(いくつでも☑)

前問において、1 つでもDV経験があるとした人が、どこか(だれか)に相談したかをみると、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が49.8%を占める。相談した人の相談先は「家族や親せき」が22.1%、「知人・友人」が16.9%となっている。

図 6-3 DVの相談先(複数回答)

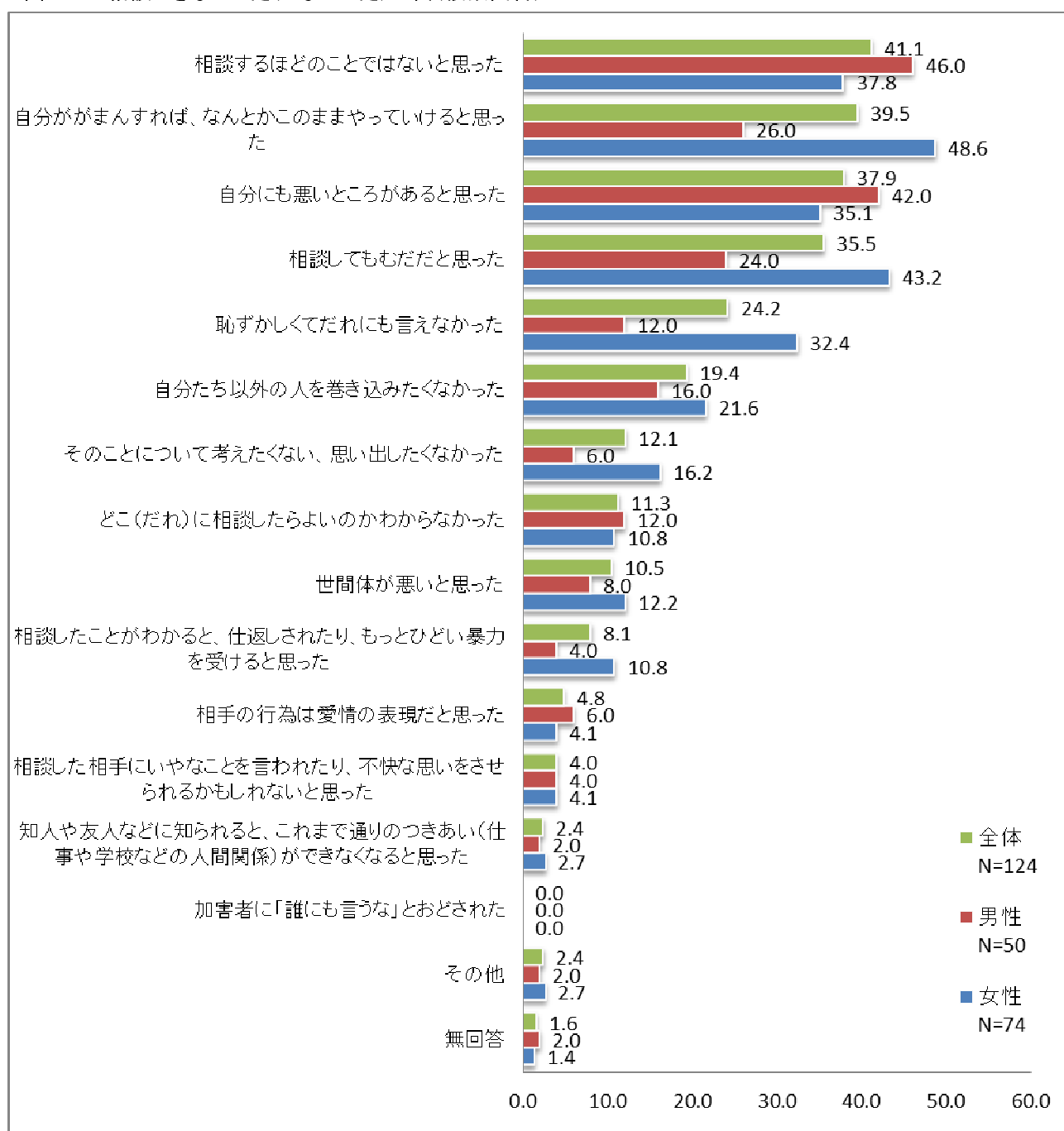


問 19 問 18 で「1. どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した方にお聞きます。相談しなかった理由はどんなことですか。(いくつでも☑)

DVを受けていることを「どこ（だれ）にも相談しなかった」とした人の理由をみると、「相談するほどのことではないと思った」41.1%、次いで「自分ががまんすれば、なんとかこのままやっていけるといった」39.5%、「自分にも悪いところがあると思った」が37.9%となっている。

男女別では、男性は「相談するほどのことではないと思った」が46.0%と8.2ポイント多い。女性は「自分ががまんすれば、なんとかこのままやっていけるといった」が48.6%、「相談してもむだだと思った」が43.2%となり、それぞれ22.6ポイント、19.2ポイント上回っている。また、「恥ずかしくてだれにも言えなかった」が32.4%と、男性（12.0%）と比べて2.7倍多くなっている。

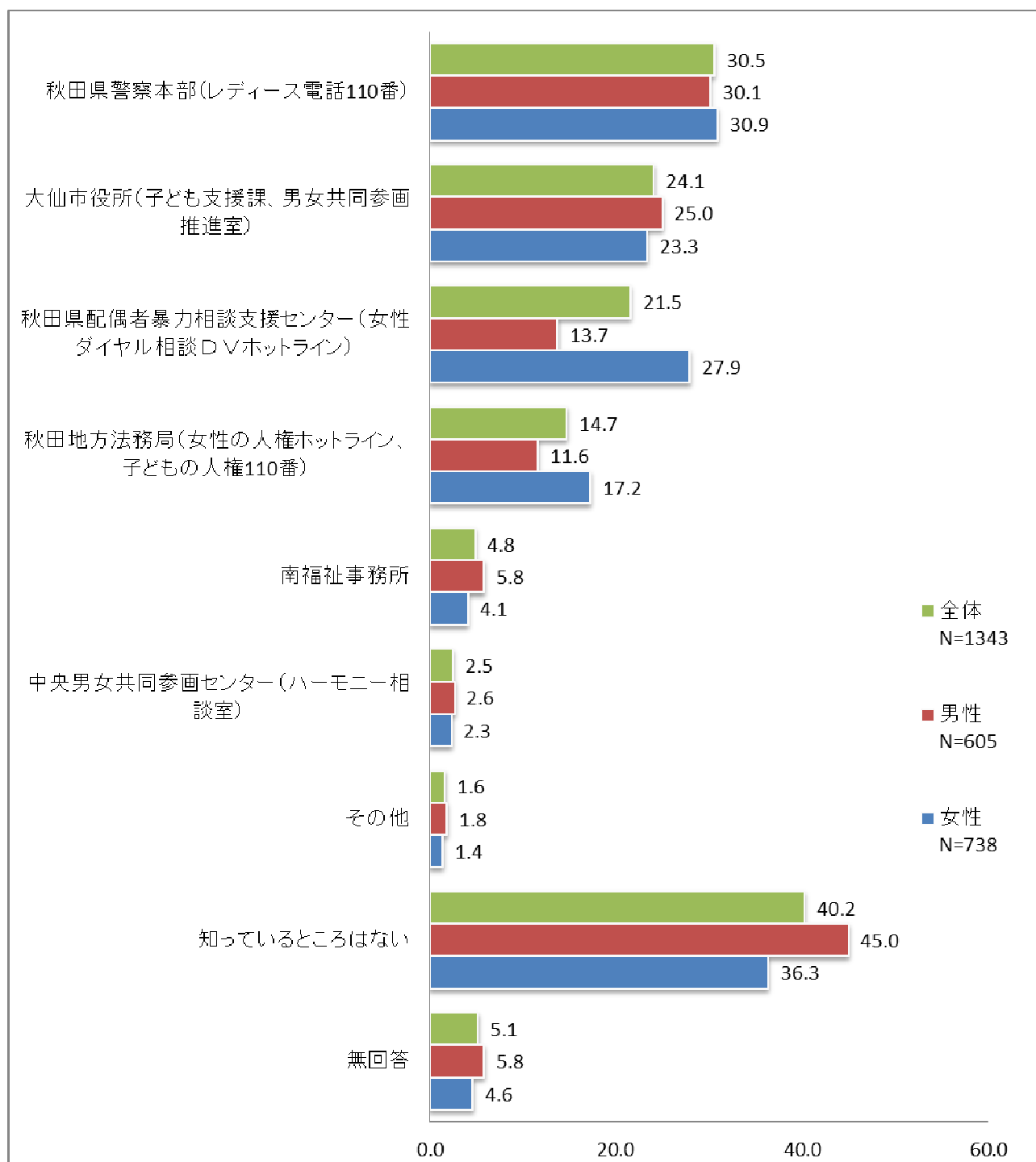
図 6-4 相談できなかった(しなかった)理由(複数回答)



問 20 配偶者や交際相手との間で、相手から暴力を受けたときに相談できる窓口としてどのようなところを知っていますか。(いくつでも☑)

配偶者や交際相手との間で、相手から暴力をうけたときに相談できる窓口として知っているところは、「秋田県警察本部（レディース110番）」が30.5%と最も多く、次いで「大仙市役所（子ども支援課、男女共同参画推進室）」が24.1%、「秋田県配偶者暴力相談支援センター（女性ダイヤル相談DVホットライン）」が21.5%となっている。「知っているところはない」が40.2%となっている。

図 6-5 相談機関の周知状況(複数回答)

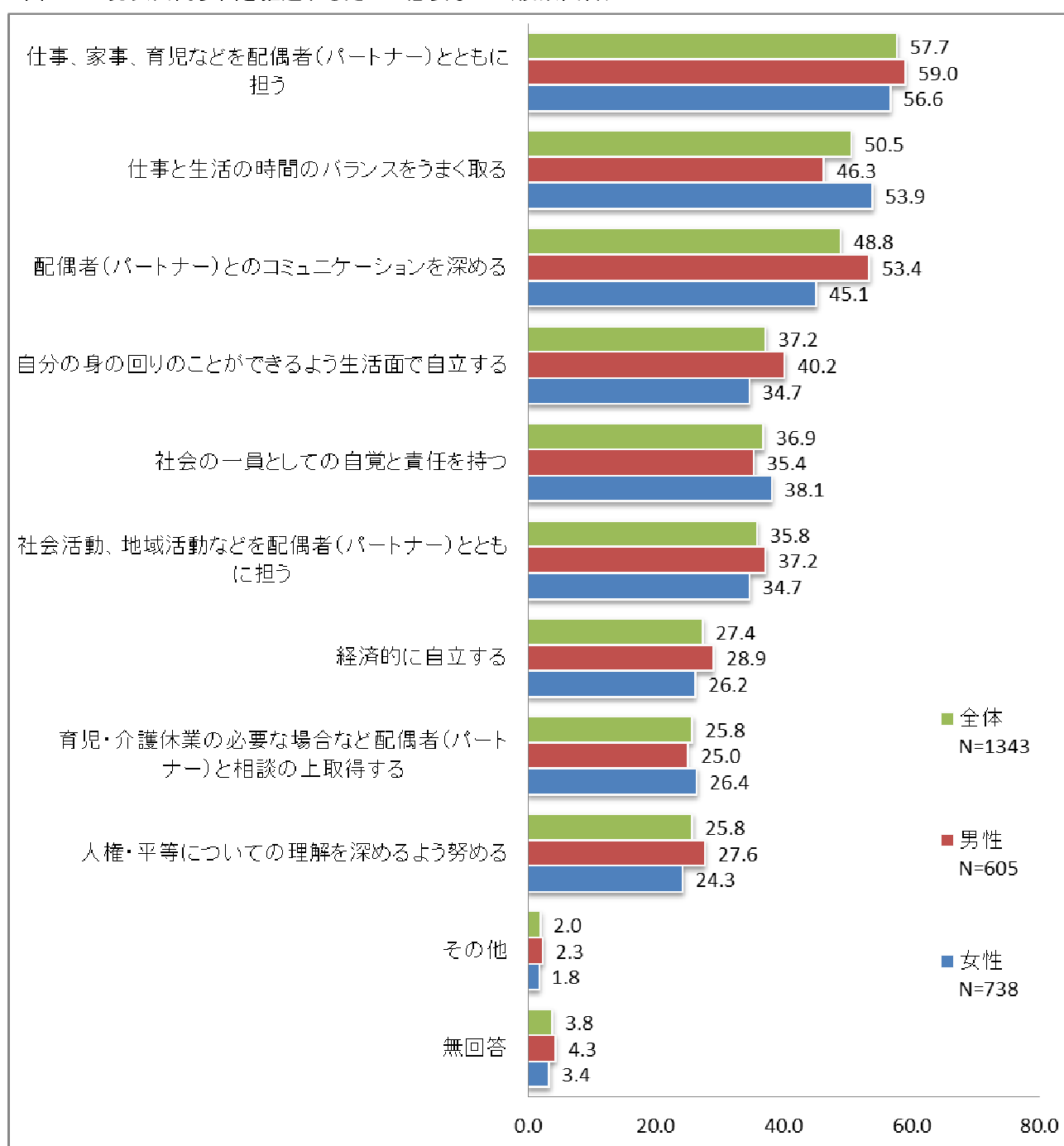


7. 男女共同参画社会実現に向けての取り組みについて

問 21 男女共同参画を推進するために、あなた自身ができること、又はしなければならないことはどのようなことと思いますか。(いくつでも☑)

男女共同参画を推進するために必要だと思うことは、「仕事、家事、育児などを配偶者（パートナー）とともに担う」が57.7%、次いで「仕事と生活の時間のバランスをうまく取る」が50.5%、「配偶者（パートナー）とのコミュニケーションを深める」が48.8%となっている。

図 7-1 男女共同参画を推進するために必要なこと(複数回答)



性別年齢別でみると、男女とも「70 歳代」は「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」が 55.1%、52.1%と、他の年齢層に比べて多くなっている。

表3 男女共同参画を推進するために必要なこと(複数回答)

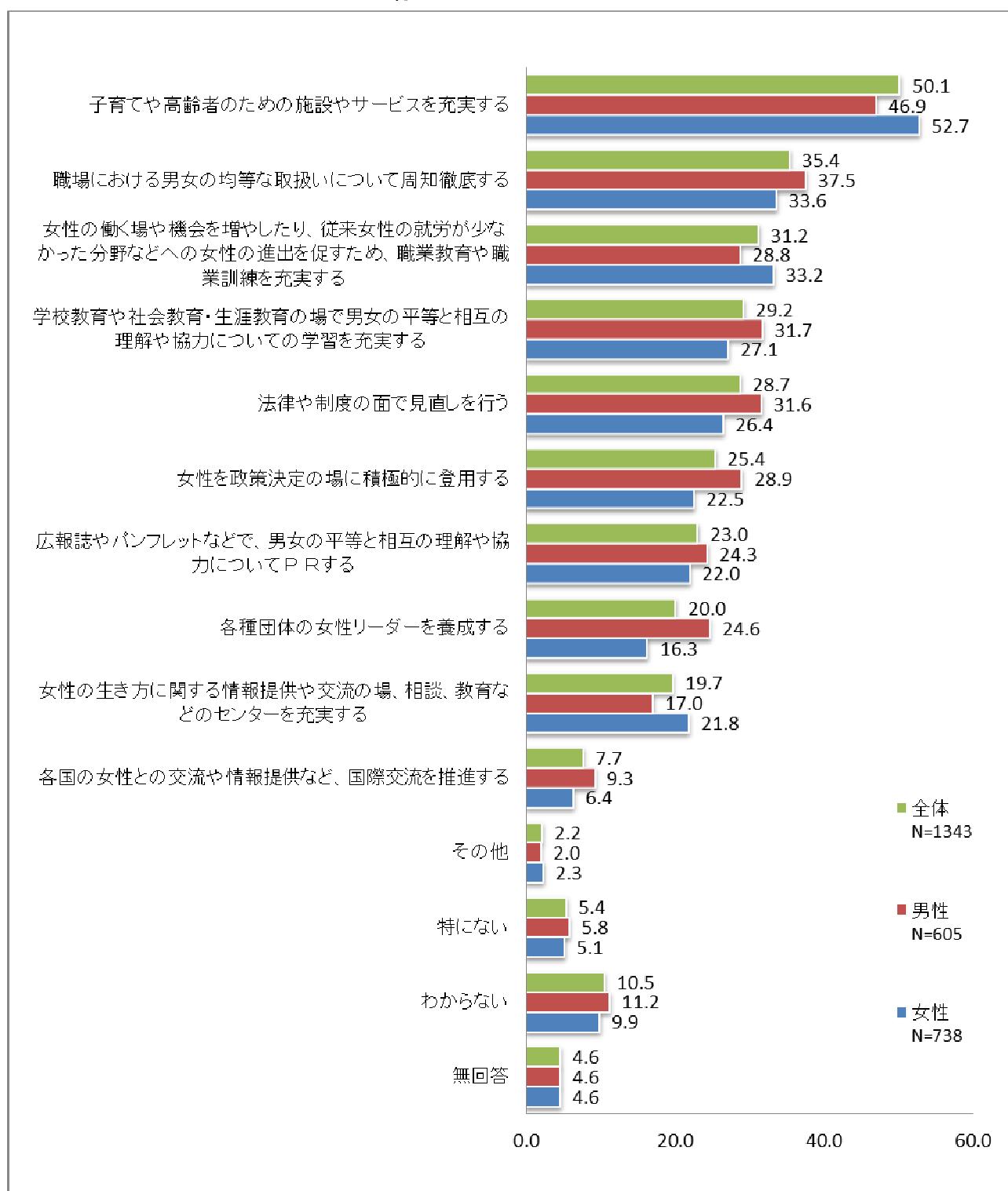
			仕事、家事、育児などもに担う パートナー	仕事と生活の時間のバランスをうまく 取る	配偶者(パートナー)とのコミュニ ケーションを深める	自分の身の回りのことができるよう生 活面で自立する	社会の一員としての自覚と責任を持つ	社会活動、地域活動などを配偶者 (パートナー)とともに担う	経済的に自立する	育児・介護休業の必要な場合など配偶 者(パートナー)と相談の上取得する	人権・平等についての理解を深めるよ う努める	その他	無回答
性別 年齢別	男	20～29歳 N=57	71.9	45.6	54.4	47.4	40.4	31.6	40.4	31.6	31.6	1.8	1.8
		30～39歳 N=81	71.6	58.0	51.9	28.4	35.8	35.8	37.0	30.9	24.7	3.7	3.7
		40～49歳 N=84	65.5	54.8	58.3	31.0	26.2	38.1	25.0	35.7	25.0	2.4	2.4
		50～59歳 N=140	62.9	50.7	52.1	35.0	33.6	35.0	28.6	21.4	31.4	2.1	3.6
		60～69歳 N=174	54.0	41.4	54.0	46.0	36.8	43.7	27.6	23.0	29.9	2.9	4.0
		70～79歳 N=69	30.4	26.1	49.3	55.1	42.0	30.4	18.8	11.6	17.4	0.0	11.6
	女	20～29歳 N=80	78.8	63.8	55.0	60.0	46.3	33.8	51.3	43.8	30.0	5.0	1.3
		30～39歳 N=100	74.0	57.0	54.0	22.0	22.0	39.0	24.0	34.0	19.0	1.0	2.0
		40～49歳 N=132	61.4	64.4	43.2	26.5	31.1	37.1	25.0	26.5	17.4	2.3	2.3
		50～59歳 N=176	55.7	57.4	41.5	24.4	37.5	34.7	21.6	25.6	24.4	1.7	2.8
		60～69歳 N=179	44.1	43.6	45.8	39.7	46.9	33.5	26.3	20.7	30.2	1.1	3.4
		70～79歳 N=71	32.4	36.6	32.4	52.1	43.7	28.2	14.1	12.7	22.5	0.0	11.3

 =最も多い数値

問 22 「男女共同参画社会」を形成していくため、今後、行政はどのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。(いくつでも☑)

「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、行政に望むことは「子育てや高齢者のための施設やサービスを充実する」が 50.1%と最も多い。次いで、「職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底する」が 35.4%、「女性の働く場や機会を増やしたり、従来女性の就労が少なかった分野などへの女性の進出を促すため、職業教育や職業訓練を充実する」が 31.2%、「学校教育や社会教育・生涯教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」が 29.2%となっている。

図 7-2 男女共同参画社会形成のために行政に望むこと(複数回答)



性別年齢別では、男性の「20 歳代」「30 歳代」は「法律や制度の面で見直しを行う」が多い。

表4 男女共同参画社会形成のために行政に望むこと(複数回答)

		子育てや高齢者のための施設やサービスを充実する	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底する	女性の働く場や機会を増やしたり、従来女性の就労が少なかった分野などへの女性の進出を促すため、職業教育や職業訓練を充実する	実平等と相互の理解や協力についての学習を男女の学校教育や社会教育・生涯教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	法律や制度の面で見直しを行う	女性を政策決定の場に積極的に登用する	広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	各種団体の女性リーダーを養成する	相談、教育などのセンタ―を充実する	女性の生き方に関する情報提供や交流の場、	各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する	その他	特にな	わからない	無回答
性別年齢別	男	20～29歳 N=57	45.6	40.4	33.3	24.6	49.1	29.8	24.6	17.5	24.6	24.6	1.8	7.0	12.3	3.5
		30～39歳 N=81	42.0	30.9	30.9	28.4	50.6	21.0	14.8	17.3	8.6	8.6	6.2	7.4	8.6	2.5
		40～49歳 N=84	47.6	28.6	32.1	34.5	27.4	28.6	19.0	19.0	13.1	9.5	0.0	6.0	4.8	4.8
		50～59歳 N=140	46.4	40.0	25.0	32.1	32.1	22.9	27.9	24.3	20.7	5.7	1.4	6.4	13.6	2.9
		60～69歳 N=174	50.0	43.7	30.5	37.9	25.9	39.1	28.2	35.1	20.1	9.2	1.7	4.6	11.5	2.9
		70～79歳 N=69	46.4	33.3	21.7	21.7	13.0	24.6	24.6	20.3	10.1	4.3	1.4	4.3	15.9	15.9
	女	20～29歳 N=80	61.3	46.3	46.3	32.5	38.8	28.8	25.0	17.5	20.0	12.5	3.8	1.3	5.0	3.8
		30～39歳 N=100	56.0	34.0	41.0	20.0	36.0	27.0	15.0	19.0	19.0	8.0	5.0	5.0	11.0	2.0
		40～49歳 N=132	46.2	37.1	33.3	23.5	33.3	14.4	22.7	12.1	27.3	6.1	4.5	2.3	9.8	3.0
		50～59歳 N=176	55.1	30.1	27.3	25.6	21.0	19.3	26.1	15.3	18.2	3.4	1.1	5.7	10.2	4.0
		60～69歳 N=179	51.4	34.6	34.1	34.1	20.1	25.7	20.7	15.6	25.1	6.7	0.6	7.8	9.5	6.1
		70～79歳 N=71	47.9	18.3	19.7	23.9	15.5	23.9	19.7	22.5	18.3	4.2	0.0	7.0	14.1	9.9

=最も多い数値

問23 「男女共同参画社会」をさらに推進していくためのご意見をお聞かせください。

20歳代	男性	・若者に分かりやすい説明があれば良い ・官民や男女が一体となって相互理解を進めていくべきだと思います。 ・家庭、企業、地域全てにおいてパンフレットなどで積極的に男女共同参画社会のしるきを理解させ、職場、家庭などの環境を男女平等に社会等に貢献しやすくする様、変えていく必要がある。 ・表題を行うのは良いが、社内結婚が増えていると感じる。同じ職場でないと、浮気が増えている。彼女を不安視しない社会にして欲しい。 ・年齢や性別等に応じたPRの仕方があるのではないかな。一度に市民全体へ発信しても受けとめる人は限られ、またいつも同じなのでは。市民の意識の問題という部分もあるかもしれないが、より身近に感じることでできるようなものがあればよいのかも。このアンケートもあて名だけだと、その配偶者の気持ちはどこで記したらよいのでしょうか。男性側の意見の方が多くなるのでは？そこも気になりました。 ・分からない。関心がない。 ・男女が平等となる社会の実現を早期に進めてほしい。 ・女性がトップに立つ機会を増やせばいいと思う。東京都知事が初の女性というのは良いことだと思ったから。 ・男女、一人一人の好みや外見を否定するのではなく、よく理解する事が大切である。とても難しいが誰もが信頼し合える事によって、学校や職場などで苦しむことなく充実した生活の環境ができるように尽くして欲しいと私は願う。 ・女性の意欲を高める機会を増やしていけばいいと思う。 ・もっと広報誌やパンフレットでPRした方が良いと思う。私は聞きなれない言葉なので、もっと身近に感じるくらいの言葉になってもらいたいので、これからもPRがんばってください。 ・男性は女性に比べて精神面で幼い所があるので、もっとそれを自覚するよう努め、女性（妻）に甘え過ぎず、家事や育児・雑事を平等に負担するよう心掛ける必要があると思います。また女性（妻）も男性が働いているからといって負い目を感じずに、やりたいことをやったり、家事や育児を男性（旦那）に積極的にやってもらうように、うまく誘導させては如何でしょう。 ・男性も積極的に家事を手伝ったり、女性も家事だけではなく仕事をして、かつ子供を預ける施設を充実させ、待機児童などを無くしていけるように、男女共に協力しあっていく事が大事だと思います。 ・男女とも休暇を取得しやすい世の中にする事。男性の仕事、女性の仕事という偏見をなくすこと。 ・男女の考える価値観を平等に向き合えるような機会があればよりよくなるものだと思います。 ・男女共同参画社会を進めていくためには企業への理解を求めることが大事であると思う。企業側が妊娠したら働き手が減る、男のくせに育休をとろうとすると否定的であるほど、男女の活躍が限られてくるので、今までこうだったにこだわらず、広い視野で見てサポートをして、様々な考えをもつ人材の育成が必要だと思った。 ・古い考え方の上司達がいると、どうしても良くはならないと思う。ある人は、子供が出来た時、正社員であったが、パートや別の職への変更をすすめられたと話を聞きました。難しいですが、本当の会社の姿を知れば、さらに推進していくと思います。 ・女性の立場を改善するだけでなく、男性の立場も変えていかなければならないと思う。今のままでは“男尊女卑”が“女尊男卑”に変わるだけだ。「一日会社で働くのが当然」という環境が変わらなければ、男性に家庭での役割を求めるのも女性に仕事を求めるのも無理難題というものだ。そんな中で「男が家庭を省みない」等と言われても反感を抱くだけで、何も変わらないだろう。
------	----	--

20歳代	女性 ・女性だからと偏見を持たず、理解を深めるべき。 ・子育てや高齢者のための施設やサービスを充実させることも大切だと思うが、そこで働く人達の負担を大きくさせないでほしいと思う。 ・広報誌が一番協力しやすく、理解出来ると思いました。また調査票を見させて戴き様々な取り組みを行っている事を知りました。 ・男女共同参画社会に対する理解と職場や学校・地域で参画する機会を確保することだと思います。 ・男性について言及している選択肢が少ないと感じました。男女共同参画の実現＝女性の社会進出ではないはず。男性への支援をどうするべきかを検討していただければと思います。 ・男の人も女の人も平等に家事や仕事ができるように・・・。 ・平等社会を目指していくためにも交流などをして分かってもらおう。 ・学校で男女共同参画社会について学ぶ機会を増やす。 ・育児について、もっと男性が協力的に参加できるよう、職場の理解が必要と思う。 ・男女の差別がまだ残っていると感じてます。社会全体でもっと考えていかなければいけないと思います。 ・給料を男性と女性で差をつけない。また、給料アップさせる（男女ともに）秋田県の平均賃金低すぎるため改善してほしい。誘致企業を持ってくる（大仙市に） ・女性はどうしても出産・子育て＋介護で仕事を休まなければならない、そうすると職場の理解が必要となる。職種によっては男職場・女職場に片寄る所もあるので男女比率がバランス良く雇用できる社会が求められていると思う。近頃、特に待機児童のニュースも多いが、保育と介護どちらもサービスを充実させてほしいと思う。自分の親と配偶者の親、子どもを見るのは大変!!仕事どころではなくなってしまう。色んな状況、事情が人それぞれあるのですべてに対応するのは難しいがサービス（支援）を選ぶことができるというのは気持ち的にも大事。（就労意欲や一人ではないと思える） ・私自身ではありませんが、職場の先輩が出産し、仕事復帰をする際に保育園の空きがなく大変困っていました。私はまだ出産の経験がないので、保育園の現状について分かりませんが、私も出産したら仕事復帰をしたいと考えているので、もっと預けられるところがふえたとさらにいいのかなと思います。保育士さん不足というのもニュースでよくきくので、大変なことは分かっていますが、今よりも少しでもよりよくなれば助かります。私たちが過ごしやすいように、このように調査していただいて、ありがとうございます。 ・決して女性ばかりが優遇されなければいけないとは思わない。性別的な平等よりも経済的自立の観点でいった方が良いと思う。その為には、女性は社会に対する責任と自覚を持たなければならぬし、自ら変わろうという意識改革が必要。その上で、個々の能力に応じてお互いに歩み寄り、協力していけたら良いのではないかと思います。 ・ノルウェーなど特に北欧の国々では女性の社会進出や会社のリーダーとなる割合が多いと聞いたので、そのような国々の取り組みをどんどん紹介してほしい。また私は女性が結婚、出産で仕事を辞める事には賛成だけど、子育てが終わった後、もう一度、社会に出て働けるような制度（能力別に人材登録などを行って、企業がそれをみつけて採用するようなシステム）があればいいと思う。能力があるのに家にずっといるのはもったいないという方が多いと思います。 ・まだまだ“女なのに”“男なのに”と性にこだわる人が多い。性の壁をとびこえ、どんな人も自分の色（個性）をいかし、生活できる生きやすい世の中、生きやすい日本に1日でも早く変わっていくように。まずは自分自身からかたよった考えにならぬようにしたいと思っています。 ・結局、個人の意識が変わらなければ何をやっても意味がない。そもそも関心すら持たない人もいる。女性への差別は残念ながら無くなることはない。そうなるのは、やはり日頃のストレスが原因なのではないでしょうか？まずは雇用形態や職場環境を安定させることが先決だと思います。自分の生活に余裕が無い、先に希望を見い出せないから他人を思いやれない。
------	--

20歳代	女性	・経済的余裕 ・今まで、男性がリーダーという立場に立っていた方が場の雰囲気やまとまりが良いと感じていたのに、女性がリーダーにならないことに不満を感じたことはない。また、学生のうちは女性が優位なことが多く、男性は「男だから」と仕事を押しつけられたりしているのが、不思議だった。「平等社会」より「適材適所ができる社会」になってほしい。 ・男女共に、一人の人間として1対1の関わり方、考え方を根づかせることが大切だと思う。表面上のことではなく本質的な部分で男女の差別をなくすべきだと思う。その人の能力をいかせるような社会にして欲しい。 ・「男女共同参画社会」について詳しい事がわからなかったの知るための教育を充実させてほしいと思った。現代は、男女共働きしなければ家計が厳しいので働きやすい環境作りが大事だと思う。 ・子育て中ですが、一番不安なのが金銭面なので、子供がいる世帯が金銭的に不安にならないようなサービス・制度があればと思う。心にゆとりが生まれると、男女笑顔になり、男性も家事をしてみたりなど考え方や行動が変わってくると思う。 ・育児、介護休業法を正職員以外の職員、すべての人が受けられるようにしないと、これからの将来、生活しにくいと感じてしまうのでは？ぜひ平等にみんなが活用できるようになってほしいです。 ・アンケートの中では、パートナーからのDVについてばかり問われていますが、父からの暴力、ひいては、その後の影響についても問うてほしいです。世間はDV被害者に決して同情的、理解的なわけではありません。私が社会に出てから、職場の人たちからも何度も心ないことを言われ、元父からのストーカーまがいの妨害も受けました。閉鎖的な大仙市に帰ってきたことすら後悔しています。アンケート雑に書いてしまい、申し訳ございません。パフォーマンス的な対応ではなく、実態を見た提案など、よろしくお願いします。 ・問10.1.男性も育児休業を取った方がよいー実際取れる環境にない。収入や職場での立場。子供がいると仕事の時間や職種が限られる。パートしかできない＝時給700円 土日祝日休みたいと仕事が決まらない。けど保育園はカレンダー通り。女が男上司にたてつけばクビ。小学校に入るとお金がかかる。でも義務教育。女が結婚して、出産して、少し働くと税金がくる。お金が必要だから働いているのに税金払ったらお金ないし。女は男よりは稼げない。女でパートでも能力はある人はたくさんいる。
30歳代	男性	・市民の共同参画に対する意識と知識の向上が必要不可欠であると思います。 ・就労労働時間を短縮し、男女の所得額、主婦と主夫が平等くらいになるまで活動を期待する。 ・この調査票の内容自体をよく考えなおした方がよい。何様のつもりか？わかったような質問ばかり、くだらない。 ・しょうもないし、くだらない。女のほうが偉い世の中は間違っていると思う。そもそも、男が出来る仕事のほうが多いのは事実でフェミニストが喜ぶだけのくだらないアンケートは時間の無駄。 ・女性が働きやすい環境づくりも大事だが、男性が育児や介護に参加しやすい環境づくりにもっと力を入れてほしい。特に若者は、男性が家事・育児することに積極的なので、職場の理解があれば、育児等で休みも取りやすいし、パートナーの女性も働きやすくなると思う。 ・有休が取れやすい社会になればいいと思います。危険・きつい・汚いがそろった会社なので上の人の考え方が変わらなないと体が休まる事もできず、体をこわしかねない職場です。 ・どういうものなのかをもっと知っていけるようPRが必要だと思う。 ・まだまだ知名度が足りないと思うので、アピールしていく必要があると思います。 ・男女共同参画社会について、もっと知るきっかけがほしいと思います。（知らない人はその言葉すらわからないと思う） ・なんとなくですが、男女の差というのも大事ですが、何がよいことで何がやってはいけないことなのかを考えられる素地を養うほうが大事なのかなと思いました。主旨と異なるかもしれませんが。申し訳ありません。

30歳代	男性	・質問内容が広く浅過ぎる。 ・男女意識することなく能力をみていくとよいと思う。 ・現在の日本の状況を考えると少子高齢社会のため、経済成長や人口の減少のことを考えると子どもの数ある程度増やしていくことが、どうしても求められてしまう。女性の負担がやはり大きいので、子育て支援の充実を図り、女性ができるだけ外で働けるような環境を作っていくことが必要だと感じる。 ・女性を、女性を、ということではないと思います。男性をひいきにしているわけではないと思うので、女性が積極的に活動できる環境を作るべきです。ただ単に女性を登用するのは意味が無い。それこそ差別なのでは？ ・たぶん、全員がわかっていて思っていることであって、行政か法律・制度を見直せば改善していくと思います。また経済的にも秋田は賃金も低いし、どれだけ個人が思っているても現実的には無理だし、子供も積極的に作ろうと思わないと思います。いずれ絵に描いた餅で、全然良くなっている感じは正直ありません。市民には全然ひびいていないと思います。この調査とは関係ないですが、大仙市＝花火のイメージしかなく、大仙市も花火しか特化していない。魅力有る街にはならないと思うし、魅力はないと思います。花火以外に力を入れていくべきだと思います。 ・男女のジェンダーという価値観の共有、生き方や働き方の多様性への社会の理解、法的整備によるそれらへの後押しなど、課題を一つ一つクリアしていくことで「男女共同参画社会」の実現に近付いていけると思う。 ・今の職場は女性が多いので、どちらかと言うと男性の地位向上や女性の男性に対する理解が課題であるように感じている。このような職場は決して少なくない訳で、そのような中で、この調査票にある「女性は・・・」「女性の・・・」といった文言自体が既に男女に差があるような書き方になっているのが気になる。一般的に「男性よりも女性がした」という世の中の風潮に対して、様々な法律や取組をもって変えていこうとする流れは理解できる。ただ、上記とは逆の風潮にある環境に対しての理解・配慮については、まだまだこれからだと思う。 ・今の日本は特に大仙市は生活をしていく上で、とてもくるしい！！働いても働いても学費や生活にどんどんお金がかかって、生きるのに精一杯。ニュースを見れば、政治家がせっかく集めた税金を好き放題使って追い詰められると、すぐに辞任。こんな状態じゃ結婚や子育てなんてとてもしていけない。都会は景気が上がって、仕事も潤っていても、地方は仕事もないし、お金もない。若い世代はみんな都会に行ってしまう。だから、負のループ、悪循環。自分達は節約して子供に少しでも仲間外れにされないように、お金を使うだけ。未来はなかなか暗い！！男女共同参画を考えるのも良いが、もっとやるべきことがたくさんあるのでは。この調査で生活が変わりますか？私達は必死です。この欄には書ききれないほど、まだまだいいことが山ほどあります。市内でも経済格差がありすぎです。お金がないからDVに走る人や犯罪に手を染める人、自殺する人が沢山いると思う。だから、若者が楽しく働けるような賃金。中年でもゆっくり仕事や生活ができる経済力がもてるような大仙市を作ってもらいたい。いつまで耐えなければいけないのか！！このアンケートでは何も変わらないと思う。一市民の叫びです。
30歳代	女性	・子育て世代や高齢者以外の多くの人たちに対する行政的なサービス、支援もあれば良いと思う。 ・こういったアンケートで思うのは必ず妊娠・出産・子育てが前提である事。男女で不平等は感じないけれども、未婚と既婚・子持ちで不平等は感じる。産休・育休制度で未婚側に負担がくるのが本当に困る。正直プライベートまで犠牲にしてまでこちらは仕事に取り組む必要がある。 ・産休、育休は取得しやすい環境にあると感じる。ただ、自然妊娠が望めず、不妊治療を進める場合、有休etc.取得しにくい。または、職種や人員不足で無理をしなければいけない状況もあり、お互いに（男女間、職場間）理解・協力を深めて欲しい。 ・休日の行事やイベントは増やさないでほしい。動員されるスタッフが気の毒。制度上、育児休暇や時短勤務ができるとしても、人手が足りなかったり、抱えている仕事のためにあきらめることもある。法律や制度だけととのえても、現実とは違う。人の数だけ、抱えている悩みも違うのだから、職場は従業員一人一人と向き合うべき。 ・実際、正職員では育児休暇などの制度が確立していたとしても、臨時職員にはない制度もあるので、平等に取得出来るような社会になってほしいです。

30歳代	女性	・0歳児の入園が難しいのと、途中入園ができないので、仕事ができなくなったり、クビになるのはおかしい!!働きたくても、これでは女性は働けない。会社から文句言われる。 ・男女共に権利ばかりを求めず、本質的には体の違いを含め、精神的な違いもある為一概には言われない部分もあると考えます。最終的に本当の意味での考えるとすれば性別ではなく人間同志の思いやりが1番なのではないかと思います。 ・保育園に子供を預け働きたいと思っても、定員の空きがないので入園は難しいと言われたり、一時保育をお願いしても、空きがなく断られるという事が何度かありました。保育施設や保育士が増えたと言われても実際には、以前と変わらないと思います。働きやすい社会になるように更なる改善をお願いいたします。 ・育休や産休について、職場でとりやすい雰囲気になってきてはいるが、出産後の主人の配属先にまで気をまわしてもらえず、主人が家から遠く休みにくい部署のため、結局、子育ては妻の仕事だと職場に遠まわしに言われている気がします。出産後、夫も育児に参加しやすくするためには異動についても配慮が必要だと考えています。 ・今は無職ですが、仕事をしていました。妊活にあたり、一旦、仕事を辞め、現在は育児と家事をしています。共働きではなく、1つ置いた視点から見ると、やはり、男の人の仕事は大変だと思います。共働きであれば、保育園の送迎などは、自分一人の役割だったと思います。少子化の中、子は宝と考えるなら、育休を無給にしても長くとりたい女性は多いようなので(一年は育休、3歳までは復帰前提の希望者のみの休暇)ゆとりのある子育ての時を過ごすのも、大事な事かと思いました。「私たちの時代は・・・」「今の人たちって」の言葉にビクビクし、なかなか前進しませんが「今はこれが当たり前!!」といった流れが自然にできるといいなと思います。実際、職場に残る立場では、そうは思い難いかもしれませんが・・・。 ・家庭のことを女性が中心に行うのであるならば、仕事場で女性が男性と同等に活躍するのは難しいと思う。(わが家、核家族のため)男、女ではなく、家庭でも社会(職場含め)でも、それぞれができることをよく話し合っ、折り合いをつけて行くとよいと思う。 ・少子化対策をしても実際産んだら、仕事を辞めさせられる→保育園に入園できない→収入がなく生活が苦しくなる→就活しても子供がいるとムリと門前払い→理想的な仕事、生活ができない→仕事と家事・育児でイライラ&病気になる。実際に体験したことです。役所関係以外の職場はほとんど男尊女卑社会です。どんなに対策を講じても強制力はありません。本当に働きづらい生きづらい社会です。 ・この様なアンケートが届かなければ、考える事もなかった件や知らなかった機関もたくさんありました。家の中の生活時間帯がバラバラな為、郵便などもすぐに本人に届かぬ暮らしをしております。間に合わずにすみません。それぞれが仕事を持っている家庭では当然の事だと思います。結婚出来ていない身分ですが、“結婚して子供が居て当たり前”みたいな“女性は男性より劣っている”とされていて、平等になりたいと思っている”前提の質問にずっと疑問を持っていました。一般的ではありませんが、亡くなった義姉の代わりに家庭で頑張っています。シングルの家庭でもそうでしょうけれど・・・。“男女共同”は皆様求めているのですか？男性には男性の、女性には女性の固有の素晴らしさがあるので、出来た事に対するそれぞれの評価があつて当然なのではないでしょうか？私は昭和生まれですし、両親ともその様に働いて育ててくれましたので、女性も同じように働いて“35歳”高齢出産なのに、いったいいつ産んで、いつ育てるのかなと不思議に思いました。平等に男性は出産できますか？出来ませんよね。なら、選ぶのは女性だけでしょうか？女性の体は2つにわかれにくいのに不思議に思います。 ・世代によっては伝統的役割分担意識が根強い年代の方もおり、その意識は簡単には変えられないと思うが、近い将来親世代となる高校生や大学生など若い世代の意識が変われば、世の中全体も少しずつ変容すると思う。若者が職場、家庭どちらでも輝き、力を発揮できるように男女とも生活力の向上やキャリア教育に力を入れ、職場・家庭に求められ必要とされる人材を育てる必要性を感じる。小学校からスタートする「家庭科」の教育に期待する。 ・地域が古い風習があり、男は上で女が下という見方がある。50～80代の年代が多い地域は今も変わらない為、女だけが地域の集まりで家政婦みたいなことをするのはなく、みんな同じ立場で発言や役割をしていく必要がある。古い風習を変えてもらいたい。行政が変われば地域も変わると思う。 ・市の広報やチラシだけだと、目を通す人、そうではない人というと思うので、老若男女がわかる様な媒体で推進していけば良いのではないのでしょうか。
------	----	--

30歳代	女性	・このアンケートを通じて「大声で怒鳴る」がDVになる事を知りました。職場で大声で怒鳴る人もいます。困っていても相談したら、情報がもれてしまわないか不安で、相談しにくいと思います。まだ長男は家を継ぐものだという習慣が根強いと思います。「男だから」は本人の負担となっているとつくづく感じます。次男も大事と思っていても、祖母は長男ひいきしています。
40歳代	男性	・強い女性よりも弱い女性を守る制度社会にしてほしい。 ・男女共同参画社会というスタイルが快適な社会であるというのであれば、人々は自然とその流れを造り出していくのでしょうか。血税を使って強引に川の流れをつくろうとすることはやめていただきたい。 ・問の前に、行政は身を切る改革等なすべき事に向いていない。そちらの方を先に推進して頂きたい。 ・男女にこだわりすぎ、だれか適人かが大切です。仕事によっては（力仕事、3K）など特に。問12：男性も責任が重くなるのを敬遠しているように思われる。 ・若い女性の働く場（土日休み）を増やす。社会的地位の高い人ほど家庭に協力しない。上がそうだと・・・家庭を顧みない人ほど出世していく。 ・地域、職場の中でセクハラ、パワハラなどがない様に、もっといきいきと暮らすことができればと思います。 ・男性も女性もそれぞれ意識を変えない限り、行政等がPRを頑張っても、変化のスピードは遅いと思う。教育の場で、積極的に学習させて欲しい。 ・自分は身体障害者ですが、自分からみて秋田県もですが、大仙市も障害や高齢者について、もう少し考えるべきではないでしょうか？最近の大仙市を見ていると花火のことばかり考えているような気がします。生意気なことを書いてすみません。ただ自分は素直にそう思います。 ・女性の働く場や、環境をもっと充実させたほうが良いと思う。 ・平等とは、すごくむずかしい。6：4でいいのでは？平等というかさをかぶり法律などをたてにされるのはかなわない。そんな事より仕事の間賃金が低い、なんとかしてくれ ・世代が若くなると男女共同参画の意識は強く思っているように感じるので、今後も学校教育の中で学習していくような機会を多くしてもらいたい。関係ないかもしれませんが、最近、集落、職場、PTA内での“何事にも無関心な人”が多く、そちらもとても心配しています。 ・①育児・介護等々で長期休業した人々に対して、民間事業者が中心となった職場復帰のためのリカバリー制度の必要性（職場復帰への不安解消、業務上の即戦力として使える必要不可欠な技術の習得）②敗者救済制度の法制化、制度化。（最悪がホームレス生活では安定は望めない）③育児休業制度の長期取得（出産から小学校入学まで）の法制化、制度化。④一億総中流社会の復活に近付ける政策が必要→現在の格差は限度を越えている。所詮は（産める可能性のある）女性が二人以上の子供を大学まで進学出来て、それにかかる費用をすべて自らの家計で賄えるだけの賃金が保障される社会環境と社会制度があってこそ、社会の安定化「男女共同参画」とやらが叶うと考えられる。・大学卒が必要な産業の数・質共に増やす事→大学進学が50%を越える現在では大卒の就職先が相対的に少ない→大卒とは名ばかりの就労先が多い。 ・セクハラは絶対にしてはならないこと。でも、セクハラだけ特別扱いせず他のハラスメント対策もしっかりやってほしい。苦しんでいる人がいることを忘れないでもらいたい。 ・上辺だけの活動は不必要。しっかりとした実情を伴う制度を求めます。 ・問22、2番、3番の推進が最重要と考えます。 ・男性も子育てや学校活動に参画していく。
40歳代	女性	・「男女共同参画社会」と言うのがわからなかったの、少しですが、わかりました。 ・男女共同・・・という前に働く場所がなく生活するのにいっぱいです。別に男性が上、女性の下でも、何でも良いので、収入の少ない人から税金を少なめにするとか・・・もっと別な方へ目を向けてほしい。 ・それぞれの意識を変えること。まずは家庭の中で父母が協力して生活している姿を見て、成長していけば自然と子供には男女共同という意識・感覚が身についていくのではないのでしょうか。

40歳代	女性	・女性の視点が生かされ、地域の活性化につながることを望みます。
		・男女の立場が全く平等になるのは無理だと思うし、私自身は必要ないと思っている。でも、なかには男性と同じように働きたい人や、女性と同じように子育てや家庭に携わりたい人もいると思う。だから、そういった人がやりやすいような制度であればいいと思う。 ・男女、という言い方からおかしい。女男ではどうしてだめなのか……。根本から考え直す必要があるように思う。男女の性差を埋めるのは無理なので、個人個人の特性、得意な事を生かせる社会にして（男女にかかわらず）若い人たちの担う将来はだれもが生きやすい大仙市にしていきたいと思います。 ・配偶者とのコミュニケーションを深めることが大事 ・他の方はどうかかわからないが、保育園で補助の仕事をしているが給料が安いと感じる。資格がないから仕方ないと思うが……。すみません、男女にかんけいないですね。 ・女性も生活をしていかなければいけません。扱いや賃金は、まだまだ不平等です。ちゃんと仕事をしていても、とても軽く見られていると思います。例えば、「ただの事務員じゃん」みたいな。仕事は1人で成り立っているわけではないです。 ・共働きが増えてるので、女性が働きやすくする為に、例えば子供が急に具合が悪くなった時など、休みをとりやすい職場環境や、育児休暇をとりやすい社会になってくれるといいなと思います。 ・プランや基本計画について、もっと広報していくことが必要であると思います。 ・男性は男性らしさ、女性は女性らしさがあると思います。それを活かして、お互いに尊敬しあい理解していくことが、大切ではないかなと思っています。 ・推進する意見ではないけれど、男女平等に働いたら夫婦のコミュニケーションはない。自然に子供はできなくなる。外国では1～2時間程度労働する所があると聞く。子育て中の女性は今の位で良い気がする。もっと働きたい人も多いかなと思うが…… ・あまりよく知られていないプランなのではないでしょうか？これはちなみに、こんな感じにしていきたいと思っているなどがあれば、それに添った意見が書けるのではないかなと思いました。 ・現状として、経済的に共働きは絶対に必要です。私の職場は女性の多い所なので、女性に対する対策は進んでいます。男性に対しても同様。子育てへのフォローが必要。共働きって、生活して、仕事して、どうしても男女とも疲れ切ってしまう。もう少し経済的な支援、保育園の無料化、子育て世帯への支援をして頂きたい。人口流出のための経済的対策がまずは第一だと思います。生活にゆとりを感じられるように宜しくお願いします。私の周囲には高齢者しかおりません！ ・夫婦ともに収入が低く、子供一人を育てて食べていくので精いっぱい。男女参画以前に賃金の底上げがなければ結婚も子供を持つこともできないのではないかな？また妊娠＝退職。育児中は休まれると困る職場も多い。産後2ヶ月で新しい職場で働いたが母体も赤ちゃんも不調で、帰宅後何も手につかず大変だった。（すぐ働いたのは貯金がないため、妊娠でやめさせられたので） ・昔から男女平等とさわいでいても、まだ現段階でこのレベルなので、私が生きているうちは男女平等な社会にはならないと思う。根本的に政治の方針がまちがっている。何がしたいのかわからない。 ・規模の小さい企業、職場でも育児休業をとれるように職場のトップから変わらなければならぬと思う。男女の仕事の差や家庭での差も、行政が全体を見る必要がある。現在は一部のみが男女共同参画社会。 ・私は、産休育休も取れない時代に結婚を期に退職しています。子育てが終わり、パートを始めると、職場では女性職員が出産の度に一年間人手不足の状態になります。そのしわ寄せと忙しさからくるギスギスした人間関係の犠牲になっています。自分は、職場に迷惑をかけないように辞めたのに、やり切れません。代用職員が配置されるような仕組み作りをして下さい。

40歳代	女性	・男女共同参画社会を担っていくであろう私達の子ども世代の流出をとめなければならないと思います。愛される地元、魅力ある地元を子ども達に残そうという本気の気持ちが必要ならば、男女共同参画社会の実現も難しい社会でとどまってしまうのかな・・・と思います。大人の責任として取り組んでいかなければと思います。 ・会社で「子の看護休暇」があります。3才までが対象のようでした。3才以上～18才でも子供です。病気やケガで入院や通院する為、親（特に母親）が休暇を取り付き添いになります。職場の上司に「子供は一人で通院できないのか！」と言われました。「子の看護休暇」を18才までにして欲しい。休暇を取ると収入も減り、厳しくなります。※この内容は会社の問題なのか？それも全く分からない状況です。 ・昨年、子供の子供会の会長を女性の方が務めました。小さな一歩ですが、役職も全部女性でやりました。私は会計。以前、女性会長になった時は、町内会長さんなどに（年配の方に）「男じゃないの？父さん何してるのよ！」ということ言われたことがありました。中学校の保護者会なども「会長はお父さんでしょ。」とか「飲み会の席には、お父さん」と言われます。今の時代でもまだ男性にこだわる意見を聞きます。女性が前に出て行っても何も言われない社会が共同参画ですね。 ・問10. ☒ 1. 男性も～取った方がよい←実際に現場はどうか。取りやすい職場ではないかぎり無理。なぜ障害児を預かる施設が少ないのか。秋田市でできて、なぜ大仙市では未だに少ないのか。女性会議が秋田で10月にあるとはいえ、小人数しか知らない。発信する側が自分達だけで満足しているのか？終わった後に新聞に載る。啓蒙が足りない。何でもですが、上辺だけお茶をにごすことがないように。 ・個人の尊厳と考えれば、男だから、女だからと考えるのは古くさい。（市役所に行くと、窓口は女性、男性は奥で仕事の様子がおかしい。）行政が古くさいから、いつまでも女性が弱い感じになっている。相手に関心を持つことが尊厳のはじまりだから、相手に気遣いしてほしい。それが男女共同になるのでは？
50歳代	男性	・問22のように、小・中・高と学校教育で取り組めば意識も強くなると思う。 ・上記（問22）が全て… ・内容がわかりにくい。全体のイメージはわかるが、サブタイトル等でまず何から重点で進めるのか、目標を定めるべきと思う。日本・個人の価値観の問題なので、社会の習熟とともに女性の活躍を期待します。 ・特に有りませんが、推進している事が市民に認識が不足していると思う。益々の推進期待しております。色々、たいへんだと思うけど、頑張ってください。 ・男女共同参画をさらに推進していくためには、あらゆる方面からの理解と私共も内容を理解することが必要と思うので、度あるごとに周知する様、講演等で広めていくことが大切だと思う。 ・すぐに理解が深まる事ではなく（特に中高年）長い時間をかけて意識を変えていくしかないように思う。その為には学校教育で小さい時から教えていく事が大事で、あたりまえの事だと思えば社会全体も変わっていくだろうと思う。 ・これは片寄った考えで作られている。出来上がった調査は、まちがった集計がされ、政策がねじまがってしまう。IV、V、VIは女性にしか質問していない。 ・今回初めてのアンケートとなりますが、今後はもっといろいろな角度で情報がわかる様にしてもらいたい。知らない事が多すぎてしまい、機会を逃しているとも思ったので、情報（公報等）でお願いしたい。 ・学校での男女平等を推進する教育、学習を行う ・行政の問題ではなく、各自の問題で、個々で対応すべきだと思う。与えられるのではなく、自らが考えることだと思う。 ・介護分野で人手不足となっているので、既婚女性が働きやすい環境を整えてほしい。 ・全部「男女共同社会」はできないと思いますが、できる、できるであろうということに関しては「男女共同参画」…例、というステッカー等を見える所に貼って目視から意識させる。 ・男に生まれてよかった、女に生まれてよかった。やはり生きて行く為には、それが必要で、平等であった方が良いと思う。男女共同参画社会を形成することは賛成です。

50歳代	男性 ・男は仕事、女は家庭を守るのも立派な仕事だと思う。これも、その家庭の一種の「男女共同参画社会」だと思う。公務員のように、そのポストに誰でもいい所で通用するが、一般会社では能力でポストが決まるので、もっと一般人の話を聞けば、いい方向に向かうと思う。公務員主導でいくらこんなことを言っても、公務員だけのものになる。 ・本題からズレますが、社会の最小単位は家庭＝夫婦（今は、パートナーという選択肢もありますが）と聞いたことがあります。そこが幸せでなければ、まわりも幸せになれないとも。意識の改革は家庭からだと感じます。子育て、家事をしても、お金が入ってくるわけでもないで、無職に分類される。お金を得ていない＝働いていない。というくくりで扱う習慣＝あたりまえの考えが無くならないと意識改革は始まらないと思います。そこから、ようやく共同参画できるような気がします。 ・種々のイベントや各種の研修等、中央に集中しているように思われます。旧町村単位での集会や交流、グループ討議、事例発表（活動事例の紹介）等を行い、若い方が積極的に取り組む姿勢が必要だと思います。少子高齢化に伴い若い方々は地元を離れ、県外へと流れ寂しくなっていて来しております。若い皆が楽しく仕事やコミュニケーションが出来る大仙市になってほしいです。
	女性 ・能力に応じた賃金を支払う（男女の差をなくす） ・私の職場は女性の仕事とされていたが、男性も増えてきている事から違った雰囲気職場になっているのが嬉しく思う。 ・秋田にもっと大学を増やすべき。若人は大学に入るため県外へ出てしまう。すると職につくにも、その近くというのが多い。若い男女をわざわざ県外へ送り出すのはいかなものか、直接は関係ないかもしれないが、とても大事な事だと思う。 ・男女合同の勉強会の開催が必要とは思いますが、具体的には思いつかない。同じ日に、職場、学校、家庭の中で「防災の日」にして訓練を試みる！などがあれば良いかも!? ・子育てをしている若い人達は、男の人達も、すごく協力していると感じます。家族はもちろん、地域での協力も、もっと必要ではないかと思っています。 ・育児休業など会社側で理解していても人数的に余裕がなければ実際休業した時、仕事が回らなかったり、他の人の負担が大きくなったりする。会社の雇用体制も改善しなくてはならないと思う。 ・義務教育の時間、TVコマーシャル、新聞のチラシ等を利用して目でわかりやすく（マンガ等）してほしい ・社会に積極的に参加する女性は、まだまだ少ないと思います。やはり女性は家庭にしがらまれるのが現実なので、なかなか難しい事だと思います。 ・男性、女性を問わず、その方の適性を見抜き育成していく教育制度が必要かと。と同時に家族の協力、理解は不可欠です。秋田、とくに田舎のお嫁さんは働き過ぎです。子育ての時期は夢中でしたが、働くのは好きですが、女の仕事と断定されている作業が多いですね。若い方は分担して生活しているようですが、2世帯以上になると、それも難しい現実（姑の理解が得られない）これから変わっていくとは感じていますが、お互いを敬い助け合い子育てと仕事に生き生きした女性が増えていってくれることを望みます。 ・男女共、仕事にかかる時間が長過ぎるので、まず各自が生き生きとできる社会にすることが必要。自分が生き生きとしていればこそ互いに思いやり、相手の意見や立場を尊重していきることだと思う。「男女平等」は互いの特性や個人の資質を大切にすることが根底にある考え方だとPRしてほしい。 ・男性の家事への意識（参加というより、女性がする物）自分もするという、あたり前という考えを持つ事が大事だと思います。（育児も同じ） ・人それぞれなので、さらに推進すべきかどうか、よくわからない。 ・大仙市DV防止基本計画と第2次大仙市男女共同参画プランの資料は見たことがないが、市民たちに配布したのですか？ ・なかなか難しい問題だと思います。行政の積極的な取り組み、周知、研修、広報活動を望みます。 ・新聞、テレビなどで事業を始めた女性の方の記事を見て、すごく頑張られていると。多くの人に知ってもらふ事だと思います。

50歳代	女性	・女性の妊娠から出産まで（つわり 重さ）出産後の子育ての大変さをもっと知ってほしい。男性は女性の大変さをまだまだ理解していない人が多い。 ・美容院（大仙市内）においても、客に対するセクハラが実際にあるので、注意や啓蒙をお願いします。具体的には、前髪をカットするので目をつぶってくださいと言われ、目を閉じている間にキスされるなどです。本当にイヤでした。でも、誰にも言えません。男女の歩みより、女性が自分らしく輝けるための講演会やセミナーなどがあるといいと思います。 ・子育てが一段落したと思ったら、親の介護が必要になり、その負担は女性にかかっていることが多く、女性は家の事という状況は死ぬまで変わらないように思います。看護に対する理解は職場では、まだまだのように思います。（上司が若いので） ・現実として、世の中が男性中心に動いているのは誰もが感じている事だと思います。政治でも御役所でも職場でも、男女比率が50：50だといいいんじゃないですか？女性の進出する事に対して「女のくせに！！」だとか「生意気だ！！」とか「出しゃばるな！！」という意識が無くなればいいと思います。偉い人の意識改革ですよ！！ ・質問の主旨が多局面の為「わからない」に✓を入れてます。又、自分のおかれている環境がこのアンケートとはかけはなれている部分があることを理解いただき集計願います。 ・これからの社会を担っていく若い世代への教育が大切だと感じます。現在は、これが平等、これが不平等と頭で行動を起こしますが、自然に心で、体で行動できる人づくりが重要だと思います。また平等と言う意味をみんな同じ事をする・させるという風に捉え、お互いの思いやりや理解不足が更に男女間に壁を作っている様な気がします。 ・意見として参考にならないと思いますが、昔から農耕民族である秋田県は特に男尊女卑の考えは男性にまだまだ根強く、女性は意見を持つてはいけなかったり、子育て、家事はすべて女性の仕事と認識していて、新しい取り組みや人権尊重の理解には、まだ力不足な年代の男性が多いと思います。ただ、男性でなければできないことも多々あり、そして、その事に敬意があることも女性として添えます。 ・自分は仕事をしていますが、どちらかというと男性の方に助けていただいているなあと感じ、感謝の気持ちが強いです。立場としては同等ですが、何かしら男性にたよってしまっているのも、もっと役に立てるよう励みたいと思いました。 ・そもそも男女には性差があり、また一人一人個々に個性や適性があると思います。一人一人が自分の個性や適性を知り、それを発揮しながら生活していけるのが理想ではないかと思います。「男女共同参画」という言葉は実のところ好きではありません。男女の別なく、一人の人間として自分の能力に合わせ就労したり家庭生活をおくれたりできるといいなと思います。そんな社会になるよう学校教育の充実を図って欲しいです。（予算など） ・親1人、子1人の2人生活で、いずれやってくる介護の面で親は施設には行けないと言っている為、私1人で仕事、家事、介護等、両立させる事は難しいと思います。私は障害があるので、この様な場合どうすればいいのか職場の上司に理解を求めます。 ・あらゆる世代の働く男女の全てが平等になるような施策を期待します。今は子育て世代ばかりに特化しすぎているような気がします。例えば、介護を担う世代（50歳以上）の支援も考えるべき。（介護保険制度ばかりに任せずに） 集計結果を報告して欲しいです。 ・性別にかかわらず、人を人として大切にしていける心をつちかえていけば、相手の立場を考える人になる。困っていたら助けたい。いい意見を出す人は尊敬したい。男だから、がまん。女だから、裏方という考え方をなくしていく。共同参画というより進化した人間関係社会になってほしい。でも、正直なところ子供が小さい頃は母親の目配り、心配りは絶対大切と思う。専業主婦でいられた自分の幸せを思うと、働く女性のつらさをさらに思いやりたい。矛盾していて、すみません。
60歳代	男性	・この地域においては、なかなか進まないと思う。機会あるごとに情報提供すること。 ・各人への尊敬、配慮 ・いろいろな問題は経済的にきびしいので解決できないと思う。もっともっと経済的に心配しなくて良い社会になってほしい。

60歳代	男性 ・このような取り組みを継続していただきたいと思います。 ・共同参画とは言っても、男が子供を産める訳はないので、男または女の性質を有効活用することが肝要と思われる。 ・特にない。「男女共同参画社会」といってもピンとこない。具体的内容、取り組み等わからない。 ・間とはピンとがずれるが、どちらか一方の収入で生計が成り立つのが理想。万が一に備え、双方のスキルアップ支援は必要。又、法整備も欠かせない。 ・特に日常的に意識として持ちながら生活をしているわけではありませんが、男女平等の世の中、もしくは世界であるべきだと思います。問22では特に学校教育や社会教育で子供のころからの教育が必要だと思います。 ・「男女共同参画社会」ネーミングが重く一般市民としては、あまり関心もてず・・・私には、活字だけの行政（むずかしすぎる）に思える。 ・市役所も職場の一つとしてお手本となるような男女平等の職場を構築してもらいたい。せっかくの調査を充分に生かして欲しいです。 ・男女協働で職場がもりあがり、明るい家庭及び仕事場であるとよい。 ・女性の活躍の目安として、女性登用が考えられているが、女性だから登用するのではなく、男女とも等しく評価し、そのうえで登用するなど、無理のない、平等な基準で共同参画を進めていくべきである。一面だけを見て無理を通すと、いずれ破綻することになる。 ・年功序列では無く男女共に能力の有る人は若くてもどんどん上に昇格させるべきだと思う。それには昇任試験を採用すべきだと思う。 ・女性が子育てを負担と感じず、生きがいを感じられる様な生活環境が整備されると良いですね。 ・年金生活に入り高齢化が進み介護や医療にお金のかかる年齢になり、介護施設などの充実に予算を使うようにしてもらいたい。これからは若い人に負担を掛ける時代になります。自分達も自己責任ある負担をしてまいりたいと思います。 ・男女が全てにおいて平等、均等と言う理念の基での共同参画社会ではなく、男性や女性の固有の特性や性別の特徴を発揮しながら男女がともに参画し、平等である社会が真の「男女共同参画社会」であると思います。 ・災害が少なく、農作物がおいしく、自然に恵まれた大仙市の魅力を全国の企業・人に粘り強く発信してもらいたい。大仙市に人を呼び込み、若者が出会える機会を増やすために。 ・今まで県や市で「男女共同参画社会」をどのように実行してきたか広報等でPRしたら関心を持つ人が増えると思う。 ・「男女共同参画社会」⇒この言葉そのものが初めて知るような老人です。この言葉を知らせ広める事が一番かと。 ・大仙市では女性の職場が多く有り、男性よりめぐまれております。けっこう発言力もあると思います。 ・各自自治会組織や職場等に合った取組を行政等主導で実施をしてみる事も対策の一つだと思います。 ・「男女共同参画社会」については、弱者に手が届く取り組みが基本と思われる。そうでなければ推進など有り得ない。しかし、昨今の情勢を鑑みるとそうとも言えない感もあり、今後の推進に不安を感じる。ブログをきっかけに話題になった待機児童問題もその一つである。この調査のように、市民の小さな声を大切にする行政（権力者）の姿勢が推進のカギと考える。 ・年長者の意識を改善する事には困難が多い。これからの時代を築いていく若者への啓発活動を積極的に進めることが大切。各町内会のリーダーに対する研修が必要。男性の前に出たがらない女性自身の意識改革も求めたい。 ・最近（全国的に）「男女共同参画」ということ自体が目的になり、その目指す社会についての議論が不足しているように思います。
------	--

60歳代	男性 ・質問が多すぎです！ ・私達団塊の世代は男が頑張って家庭を守る時代が世の中の流れでした。男も女も時代の変化に伴って楽な方に進んでいるような感じがします。結婚する事は大事な事です、生活するのに仕事大事である事をもっと深く考えないと男女共同参画社会はなりたないと思います。 ・基本的法整備等は進んでいるが、男女共同参画に対する意識はまだ低いので、学校教育で幼少期から共同意識を高めていく必要がある。女性の意識向上が大事のように感じる。 ・男が外に出て働き、生活していくための費用を得る。女の人達が心構えとして、いろいろな機関を利用しながら（幼稚園、保育園、子育て支援センター等）せめて小学校に入学する位までは、しっかりと子育てをする。私は、その事が男女不平等だとは思いません。それは人としての義務だと思っています。子育ては人間にとって最も尊い仕事だと思っています。愛情を注いで育てられた子どもは、やがて立派な社会の一員となることを信じています。外に出て働くのは、それからでも決して遅くないと。子どもが泣く社会だけはしたくありません。 ・男女共同参画のみならず、ガバナンス・コンプライアンスは企業経営者の資質が大きく影響している。企業は公器と言われるが、多くの中小企業経営者は私企業概念から抜け出せていない傾向にあるのではないかと感じる。各種組織はもとより、個人としても社会貢献性の高いステークホルダーとの関わり方を教育、再考する必要がある。 ・上に書きましたが、「女性を積極的に登用」という表現事態が女性をさげすんでいる気がします。力のある人は、男女関係なく登用することが平等、共同参画だと考えます。反対しているものではありませんが「男女共同参画」は、男性の立場についても、もっと議論する必要有と思います。偏見かもしれないが男性が女性にかなり気を遣っている社会にもなりつつあり、気になっていることは事実です。女性〇名を登用する、した、ということ事態が女性蔑視かなと思うことがあります。 ・問13. 現実には仕事は戦いの毎日。やはり男は仕事中心にいかないとクビになるのが実態。問22. 5. あまり危険な分野への進出には反対である。問23. 女性が社会でリーダーになる事には賛成である。後進国ほど女性が抑圧されている。日本は先進国なので、有能な女性ならどんどん活用されればよい。ただし弊害も有って、晩婚や生涯独身の原因にもなるような気がする。
60歳代	女性 ・1人1人の意見を尊重して前に進んで行けたらいいと思います。 ・時代にあったかたちで男女の社会をつくって行けば良いと思います。男女共同参画社会とは言ってもそれぞれの役割をわきまえて行動なり生活をしないといけなと思います。 ・職場ごと共同参画に対する取組方は違うと思います。色々なハラスメントを無くし女性も認める様な職場を作る事で、男女共同参画はおのずと出来るのではないかと常々思っております。（おりました。） ・行政、企業等で「男女共同参画社会」の推進現況を県内レベルでも、広報等でPRしてみたら・・・と思います。 ・各部落での声掛けがあればいい、交流が少ない ・能力のある人材をしっかり発掘した方がよろしいのではないかと。 ・男女共同参画社会は、かなり浸透されていると思います。一人ひとりの自覚次第であり、PRが有効と思います。 ・自分の中にある“女だから”“男だから”という考え方を変えていくことがまず一番だと思います。 ・夫の協力、職場の（夫や妻の）理解が必要で、家に帰ってからの子供の世話は（小さいと余計）大変だと思う。夫ができるのは大体きまっていて、それが毎日、何年か・・・夫の方もよほどの理解ができていないと、結局、最後は妻の手にかかると思う。だから、子供は少ないと（出生率）思う。 ・女性の方が会社でフルタイムで仕事をして子育てをすることは大変なことだと思います。男女で子育てをすることができればいいのですが、実際には難しいのですが、積極的に関わっている男性の方も平成の時代になってから増えてきているのはうれしいと思います。子育ての手助けとして、どうかおばあちゃん、おじいちゃんに頼ってほしいなあ～と思っています。 ・教育の場で意識を浸透させる

60歳代	女性 ・各自が自覚することが大事かと思う ・年配の方や地方の方で女性を下に見る傾向があると思います。小学生くらいから男女の平等をおしえた方がいいと思います。 ・私は60代です。まず、職場でも育児休業制度の見直しが必要ではないかと思います。今の世の中、若い人達が安心して働く仕事が少ないのではないのでしょうか？だから結婚しても子供を産まない人が多いのではないかと思います。このままだと人口も減ってしまい、私達世代も不安です。結婚して子供ができれば、男性も育児休暇を取って、協力して子育てして欲しいです。 ・時代、年代によって考え方に違いがあり、又、個人の考え方にも関わりがあり、非常に深く険しい道程と思いますが、各々の場面で努力が必要なことと思います。小さな社会である家庭から小さな子供のうちから教育し、身につけていくべきだと思います。時間がかかるテーマと思いますが、行動しなければ進まないことと思います。 ・男性も女性も同じ人間であること、出産時における女性の負担が大きい事をしっかり理解し、人権を尊重した上で、同じスタートラインに立ち、二人三脚で、仕事、趣味、育児、介護、文化交流等にコミュニケーションを計りながら前（将来）へ進むことが大切ではないかと思います。 ・市民や地域全体の協力があればこそ、すべて人間関係が良くないと成立しないと思います。家庭を大切に見栄を張らず行動出来たらと感じます。その時だけの握手、笑顔だけでなく信頼も大事ですよネ（真心はどんな宝石よりも美しい）好きな言葉です。 ・男性が中心になっている事項に女性が自然に参加して行って、それが普通になっていく。初めは、ぎこちない場面が多くてもやり通してみることが大切かと思います。 ・人それぞれの生き方があります。そんな中で結婚を選択せず暮らしていますが・・・自分では経済的に自立できたこと、仕事に就くために教育を受ける機会を両親が支援してくれたこと、職場では対等に意見・意思を伝えられるよう努力したこと、自分が他人にされて不快に感じたことはしない等々、振り返ると様々です。たくさん悩み難儀しました。現在は職を退きましたが、客観的に物事を捉えています。男女共に、どのような環境で育ち、考え方等してきたのか？家庭環境、教育環境、地域環境、大事です。 ・男性の意識改革をしなければ田舎では、まだ男性は何もしないものだと言われてきた30代、40代の人があるので、まだまだ時間がかかると思う。小学校の家庭科の時間でしっかりと教えてほしいと思う。高校生でも針などどうやって糸を通すかわからない人がいます。 ・秋田市から転居して1年半、男女の役割分担に旧態を望む意識が強い地域であることを強く感ずる。先ずは意識改革が必要と思う。したがって、上記8.女性～と、10.広報誌～が特に望ましいのではないかな。 ・女性蔑視をやめ女性の能力を生かせる社会にしてもらいたい。 ・男女平等の政策ではありますが、まだまだ女性は家庭や職場では弱い立場の人が多いと思います。特に家事や介護は女性の負担が大きいと思います。昔からの意識を変える様な施策をお願いします。 ・才能ある女性の為にいろいろな事業に参加・養成させていただきたい。女性の視点で様々な意見が出てくると思います。 ・市の男女共同参画の方のお話をお聞きしました。とてもすばらしい内容でした。広報誌やパンフレットなどを利用して、活動の場を広めてほしいと思います！ ・よくわかりません。現在、在宅介護をしている為、自分達の現状を守る為せいっぱい生きているので・・・他の事は深く考えられません。むしろ、介護殺人にならない為の心をいやす方法を考えて下さい。 ・7.の学校教育は大事だと思う。又、10.のパンフレット等をもとにして家庭の中でも話し合って、意識を高めれば・・・と思う。 ・男性女性という枠を外し、大きく人間と捉え、一人ひとりがもつ力を出し合い活躍できる男女共同参画社会～すばらしいと思います。ただ自分の場合、これまで生きてきて沁み着いた男性優位社会の観念が払拭できず、頭では理解していても、行動に移すのは難しいと思います。この固定観念の打破が自分には一番の課題です。でも、現在進行形で活躍している人達は抵抗なく受け入れることができているように思います。
------	--

60歳代	女性	・女性の働きやすい職場を作り、男性の理解や意識の改革をする環境作りが必要であると思う。 ・男女共同参画推進という言葉自体あまりよくわからないのですが、昔も今も変わらないような気がします。平等というけれど、まだ男社会だと思います。働く意欲があるなら女性でもどんどん発揮させることだと思うので採用してほしい。私は年ですが、若者はどう思っているのか？わかりませんが・・・・
70歳代	男性	・初めて聞かされる題材ですので、あまり良くわかりません。 ・第一に安心して子育てが出来る社会に。問22(2) 45才、子育てが終わりそうな方。そうであれば安心して子供を産めない。（職業、他が先に立ってしまう） ・高齢者の仲間入りをしてから余り興味がありません。 ・今まで男女共同参画社会、プラン等、特別に意識したことがなかったけれど、これからは社会にますます個人個人意識してもらいたいと思います。 ・個人の意志、対応を大切にし毎日の生活に反映させること。 ・男女共同参画の言葉は知っていましたが、中味を理解しておらず、これからもう少し勉強して、よりよい社会を作る様、努力して行きたいと思っています。 ・行政で進める全ての事柄は「役所目線、立場」で決められ、又、そのリーダーや立案に関わる人達は主として、役所のOBの人達で、一般平民の考え方や希望とはかけ離れたり、雰囲気が違う場合が多くあると思う。日常、あまり家から出て歩かない人達の意見や考え方を聞いて、物事を進めてほしい。 ・少子高齢化社会において男女共同参画社会の形成は大変重要と思います。特に、家庭内における事業も目立つように思います。地域における男女共同参画プランの実践計画をよろしくお願い申し上げます。 ・市民の為の行政活動、サラリーマンだけで無し。全市民を相手に考える事。人口減少を本当に考えていますか。限界集落と言われる農村の老人ばかりが。あと何年続くでしょうか？ ・本アンケートの✓点をしながら、フト考えた。「男女共同参画社会」という理想像をある政治屋が考えたプランなのだろうが、“理想郷”を追い求め○ポイント向上したと報道するのに何の意味があるのだろうか？要は、その地域・社会・職場や生活環境の中において徹底した話し合いがベースになってこそ向上？するものと考えてる。その場すらない人間同志の疎外感が拡大しつつある現状の打開策が、まず第一の本質なり。ついでに老婆心ながら記述する。何故、70才以上の者にアンケートを要求したのか？その理由も明記してほしい。それすらない行政指導の欠所に腹だたいことを少なくとも一人居ることを知るべし。まずは秋田県そのものの閉鎖性をとりのぞくことが先決。『大仙市DV防止基本計画』このプランがある、あったことすら知らない。その結果の公表も知らせずに無作為に選んだアンケート調査だろうが、何の効果も期待でき得ぬ、ただの“数値まとめ”にすぎない気がしてならない。
70歳代	女性	・年金生活者ですので、あまり関心がありませんでした。 ・もっと若い人に聞いて下さい。男女共同参画の意味がわからないのでー ・今、70才になって自分に余裕がなく（理由：自分の体調を崩したのと介護のため）出来なかった事をボランティアを出来る所があれば地域のために何か出来たらと思っています。今は元気になりました。 ・大仙市を住みやすい環境にして下さい。 ・大仙市各職場のトップを巻き込んで話し合いを持つ事や問22 No.10なども効果的と思う。 ・三世代所帯がのぞましいと思います。自分の思い通りにならないこともたくさんありますが、お互いゆずりあう心、受け止める心、思いやる心、がまんする心等々、自然に身につけていく。その中で男女それぞれやれることを協力していくことが大切だと思います。言葉だけで男女共同参画をさげんでも、基礎の家庭がしっかり出来ていないとだめだと思います。 ・今までは、男女共同参画社会について全く関心がなかったが、今回のアンケート調査により大変大切な事と感じております。現在、介護で自分の母親ではあるが、毎日言葉での葛藤でイライラ・カッカしている自分の姿が情けなく、切ない事を反省してます。

70歳代	女性	・ 広報誌でも市民のみんながわかりやすい様に。理解がしにくい事が多くあります。 ・ 自分から行事に参加する事 ・ 高齢なので早めに調査し、住みよい大仙市にしてもらいたいと考えているところです。
無回答	無回答	・ 家では75～74才、二人であるため、あまり、かんしょうしない。 ・ 自分の思い過ごしや明日のためにまず明るさをもとめ将来楽しく生きようと決心する。ここにゆとりをもって・・・ ・ 老人クラブ等、行事は旧大曲だけでなく、特に補助等は旧大曲東部、南部等分けしないで、老人クラブ等ない地にも声をかけ、皆が参加できるようにして下さい。 ・ 身近に感じる様に社会でも努力してほしい。広告、パンフレットなど、男女共同参画社会という言葉をわかりやすく説明するなど。 ・ 男女の相互理解が深まるように、働きかけてほしい。介護や子育ての面で施設などを充実させ、働きやすい環境を作ってほしい。若い人の働き場所を充実させ、人々が集まる魅力ある町づくりをしてほしい。

自由記述

問3 その他

20歳代	女性	・男性は仕事が休めない為、女性は仕事を休みやすいと思われ、仕方なく仕事を休んだり、早退したりをして行事に出るが結局は男性が役職をやる。
30歳代	男性	・男性の方ができる事が多い為しょうがない ・男性の方が、人数的に参加が多いので、女性が少なく見えるのでは？
	女性	・アパート暮らし、町内会でどんな事してるかは全く分かりません。 ・何に予算が使われたかもしらないけど。同じ夫婦の方々がいつもお酒を飲んで児童館に居るので、夫婦のどちらかが何かすれば、相方も同じ立場に勝手になれると思っていました。子供の頃から変わらない人達なので、町内の主な人達は変わらず、新しい人達には変わっていかないのだろうと思っています。町内には男女の問題は関係ないと思います。
40歳代	女性	・女のくせにと思われるふしがある。 ・自分の親達は、妻は夫の言いなりです。現在のパパ達は、子供の習い事も送迎し、病院にも連れて行ってくれている姿を見かけますよ。 ・体力仕事は男性にまかせている。 ・地域の活動と学校の活動を同じにまとめられると答えるのがむずかしい。学校はお母さん方の参加が多いし、自治会などはお父さん方が多いので。 ・行事後の反省会と言う名の飲み会の中では飲酒できる男性の方を優遇する感じになる。私が出ていったら「お父さんと呼んできて」とか言われる。 ・文化の違いで強い男性がステキと思っている人が多いのでは？家族介護するのは女性。決定するときは男性など年配の人ほど、男性が強いと思っている。強い意味がわかっていない。
50歳代	男性	・女性は会合でない所で多いに発言するが、役職にはつきたがらない。 ・男は、たださわいでるだけ
	女性	・参加したことがないのでわかりません ・老人のこだわりが強い！！ ・参加する機会がないのでわからない
60歳代	男性	・日常の活動に女性の参加が少ない（出てこない） ・男女の差別と男女の区別（性の違い）と混同している場合がみられる。
	女性	・夫婦が一緒に参加する事が少ない。 ・女性が消極的なのか協力心に欠けている。地域の行事には積極的に参加してほしい。特に公務員には地域を把握する意味でも先頭にたって参加してもらいたい。
70歳代	男性	・最近、女子も強くなってきているが何故か判らない。 ・個人より家を中心としている ・女性の参加が少ない
	女性	・男女共に行っている

問7 その他

40歳代	男性	※男ががんばっても母親にしか出来ないことがある
50歳代	男性	・女性は育児中は子育てに専念し職業は持つべきでない

問9 その他

20歳代	女性	・退職
30歳代	男性	・会社が有休もない会社だから ・現実的に無理 ・休業するとお金にならない。少しでも多く仕事をして、お金をもらいたいから。
	女性	・契約更新時に更新せず辞めた。 ・休暇がとりにくかった為、退職した。 ・妊娠を機に仕事をやめた ・アルバイトだったので対象外 ・無職だから ・引っ越したので、仕事を辞めざるを得なかった。 ・妊活中に仕事を辞めた。
40歳代	男性	・妻が専業主婦だったから
	女性	・臨時職員の為、退職させられた ・仕事をやめたから ・パートだったから ・仕事をしていなかった（専業主婦だった） ・不妊治療に専念した為、退職した。 ・同時期に主人の転勤があり、仕事をやめた。 ・当時は仕事をしていなかった ・まだ仕事についてなかった ・子供が小さいうちは働いてなかったから ・出産時、仕事をしていなかった為 ・小さいうちは自分で子育てするつもりでいたので、退職したから。 ・失業したから ・当時の上司に辞めさせられそうだった ・子どもが大きくなるまで専業主婦だった ・求職中に妊娠がわかったので、就職せずに出産しました。 ・働いていない。配偶者が自営で時間の融通がきいたから
50歳代	男性	・妻が仕事をしておらず、とる必要がなかった ・自営で家にいたので妻がおもに子育てしていたが、当然私も出来る限り子育てはした。 ・専業主婦だったから ・男だから取りづらい
	女性	・働いていなかったから ・出産前に退職したから ・専業主婦だったから ・制度がなかった ・出産を機に仕事を辞めた

50歳代	女性	・乳幼児期は無職、農業の手伝いでした。 ・妊娠後に退職した。 ・退職。育児に専念（専業主婦へ） ・専業主婦だった
60歳代	男性	・子育ての時にその制度がなかった ・そのような環境でなかった
	女性	・昭和40年代はそういうことはなかった ・そういうのは職場にない時代だった ・自営のため、考える事はなかった ・そんな制度は、自分達の時はなかった ・妻が育児に専念（無職） ・妻が無職で、親にも見てもらうことができた ・農業 ・時代的にそういう制度がなかった
70歳代	男性	・保育園と個人に頼った ・私の子育て当時は制度がまだできてなかった。 ・育児休暇は無い
	女性	・専業主婦 ・子供は2人で上の子は4年生、下の子は1年生まで自分で育てました。それ以後はアルバイト。 ・前は配偶者が仕事してたから ・知り合いに ・子育てに専念した ・農家だから無し ・仕事についていなかった

問10 その他

20歳代	男性	・企業に理解があり、取りやすくなっていればの話。
30歳代	男性	・必要な時だけ休めばいい
50歳代	男性	・取りたければ取ればいい ・時間と場合による。

問14 その他

20歳代	男性	・保育士にも家庭がある。そこもしっかり考えてもらわないと安易にチェックはされないし、したくない。子どものためにも。
	女性	・職場の人員欠員の改善 ・職場などの研修で子育て、介護、家事などの勉強する機会をつくって男性が家庭のことをやるようになるような動機づけを支援して欲しい。（国や行政、会社などで） ・経済的に苦しい為、仕事を優先している方々が多いと思うので補助金のようなものがあればいいと思う。

20歳代	女性	・ 1. 就労～短縮する←時給の場合むずかしい 2. 育児休業～環境をつくる←育休を取っても保育園に入れないから辞めなくてはならない。 3. 育児休業～充実する←お金がないと子供は作れない。足りない。子供はお金がかかる。お金が入るまでに時間がかかる。 4. 地域の～充実する←・働きたいのに保育園に入らず、収入がない。 ・ 認可以外は高い。子が病気になると預けられない。 5. 在宅～導入する←無い。 7. 子供を産んで分かった。子供の少ない原因が。現状を見てみないと分からない。男の給料、皆が公務員みたいにもらってない。社会保険に入れない。国保は高い。日給で月4日しか休まなくてももらえるのは20万ちょっと。20万でもいい方。それが当たり前。女が少し働けば税金がくる。
30歳代	男性	・ 3世代で同居する ・ 学費や保育料が安ければいい！お金がかかりすぎる。お金がないから仕事にかたよる。税金をしっかりと使って社会保障を充実させてほしい！
	女性	・ 家族の協力を得る事 ・ 保育園や児童クラブ以外にも子どもが子どもだけで気軽に集まれる場所がもっとあるといい。 ・ とにかく保育園に入れないと働けません。実際、今、保育園に入れるかわからなくて仕事に復帰できるか、クビになるかの瀬戸際です!!未満児の受け入れが少ない!!途中入園できないとか・・・働けない。 ・ 男性が家事をする事に対する他の家族の協力と理解 ・ 労働時間が定時で終われるようにする ・ 保育園に入れない（年度途中） ・ 男性（父親）が育児に関わるため、職場の理解が必要であると思う。（男は仕事をやすみにくい） ・ 女性のキャリアアップ（出産による休業をカバーできるだけのキャリアを積んでおくこと）、いつ出産するか人生設計を考えさせる教育の充実 ・ 男性も家事、育児を行う ・ 保育園の支援が必要だと思う。（子供を安心して預けられる環境）
40歳代	男性	・ 能力制にする ・ 男性の意識改革が必要。 ・ 労働賃金の値上げ ・ 男性には出来るが、女性には出来ない仕事が多い内容の職業では平等性を感じない。 ・ 1. 無駄な残業をなくす。時間単位の費用対効果率を高める。適切な必要充分な賃金を保障する。企業協力が必要。3. 保険制度を設ける。4. 幼保一体化。各自治体に任せる。5. 賃金の保障。7. 育児休業・介護休業制度長期利用後の職場復帰するためのリカバリー制度（各業界・企業が主催する）が必要不可欠。
	女性	・ 給与所得の増額 ・ 女性の賃金アップ ・ 育児休業、介護休業をとっていない人に負担がかかりすぎない職場環境づくり。 ・ 勤務地に近い保育所に預けられる社会になると、女性が安心して働けるのかなと思うことがあります。転勤、転属等、女性も異動の機会があるので、様々な事情もあるでしょうが、職場の近くに子供がいるというのも安心して働ける1つの方法になるのではないかと考えることがあります。なんとなく・・・ですが。 ・ 自分とのかっとう。やりたい事をがまんする事。制度も環境も、結局、自分が使ってどうなるかをイメージする事。できない自分を許す、心の豊かさ。 ・ 保育料をもっと安くする ・ 同僚の協力、理解

40歳代	女性	・産休、育休中に職場に代用職員を入れる ・地域や学校、市役所などの協力がほしい。
50歳代	男性	・生活するための賃金アップ（収入アップ） ・無理 ・気持ち ・それぞれの家庭の考え方、暮らし方があるので役割により分担できる相方の立場が成立する環境
	女性	・男女（夫・妻）の協力、お互いを思いやる事と、家事の供用が大切だと思う。 ・秋田県は賃金が安すぎる ・家事の分担
60歳代	男性	・中小企業経営者の意識改革もちろん役所トップ含む ・職場への理解（認識）が必要→個人の仕事に対する責任が重いため、残業が多い※結果的に個人まかせの状態 ・地方の活性化もポイントになると思う ・女性が働きたくなくても男性一人での収入では苦しいという現状も問題である。
	女性	・職場に保育スペースを設置する企業を増やしてもらう。 ・間14のことがらを恒常的に続けることによる、家庭や社会での教育と意識づくり ・家庭で日常的なことをこなすのも仕事とする。（家事）何も家から出て他の場所ですることが仕事と定義しない！家事も立派な仕事！
70歳代	男性	・女性は職場、男性も職場。昭和40年～50年に育児したから ・共に相手を必要とする

問15 その他

30歳代	男性	・スマホをいじりながら、あいさつされた
40歳代	男性	・男は酒宴の度で下ネタの話が出るもの。 ・なぜ過去5年以内ですか？時効ですか？ ・5年以内にはない。病気療養中のため。
	女性	・上司からいやがらせを受けています。自分がした事でもないのに、私のせいにする。「私物を置くな」と私に言ったが、他の人には言わない。上司が気に入っている人にだけ優しくする。私にはきつくあたる。私の会社では5月末、6月末に1人ずつ辞めました。やはり、上になっている人が悪いからでは・・・。「N」という上司。女の人です。
50歳代	男性	・特に目立った事を見ない
	女性	・5年以内では、なしですが、昔はいろいろありました。（結婚当初） ・年齢に関して「昔、女だった人」と言われた ・ありもない事で、いやがらせをうけた。 ・今でも時々フラッシュバックする
60歳代	男性	・暴言 ・5年以上前に退職している ・気にしたことがない ・独身者に対する結婚のすすめ等

60歳代	女性	・ さわらせる！やらせる！みたいなこと。 ・ 自営業だから ・ アルバイトのくせにという嫌み ・ 個人差があるのでは？（考え方、感じ方）
------	----	---

問16 その他

20歳代	男性	・ 混ぜて集計してよいのでしょうか。 ・ 自分で判断せず、周りに話す
	女性	・ 笑って誤魔化す ・ セクハラについての質問が少なすぎるのは、大仙市がセクハラについて重要に思っていないからではないのか？ ・ 変に騒ぐと逆上させてしまうので笑顔で話に参加した。相手に合わせると満足して終わりやすい。ヒートアップしたら適当に受け流す。 ・ セクシャル・ハラスメントに相当するか判断できなかった。 ・ 気にしてたら仕事できない。かわす方法を身に付ける！！
30歳代	男性	・ 男しかいない所で考える意味がない
	女性	・ 老人介護の1つと思いガマン又は、軽くうけながす ・ こんなものかと思わざるを得ない雰囲気。“事なかれ主義”と言われれば、それまで。
40歳代	男性	・ 上司、先生に相談しても無理。自分の保身のためにかくされる ・ セクシャル・ハラスメントの範囲が広すぎる。露骨さと、その時による。 ・ 他人事にせず、気付いたら即対応すること。
	女性	・ 個人感覚で何とも思わない人もいれば、ちょっとした事でもそう思う人もいるので、具体的にどうしていいか良くわからない。 ・ がまんする ・ 弁護士 ・ 5. 相談窓口は大きな会社にしかないのでは？ ・ 相談ではなく、上司に抗議する。
50歳代	男性	・ 適任者に相談し、白黒をはっきりさせる。
	女性	・ その場を離れる ・ 心の病との戦い、悩む毎日、けど、どうにか生きてる……。何度も死を考えた。（それは今でも時々ある） ・ 回りが聞いていて注意したがやめなかった ・ ソーシャルワーカーに相談した
60歳代	男性	・ 私なら直接本人に注意します。 ・ 傍観していた ・ 相談窓口に通報し、対応策をとる→できるだけ解決できるようにしている ・ セクハラされたら親や上司に相談する ・ 上部に報告する。上司に相談。 ・ 不用意な発言をした者へ注意する ・ 同僚と非難はするが、どうしようもない事とあきらめてしまう。助平は直らないだろう

60歳代	女性	・ 夫や友達に話して終り。
70歳代	男性	・ その場での責任者に一応声を掛ける

問18 その他

40歳代	男性	・ 話し合いで解決した
	女性	・ 我慢している
50歳代	男性	・ 必要がなかった
	女性	・ 離婚した
60歳代	女性	・ 自分でガマンした。無口になった。
		・ 相談する程ひどくない
		・ 実家や姉達に聞いてもらった
70歳代	女性	・ 誰にも相談しない

問19 その他

10歳代	女性	・ 相手に抗議し納得したので相談の必要性を感じなかった
20歳代	男性	・ 相談してもなおらないと考える
		・ 自分も悪かった

問20 その他

20歳代	女性	・ 病院 ・ 母が悩んでいた時に、そんな所はなかったし、誰も味方になってくれなかった。今でも、ずっと尾を引いている。もちろん、娘の私にもいろいろ言われる。誰も何も知らないくせに。
30歳代	男性	・ 調べたことがなかった ・ 生活が苦しく、興味をもつ暇がない
	女性	・ 窓口として知っていなくても、とりあえず市役所か警察署には電話すると思う。
40歳代	男性	・ 知らない。その時に調べる。（インターネット、スマホ） ・ 弁護士・法曹関係者の友人。
	女性	・ 今までないので分からない ・ 裁判所 ・ 1. 秋田県～センター←たまに女性トイレに貼っているので見た事がある。
50歳代	男性	・ 家族に相談
	女性	・ ハーモニー相談室はどこですか？ ・ 保健センターかと思っていたが、たくさんあるということですね。 ・ 保健所、市役所
60歳代	男性	・ 人権擁護委員 ・ 本当に心から時間をかけて相談を出来る所の人がいるとは思わなかった。相談が出来る所の人たちも仕事であるから、人事異動で何年後に変わっていくから。 ・ 知っているところはなかった。 ・ 大仙警察署「心配ごと相談」 ・ 気にしたことがない
	女性	・ まずは警察にいくと思うが・・

60歳代	女性	・口けんかぐらいで考えた事がない
70歳代	男性	・法律を厳しくする
	女性	・友人に

問21 その他

20歳代	女性	・育児をしなければならない人に対して（特に職場で）フォローなど心がける。 ・「男女共同参画」がどのようなものなのか説明もなく、このような質問をすることがおかしいと思う。 ・差別意識を無くす。ネット上では女性への見下しが多い。→それを現実生活に持ち込む人も確かにいるので。 ・男女は、もともと平等でない。（体のつくりとか）なので、平等にする必要はない。欧米のマネをして、なんでもかんでも取り入れる必要はない。
30歳代	男性	・お互いに出来ることをやる ・質問の内容がわからない。男女共同参画がわからないから ・自分の時間をたくさん作り、ストレスをためないような暮らしがしたい。楽しいはずの結婚生活も共働きだと休みも時間もバラバラで、ゆっくり話すどころか顔を合わせる暇もない。こんな状態で子供が良い子に育つ訳がない。朝はご飯は食べていない。昼は外食。夜は惣菜。母の味なんて、わかる訳がない。夫婦は→お金をかせぐ同志になって、疲れて寝る為にもどってくるだけの家、なにが楽しいか？
	女性	・若い世代でなく、親世代の“自分たちはこうだった”的な風潮を変えていく。
40歳代	男性	・協力者との相談 ・生活する事で手いっぱい、経済的に余裕をもちたい。
	女性	・性差をを考慮し、無理せず地道に取り組み、次世代へつなげてゆく ・男女共同参画推進の意味が分からない ・子どもへの教育 ・☒ 3. 経済的に自立する←無理だと思うが・・・
50歳代	男性	・特に考えた事が無い ・家族全員が健康であること ・人生楽しく
	女性	・男女共同参画の意味がわからん ・当然の権利を行使する時も、周囲への感謝や気づかいをすべきだし、一方のまわりも女の敵は女とならないよう、年配の方々もあたたかく支える雰囲気を作ること。男性の柔軟な対応を引き出すためにも、よく話し合う、現実を知ってもらう。
60歳代	男性	・配偶者が欲しいです。 ・一人生活者のため関係ありません。 ・男女共同参画がわからない ・研修を深める
	女性	・人間のいきかた ・社会情勢の変化に関心を持ち、自分なりの考えをもって生活する。

問22 その他

20歳代	女性	・8. 情報提供や交流の場、相談、教育などのセンター←こんなのあったって受け身なだけじゃん。こなきゃできないじゃん。 10. 広報誌やパンフレット←読まないよ 11. お金がある人が上に立っても何もわからないよ。現状をみてほしい。何が必要かわかっていなさすぎる。
30歳代	男性	・男女平等という言葉・制度を理解出来ない（しようとしな）頭が悪い人間をどうにかする ・そもそも男女平等 ・男性の育児休暇を取りやすくする。男性が育児参加する風潮を推進する。 ・どのような事をしても変わろうとしないため変わらないと思う ・学費がかからないようにして、奨学金に頼らなくても大学に行けるようなことに・・・そうなれば皆、平等に生活できる。税金上がる→お金かかる→仕事ずくめ→家族の会話ない。会話があっても金で結局ケンカになる。→離婚→人生終わる。
	女性	・保育園の待機をなくす!! ・育休中の賃金の支払いをもう少し増やしてほしい。育休を取りたくても父親の給与だけでは生活できない事情もある。 ・男女共同参画について、役職のある男性（40代以上等）への研修等のはたらきかけ ・知人の保育士さんは自分の働く保育園へ復帰する為に、他の保育園へ預けて働いていました。バリバリに働いている人は、出産の為に休みが出来ず、出産をあきらめていて、働きたい人は預け先がなく、復帰出来ずにいます。 ・全国ネットのTV等のマスメディアの考えは田舎には合っていないと、浸透していかない。60代、70代の協力なしには、子育て環境も整わない部分もあるので、もっと地域の具体例を出して欲しい。（ex）～○○さんちの一日～・パパ出勤（7:00）・ママ、子どもを保育園へ→出勤（8:00）～・pm4:00パパ、孫の迎え。・pm5:00ママ、帰宅。夕飯の仕度。その間、ジジ、パパが孫をお風呂へ。・pm6:00夕食 今の60代・70代は若い!!孫のためにも、もうひと踏ん張りして欲しい。
40歳代	女性	・問22の10のような事はムダ使いだと思います。 ・地域全体で子育てに取り組めるようなしくみづくり、あずかりさんや、母親のみ孤立してしまわないような大きな横のつながりを作る。 ・産休、育休の間の代用職員の配置推進 ・決めたことに本気で取り組む。 若者流出の防止!→その取り組みをわかってもらいようにアピールも大事かと。 ・8. 女性の～充実する←宣伝が足りない、なきに等しい。9. 各国へ推進する←まだ早い。まず先にやる事があるのでは? 11. 年配の人がいるかぎり無理 ・古くさい考えをやめる。
50歳代	男性	・我田引水とはいわないけれど自分の都合のいいように誰でもしがります。義務を強化する方針を強く打ち出すことが必要。メリハリをわかりやすくすべき。助ける。これ以上はダメぐらいははっきりしないと。助けられる方だって甘えがでます。自分でだって歩こうとしない人も大勢います。自助努力。 ・就業先の拡大、充実 ・周りの理解
	女性	・男性の考え方が変わらない限りムダだと思う。女性が進出してもつぶしにかかる。
60歳代	男性	・経済的に心配しなくてもいい社会を作してほしい ・女性を女性を・・・と記していますが、この記し方そのものが男女平等の面からすると疑問です。 ・NHKの連続朝ドラマで、仕事で成功して有名になった女性を見て感動している。広岡浅子「あさがきた」等。それまでは女性はあくまで「内助の功」としか考えられなかった。
70歳代	男性	・環境を整える。（企業への指導、地域活動でのPRなど含む）

問11 その他

施設	20 人
子・孫・孫の配偶者	14 人
自分	9 人
全員（家族・子）	8 人
いない	6 人
介護士・ホームヘルパー・福祉事業者	6 人
母親・両親・父母	6 人
決まっていない・わからない	5 人
兄弟・姉妹	4 人
家族	3 人
施設入居中	3 人
親族（めい、甥）	3 人
介護は終わりました・両親共に死亡	2 人
公共福祉	1 人
孫・病院・介護士	1 人
本人	1 人
分担できると思う	1 人

IV 調査票

大仙市男女共同参画に関する市民意識調査

ご協力をお願い

市民のみなさまからは、日ごろより市政に対してご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

市では、男女が互いに人権を尊重し、それぞれの個性と能力を十分に発揮できる“ともに輝く男女共同参画のまち大仙市”を目指して取り組みを進めています。

このたび、市民のみなさまの男女共同参画に関する意識や家庭・地域・職場などにおける実態を把握することを目的として『大仙市男女共同参画に関する市民意識調査』を実施することといたしました。

提出いただきました調査票は、大仙市個人情報保護条例を遵守し、男女共同参画に関わる施策を効果的に推進していくための資料としてのみ活用させていただきます。

市民のみなさまには、お手数をおかけ致しますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成28年7月

大仙市長 栗林 次美

調査票のご記入にあたって

- ◆ この調査票は、あて名のご本人が記入してください。
お名前を書いていただく必要はありません。
- ◆ この調査は、平成28年7月1日現在で回答してください。
- ◆ ご記入は黒の鉛筆またはボールペンでお願いします。
- ◆ 回答は、あてはまる回答の口の枠内にしを記入し、☒の形になる方法でお願いします。回答数は、各設問に（1つだけに☒）、（いくつでも☒）などと指定してありますので、それらに従って回答してください。
- ◆ ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、**7月15日（金）まで**に郵便ポストに投函してください。

【問い合わせ先】

〒014-0027 大仙市大曲通町8番36号（Anbee 大曲2階）
大仙市市民活動交流拠点センター内
大仙市 企画部 男女共同参画推進室 TEL 0187-88-8039

大仙市男女共同参画に関する市民意識調査

はじめに、あなたご自身のことについてお聞きします。それぞれの項目ごとに、該当する番号に
☑をつけてください。

①性 別	☐ 1. 男性 ☐ 2. 女性
②年 齢 (7月1日現在)	☐ 1. 20～29歳 ☐ 2. 30～39歳 ☐ 3. 40～49歳 ☐ 4. 50～59歳 ☐ 5. 60～69歳 ☐ 6. 70歳以上
③結 婚	☐ 1. 結婚している ☐ 2. 結婚していないがパートナーと暮らしている ☐ 3. 結婚していたが、離別または死別した ☐ 4. 結婚していない
④夫婦の働き方	③結婚で「1. 結婚している」「2. 結婚していないがパートナーと暮らしている」を選んだ人のみ回答してください。 ☐ 1. 共働き ☐ 2. 夫（男性）のみ就業 ☐ 3. 妻（女性）のみ就業 ☐ 4. その他
⑤家族構成	☐ 1. 一人暮らし ☐ 2. 夫婦のみ ☐ 3. 二世帯同居（親と子） ☐ 4. 三世帯同居（親・子・孫） ☐ 5. その他
⑥職 業	☐ 1. 自営業 (農林漁業・商工サービス業・自由業等、家族従事者を含む) ☐ 2. フルタイム（常勤）の勤務 (企業・団体等の役員を含む) ☐ 3. パートタイムの勤務 (アルバイト、嘱託その他) ☐ 4. 無職 (主婦・主夫、学生、年金生活者、その他の無職)

I 男女平等に関する意識について

問1 あなたは、男女共同参画に関する言葉を知っていますか。

(☑はそれぞれ1つずつ)

	1	2	3
	言葉も内容も知っている	言葉は知っているが内容は知らない	言葉も内容も知らない
(記入例)	☐ 1	☒ 2	☐ 3
① 男女共同参画社会基本法	☐ 1	☐ 2	☐ 3
② 大仙市男女共同参画推進条例	☐ 1	☐ 2	☐ 3
③ 大仙市男女共同参画プラン	☐ 1	☐ 2	☐ 3
④ 大仙市DV防止基本計画	☐ 1	☐ 2	☐ 3
⑤ 女子差別撤廃条約	☐ 1	☐ 2	☐ 3
⑥ 男女雇用機会均等法	☐ 1	☐ 2	☐ 3
⑦ 育児・介護休業法	☐ 1	☐ 2	☐ 3
⑧ DV防止法	☐ 1	☐ 2	☐ 3
⑨ ストーカー規制法	☐ 1	☐ 2	☐ 3
⑩ ワーク・ライフ・バランス	☐ 1	☐ 2	☐ 3
⑪ ポジティブ・アクション	☐ 1	☐ 2	☐ 3
⑫ ジェンダー	☐ 1	☐ 2	☐ 3
⑬ セクシャル・ハラスメント	☐ 1	☐ 2	☐ 3
⑭ マタニティ・ハラスメント	☐ 1	☐ 2	☐ 3
⑮ デートDV	☐ 1	☐ 2	☐ 3
⑯ 女性活躍推進法	☐ 1	☐ 2	☐ 3

(☒はそれぞれ1つずつ)

問3 地域の活動（自治会、町内会、PTAなど）で、男女の役割分担などについて次のように感じたことがありますか。（いくつでも☒)

86

Ⅱ 家庭生活、育児、介護について

問4 あなたの一日における時間の使い方をお尋ねします。平日は①から⑤、休日は②から⑤のそれぞれの時間について、どのくらい使っていますか。30分単位で記入してください。

(たとえば、「1時間30分」の場合は「1.5」とご記入ください)

	1		2	
	平 日		休 日	
(記入例)	1.5	時間	3.0	時間
① 収入を得ている労務の時間 (通勤時間を含む)		時間		
② 家事の時間 (炊事・洗濯・掃除・買物など)		時間		
③ 育児の時間		時間		時間
④ 介護の時間		時間		時間
⑤ 余暇の時間 (新聞・テレビ・休養・趣味・社会活動など) ※睡眠や食事の時間を除きます		時間		時間

問5 あなたは、次のような考え方について、どう思いますか。①②のそれぞれについて、あなたの考えに近い番号を1から5の中から選んで☑をつけてください。

(☑はそれぞれ1つずつ)

	1	2	3	4	5
	賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反対	わ か ら な い
(記入例)	☐ 1	☐ 2	☒ 3	☐ 4	☐ 5
①「男は仕事、女は家庭」という考え方	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
②「結婚をしても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5

問6 あなたの理想の（もちたいと思う）子どもの数は何人ですか。また、あなたは実際には生涯に何人子どもを持つつもりですか（持ちましたか）。（☑はそれぞれ1つずつ）

	1	2	3	4	5
	0人	1人	2人	3人以上	わからない
(記入例)	☐ 1	☐ 2	☒ 3	☐ 4	☐ 5
① あなたの理想の（もちたいと思う）子どもの数	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
② 実際に持つつもりの子どもの数 （実際に持った子どもの数）	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5

問7 あなたは、子育てと仕事についてどのように考えていますか。（1つだけに☑）

- ☐ 1. 子育ては女性の仕事だから、女性は職業を持たずに子育てに専念する
- ☐ 2. 女性は育児休暇制度などを活用し、乳児期は子育てに専念し、それ以降は子育てと仕事を両立させる
- ☐ 3. 子育ては女性中心で男性はできるだけ協力し、女性を働きやすくする
- ☐ 4. 子育ては女性にも男性にも重要なことだから、男女ほぼ等しく関わる
- ☐ 5. わからない

《子どもがいる方にお聞きします。》 子どもがいない方は次ページ問10へ

問8 あなたは育児休暇を取りましたか。(1つだけに☑)

☐ 1. 取った ☐ 2. 取らなかった

問9 問8で「2. 取らなかった」と答えた方にお聞きします。

取らなかった理由は何ですか。（1 つだけに☑）

☐ 1. 配偶者（パートナー）が取ったから

☐ 2. 休暇がとりにくい職場の雰囲気（環境）だったから

☐ 3. 勤務先では育児休業の制度がなかったから

☐ 4. 必要がなかったから（親に見てもらうなど）

☐ 5. 休業すると、その間収入が減るから

☐ 6. 復帰後、昇給（昇格）への不安や、仕事についていけるかなどの不安があったから

☐ 7. その他（具体的に： _____ ）

《全員の方にお聞きします。》

問10 育児休業は男性も取ることができます。職場で男性が取ることについてどう思われますか。

(☑はそれぞれ1つずつ)

- | | |
|---|---|
| ☐ 1. 男性も育児休業を取った方がよい | ☐ 2. 男性は育児休業を取る必要がない |
| ☐ 3. どちらともいえない | |

問11 あなたの家庭では、高齢者介護の担い手は誰ですか。現在介護を受ける人がいない場合は将来誰が中心になると思いますか。介護を受ける人から見た続柄で回答してください。

(いくつでも☑)

- | | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|
| ☐ 1. 配偶者 | ☐ 2. 息子 | ☐ 3. 息子の配偶者 |
| ☐ 4. 娘 | ☐ 5. 娘の配偶者 | ☐ 6. その他 () |

Ⅲ 仕事について

《現在、働いている方全員にお聞きします。》 働いていない方は次ページ問13へ

問12 次の①～⑧について、職場の実態またはあなたの感じ方に近いものを1～4の中から選んで☑をつけてください。(☑はそれぞれ1つずつ)

	1	2	3	4
	そう 思う	そう ち ら か と い え ば	そう ち ら か と い え ば	わ か ら な い
(記入例)	☐ 1	☒ 2	☐ 3	☐ 4
① 採用や退職について、男女に差がなくなっている	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
② 仕事の分担は、男女関係なく個人の適性に応じた形になっている	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
③ 同じ仕事の場合、男女同じように昇給・昇格している	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
④ 男女は、同じように研修や訓練を受けている	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
⑤ 育児休業制度が活用されるなど、妊娠・出産・育児などを支える制度、雰囲気がある	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
⑥ 女性は責任が重くなるのを敬遠しているように思われる	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
⑦ 女性も管理職に就いて、経営方針や企画に積極的に関わっている	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
⑧ 出産などにより、一旦退職した女性が同じ職場に再雇用されている	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4

Ⅳ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問13 仕事と家庭生活等について、あなたが望ましいと思うのはどれですか。また、あなたご自身の実際の生活はいかがですか。（☑はそれぞれ1つずつ）

	1	2	3	4	5
	仕事を中心にする	家庭生活等にも携わるが、あくまで仕事を優先する	家庭生活等と仕事を同じように両立させる	仕事に携わるが、家庭生活等を優先させる	家庭生活を中心にする
(記入例)	☐ 1	☐ 2	☒ 3	☐ 4	☐ 5
① 望ましい男性のあり方	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
② 望ましい女性のあり方	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
③ あなたの実際の生活	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5

問14 男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。（いくつでも☑）

- ☐ 1. 就業労働時間を短縮する
- ☐ 2. 育児休業・介護休業制度を取得しやすい環境をつくる
- ☐ 3. 育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する
- ☐ 4. 地域の保育施設や保育時間の延長など保育制度を充実する
- ☐ 5. 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する
- ☐ 6. 女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力
- ☐ 7. その他（具体的に： ）
- ☐ 8. わからない

V セクシュアル・ハラスメントについて

問15 あなたは、過去5年以内に職場（アルバイトも含む）や学校、地域の会合などで次のようなセクシュアル・ハラスメント（性的ないやがらせ）をされたり、見たりした経験がありますか。（いくつでも☑）

- ☐ 1. 服装や髪形に対する干渉
 - ☐ 2. 顔や体型などの容姿に対するからかい
 - ☐ 3. 男（女）のくせにという嫌み
 - ☐ 4. でしゃばると言われる
 - ☐ 5. 性の話や冗談（猥談）
 - ☐ 6. 酒宴の席でのお酌や接待の強要
 - ☐ 7. 身体への不必要な接触
 - ☐ 8. 職場（学校）の地位を利用した交際の強要
 - ☐ 9. その他（具体的に： _____ ）
 - ☐ 10. 経験がない
 - ☐ 11. 何がセクシュアル・ハラスメントかわからない

問16 セクシュアル・ハラスメントをされたり、見たりした時、あなたはどうしましたか。
(経験の無い方は「どうするか」に置きかえて考えてください。)(いくつでも☑)

- ☐ 1. 相手に直接抗議した

☐ 2. 上司、先生に相談した

☐ 3. 同僚や友人に相談した

☐ 4. 家族・親戚に相談した

☐ 5. 職場・学校内の相談窓口に相談した

☐ 6. 職場・学校外の専門機関に相談した

☐ 7. 誰にも話（相談）していない

☐ 8. 誰に（どこに）相談すればよいか分からなかった

☐ 9. その他（具体的に： _____）

問19 問18で「1. どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。

相談しなかった理由はどんなことですか。（いくつでも☑）

- ☐ 1. どこ（だれ）に相談したらよいのかわからなかった
- ☐ 2. 恥ずかしくてだれにも言えなかった
- ☐ 3. 相談してもむだだと思った
- ☐ 4. 相談したことがわかると、仕返しされたり、もっとひどい暴力を受けると思った
- ☐ 5. 加害者に「誰にも言うな」とおどされた
- ☐ 6. 相談した相手にいやなことを言われたり、不快な思いをさせられるかもしれないと思った
- ☐ 7. 自分ががまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った
- ☐ 8. 世間体が悪いと思った
- ☐ 9. 自分たち以外の人を巻き込みたくなかった
- ☐ 10. 知人や友人などに知られると、これまで通りのつきあい（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思った
- ☐ 11. そのことについて考えたくない、思い出したくなかった
- ☐ 12. 自分にも悪いところがあると思った
- ☐ 13. 相手の行為は愛情の表現だと思った
- ☐ 14. 相談するほどのことではないと思った
- ☐ 15. その他（具体的に： _____）

《全員の方にお聞きします》

問20 配偶者や交際相手との間で、相手から暴力を受けたときに相談できる窓口としてどのようなところを知っていますか。（いくつでも☑）

- ☐ 1. 秋田県配偶者暴力相談支援センター（女性ダイヤル相談DVホットライン）
- ☐ 2. 南福祉事務所
- ☐ 3. 中央男女共同参画センター（ハーモニー相談室）
- ☐ 4. 秋田県警察本部（レディース電話110番）
- ☐ 5. 秋田地方法務局（女性の人権ホットライン、子どもの人権110番）
- ☐ 6. 大仙市役所（子ども支援課、男女共同参画推進室）
- ☐ 7. その他（具体的に： _____）
- ☐ 8. 知っているところはない

Ⅶ 男女共同参画社会実現に向けての取り組みについて

問21 男女共同参画を推進するために、あなた自身ができること、又はしなければならないことはどのようなことと思いますか。（いくつでも☑）

- ☐ 1. 仕事、家事、育児などを配偶者（パートナー）とともに担う
 - ☐ 2. 社会活動、地域活動などを配偶者（パートナー）とともに担う
 - ☐ 3. 経済的に自立する
 - ☐ 4. 自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する
 - ☐ 5. 仕事と生活の時間のバランスをうまく取る
 - ☐ 6. 社会の一員としての自覚と責任を持つ
 - ☐ 7. 育児・介護休業の必要な場合など配偶者（パートナー）と相談の上取得する
 - ☐ 8. 人権・平等についての理解を深めるよう努める
 - ☐ 9. 配偶者（パートナー）とのコミュニケーションを深める
 - ☐ 10. その他（具体的に： _____）

問２２ 「男女共同参画社会」を形成していくため、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（いくつでも☑）

- ☐ 1. 法律や制度の面で見直しを行う
 - ☐ 2. 女性を政策決定の場に積極的に登用する
 - ☐ 3. 各種団体の女性リーダーを養成する
 - ☐ 4. 職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底する
 - ☐ 5. 女性の働く場や機会を増やし、従来女性の就労が少なかった分野などへの女性の進出を促すため、職業教育や職業訓練を充実する
 - ☐ 6. 子育てや高齢者のための施設やサービスを充実する
 - ☐ 7. 学校教育や社会教育・生涯教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
 - ☐ 8. 女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などのセンターを充実する
 - ☐ 9. 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する
 - ☐ 10. 広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする
 - ☐ 11. その他（具体的に： ）
 - ☐ 12. 特にない
 - ☐ 13. わからない

問 23 「男女共同参画社会」をさらに推進していくためのご意見をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

この調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、7月15日（金）までに、郵便ポストに投函してください。

大仙市男女共同参画に関する市民意識調査報告書

平成29年3月発行

大仙市 企画部 男女共同参画推進室

〒014-0027 大仙市大曲通町8番36号（Anbee大曲2階）

大仙市市民活動交流拠点センター内

TEL 0187-88-8039・FAX 0187-62-3177